YAMAHA

J

DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX3900



取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 **警告**　この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

 **注意**　この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

 警告

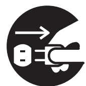
電源/電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。

● 浴室・台所・海岸・水辺
● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には:

● 布やテーブルクロスをかけない。
● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
● 仰向けや横倒しには設置しない。
● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意



放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

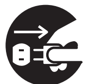
⚠ 注意

電源/電源コード



必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池



電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置



必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。

重いので、けがの原因になります。



不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



他の電気製品を本機の上に置かない。

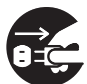
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。

工事には、技術と経験が必要です。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意



再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。



音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ



手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。



薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

もくじ

はじめに

準備

基本操作

応用操作

その他の情報

付録

「ⒶMASTER ON ／ OFF」や「③DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または本書巻末をご覧ください。

セットメニューでできること

セットメニューでは、リスニング環境に応じてさまざまな設定を変更できます。以下は、セットメニューで調節できる便利なメニューを記載しています。各メニューについて詳しくは、「セットメニューで設定する」（68 ページ）をご覧ください。

スピーカーを設定する

自動測定によるスピーカー設定がリスニング環境に適していない場合、以下の項目を手動で調節できます。

設定 → スピーカーの設定（79 ページ）

ミュート時の音量を設定する

テレビを視聴中に電話がかかってきたときなど、完全に音を消したくない場合に、下げる音量を設定できます。

設定 → 音量の設定 → ミューティング量
（82 ページ）

音量の初期値を設定する

入力ソースに記録されている音量にかかわらず、電源をオンにしたときの音量を設定できます。

設定 → 音量の設定 → 音量の初期値（82 ページ）

ダイナミックレンジを設定する

最小音量と最大音量の幅をダイナミックレンジといいます。ダイナミックレンジが広くなるほど、ビットストリーム音声信号を正確に再生します。スピーカー再生用とヘッドホン再生用で個別に設定できます。また、本機の音量とダイナミックレンジを連動して調節できるアダプティブダイナミックレンジコントロール機能も利用できます。

設定 → 音の設定 → ダイナミックレンジ
（82 ページ）
設定 → 音量の設定 →Adaptive DRC
（81 ページ）

音声と映像のずれを補正する

接続機器により、映像が音声よりも遅れて再生されることがあります。映像と音声の出力タイミング補正機能を持つ映像機器を本機と HDMI 接続している場合、出力タイミングを自動的に補正できます。

設定 → 音の設定 → リップシンク
（84 ページ）

入出力端子の割り当てを変更する

初期設定で各端子に割り当てられている機器とは異なる機器を接続する場合に端子の割り当てを変更できます。フロントパネルディスプレイやモニター画面に表示される入力ソース名も変更できます。

設定 → その他の設定 → 端子の割り当て
（89 ページ）
設定 → その他の設定 → 入力名変更（89 ページ）

入力ソース間の音量差を補正する

入力ソースを変更したときに音量が変化する場合に、ソースごとに音量を調節できます。

入力選択 →（入力ソース）→（サブメニュー）→
再生レベル補正（78 ページ）

マルチチャンネル入力のバックグラウンドビデオを設定する

MULTI CH INPUT 端子に入力した音声を映像と一緒に楽しみたい場合に映像ソースを設定します。たとえば、アナログマルチチャンネル入力端子を持つ機器の音声を聴きながら DVD の映像を楽しむには、「DVD」に設定します。

入力選択→マルチCH入力→（サブメニュー）→映像選択（79ページ）

フロントパネルディスプレイの明るさを調節する

フロントパネルディスプレイの明るさを暗くしたり明るくしたりすることができます。

設定 → その他の設定 → 表示設定 → 本体表示器の設定 → 本体表示器の明るさ（89 ページ）

ショートメッセージ表示をオン／オフする

フロントパネルやリモコンキーで本機を操作するとモニター画面にショートメッセージを表示します。表示をオフにしたい場合は「表示しない」に設定してください（初期設定：表示する）。

設定 → その他の設定 → 表示設定 →
ショートメッセージ（89 ページ）

モニター画面の表示時間を設定する

モニターに再生情報画面を表示する時間を設定します。

設定 → その他の設定 → 表示設定 →
再生情報表示（90 ページ）

設定値を保護する

音場パラメーターなどの設定を変更した場合に、誤操作による設定値の変更を防止できます。

設定 → その他の設定 → 設定の保護（89 ページ）

本機の特長

高音質ハイパワー 7 チャンネルアンプ

◆ 定格出力（6Ω、20 Hz ～ 20 kHz、歪率 0.06%）
フロント：140 W + 140 W
センター：140 W
サラウンド：140 W + 140 W
サラウンドバック：140 W + 140 W

入出力端子

◆ HDMI（入力× 4、出力× 2）、D5 ビデオ（入力× 3、出力× 1）、コンポーネントビデオ（入力× 3、出力× 1）、S ビデオ（入力× 6、出力× 3）、コンポジットビデオ（入力× 6、出力× 3）、同軸デジタル（入力× 3）、光デジタル（入力× 5、出力× 2）、アナログ（入力× 10、出力× 3）、USB × 1
◆ スピーカー端子（7 チャンネル）、プリアウト端子（7 チャンネル）、サブウーファー端子、プレゼンススピーカー端子
◆ アナログマルチチャンネル入力端子（6 ／ 8 チャンネル）

音場プログラム

◆ ヤマハ独自の音場技術
◆ CINEMA DSP 3D
◆ コンプレストミュージック・エンハンサー
◆ バーチャルシネマ DSP
◆ サイレントシネマ

多彩なデコーダー

◆ Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus
◆ DTS-HD マスターオーディオ、
DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ
◆ Dolby Digital ／ Dolby Digital EX
◆ DTS ／ DTS-ES Matrix 6.1、Discrete 6.1、
DTS 96/24
◆ Dolby Pro Logic ／ Dolby Pro Logic II ／
Dolby Pro Logic IIx
◆ DTS NEO:6
◆ SRS Circle Surround II
◆ AAC

高機能 FM ／ AM チューナー

◆ 40 局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局

HDMI™（High-Definition Multimedia Interface）

◆ フルハイビジョン映像をマルチチャンネルデジタル音声と一緒に楽しめる HDMI（v1.3a、Deep Color、x.v.Color™ 対応）インターフェース（1080p 映像信号の伝送にも対応）
－ 映像と音声のずれ補正機能（リップシンク）
－ ディープカラー映像信号（30 ／ 36bit）対応
－ x.v.Color™ 映像信号対応
－ ハイビジョン映像対応
－ 高品質デジタル音声フォーマット対応
◆ HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）準拠
◆ アナログ映像入力信号を HDMI デジタル映像信号へ変換してモニター出力できるビデオコンバージョン機能（コンポジットビデオ⇔ S ビデオ⇔コンポーネントビデオ→ HDMI）
◆ アナログ／ HDMI 入力→ HDMI 出力時の解像度変換機能：480i → 480p ／ 720p ／ 1080i ／ 1080p、
480p → 720p ／ 1080i ／ 1080p、
720p → 1080i ／ 1080p、
1080i → 720p ／ 1080p
◆ 本機と HDMI 接続したテレビのリモコンで本機を操作できる、HDMI コントロール機能に対応

DOCK 端子

◆ ヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-11 など）や Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）を接続できる DOCK 端子を装備

USB ／ NETWORK 端子

◆ USB デバイスを接続できる USB 端子を装備
◆ LAN 経由でパソコンを接続したりインターネットにアクセスしたりすることができる NETWORK 端子を装備
◆ DHCP を使った自動／手動ネットワーク設定
◆ Web ブラウザーを利用した本機の操作

スピーカー自動設定機能

◆ 視聴空間自動最適化システム「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）
◆ 複数のリスニングポジションに対応できるマルチ測定機能
◆ パラメトリックイコライザー選択機能

その他

◆ 192kHz、24bit の D ／ A コンバーター
◆ 視聴環境に合わせて各種設定をモニターを見ながら変更できるメニュー画面表示機能
◆ iPod や USB デバイス、インターネットラジオなどを簡単に再生できるミュージックコンテンツメニュー
◆ すべてのソースを高音質で再生できるピュアダイレクトモード
◆ 音量とダイナミックレンジの連動機能
（Adaptive DRC）
◆ 音量と DSP 効果レベルの連動機能
（Adaptive DSP Level）
◆ コード設定機能付リモコン
◆ 設定状態を保存したり呼び出したりできるシステムメモリー
◆ スリープタイマー

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

❏ リモコン
❏ 単 4 乾電池（4 本）
❏ オプティマイザーマイク
❏ AM ループアンテナ
❏ FM 簡易アンテナ
❏ 電源コード

本書の記載について

本書について

- は知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- フロントパネルキーとリモコンキーのどちらでも操作できる場合があります。フロントパネルキーとリモコンキーの名称が違う場合は、（　）内にリモコンキーの名称を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 「ⒶMASTER ON/OFF」や「③DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または本書巻末をご覧ください。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。
著作権 1996-2007 年 DTS 社。不許複製。



AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

iPod

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。



Fraunhofer Institut
Integrierte Schaltungen

MPEG Layer 3 音声圧縮技術は Fraunhofer IIS および Thomson によってライセンス供与されています。



本機はネットワーク接続に対応しています。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

SILENT ™
CINEMA

「サイレントシネマ ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。



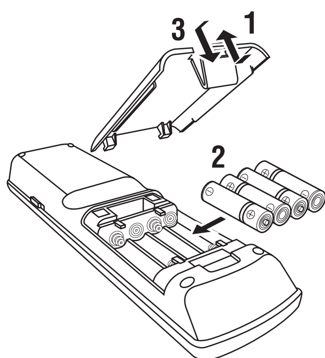
Circle Surround Ⅱ、FOCUS、TruBass、SRS と (●) 記号は SRS Labs, Inc. の商標です。Circle Surround Ⅱ、FOCUS と TruBass 技術は SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

Windows XP、Windows Vista、Windows Media Audio、Windows Media Connect、Windows Media player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

Certified For Windows Vista ロゴ、Windows Media、Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標、または登録商標です。
コンテンツプロバイダーは、提供するコンテンツ（セキュアコンテンツ）の安全性を保護するために、著作権を含む自らの知的財産権が不正に使用されないように本デバイス（WM-DRM）に内蔵されている Windows Media 用デジタル権利管理技術を使用しています。
本デバイスは、セキュアコンテンツの再生に WM-DRM ソフトウェアを使用しています（WM-DRM Software）。本デバイスに内蔵された WM-DRM ソフトウェアのセキュリティが危惧されている場合、セキュアコンテンツの所有者（Secure Content Owners）は、セキュアコンテンツをコピー、表示、再生する新しいライセンスを得るための WM-DRM ソフトウェアの権利を無効にするようにマイクロソフト社に要求することがあります。権利が無効でも、WM-DRM ソフトウェアの非保護コンテンツ再生機能は変更されません。インターネットやパソコンからセキュアコンテンツのライセンスをダウンロードする際、無効にされた WM-DRM ソフトウェアのリストが常にお客様のデバイスに送信されます。マイクロソフト社は、前述のライセンスとともに、無効にされた WM-DRM ソフトウェアのリストをセキュアコンテンツの所有者に代わってデバイスにダウンロードすることがあります。

リモコンを準備する

■ リモコンに乾電池を入れる



1 リモコンの電池カバーを取り外す。

2 付属の単４乾電池（４本）を極性（＋、プラス／ー、マイナス）表示にしたがってリモコンの電池ケースに入れる。

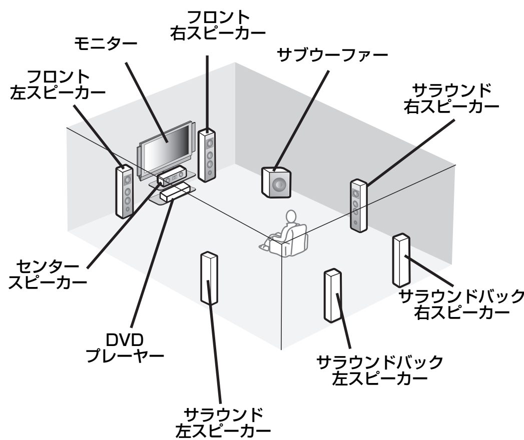
3 電池カバーをリモコンに装着する。

ご注意

・以下の場合はすべての乾電池を新しいものに交換してください。
 － リモコンの操作範囲がせまくなった
 － トランスミットインジケーターが光らない、または光が弱くなった
・新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れたりすることがあります。
・種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがありますのでご注意ください。
・乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
・使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
・乾電池を外したまましばらく（２分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、リモコンに設定したリモコンコードが消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定し直してください。

接続から再生までの手順

DVD を最も簡単に再生する方法を説明します。



ステップ1：
スピーカーを設置・接続する

☞ 11 ページ

ステップ2：
DVD プレーヤーや他の外部機器を接続する

☞ 12 ページ

ステップ3：
電源をオンにし、再生を始める

☞ 13 ページ

再生スタート！

接続に必要なものを確認する

ここでは、以下の付属品を使います。

- ❏ **電源コード**

以下は本機に付属されていません。

- ❏ **スピーカー**
  - ❏ **フロントスピーカー** .... x 2
  - ❏ **センタースピーカー** .... x 1
  - ❏ **サラウンドスピーカー** .... x 4

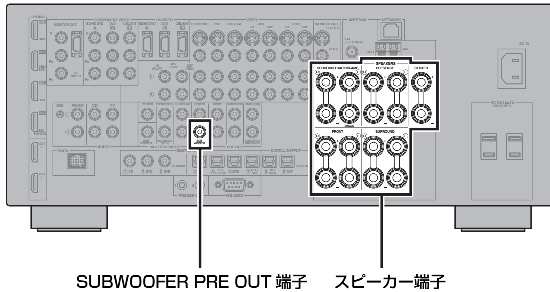
  スピーカーは防磁型をお使いください。また、少なくとも２本（フロント用）以上のスピーカーをご用意ください。フロント用以外のスピーカーは、以下の順番で優先的にご用意ください。

  1. サラウンドスピーカー（２本）
  2. センタースピーカー（１本）
  3. サラウンドバックスピーカー（１本または２本）

- ❏ **アンプ内蔵サブウーファー** .... x 1
  ピン端子を装備したアンプ内蔵サブウーファーをご用意ください。
- ❏ **スピーカーケーブル** .... x 7
- ❏ **サブウーファー用ピンケーブル** .... x 1
  ピンケーブルをご用意ください。
- ❏ **DVD プレーヤー** .... x 1
  光デジタル出力端子および D1 ～ D5 ビデオ出力端子を装備した DVD プレーヤーをご用意ください。
- ❏ **モニター**.. x 1
  D1 ～ D5 ビデオ端子を装備したテレビまたはプロジェクターをご用意ください。
- ❏ **D 端子ケーブル**.. x 2
  D 端子ケーブルをご用意ください。
- ❏ **光ファイバーケーブル** .... x 1

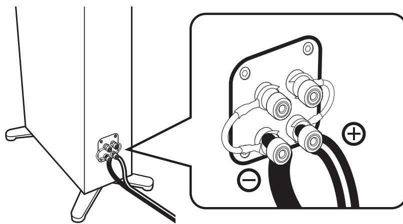
ステップ１：
スピーカーを設置・接続する

スピーカーをお部屋に設置し、本機に接続します。

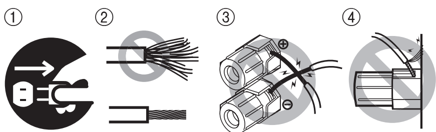


1 スピーカーとサブウーファーをお部屋に設置する。

2 スピーカーケーブルをスピーカーに接続する。



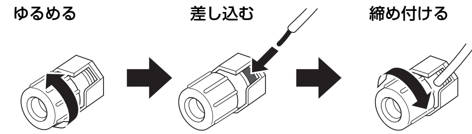
3 スピーカーケーブルを本機のスピーカー端子に接続する。

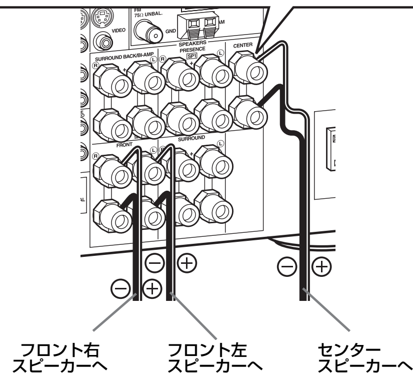


① スピーカーを接続する前に、本機とサブウーファーの電源コードがコンセントに接続されていないことを確認する。
② ショートしないように芯線をしっかりとよじる。
③ スピーカーケーブルの芯線どうしが接触しないようにする。
④ スピーカーケーブルの芯線が本機の金属部に触れないようにする。

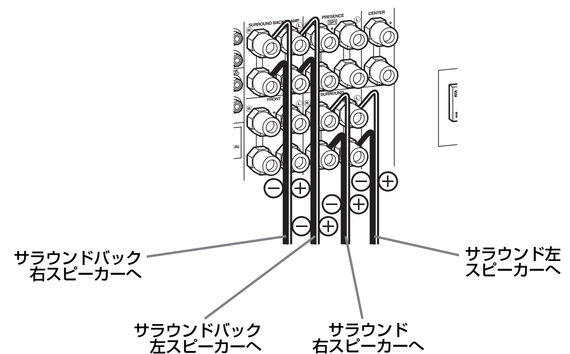
左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、「＋」（プラス、赤）、「－」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。

フロント／センタースピーカーの接続

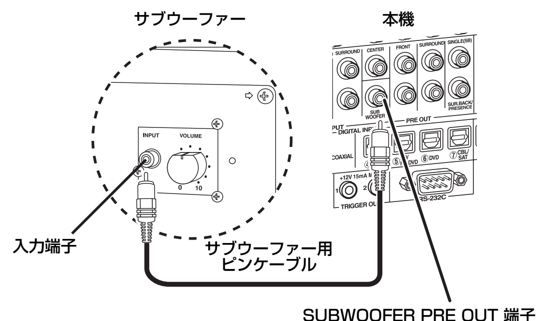




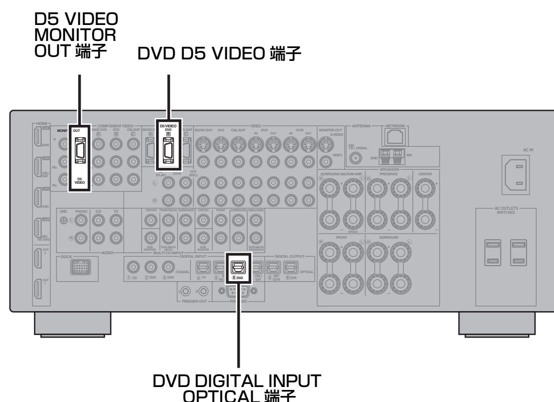
サラウンド／サラウンドバックスピーカーの接続

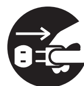


4 サブウーファー用ピンケーブルを本機のSUBWOOFER PRE OUT 端子、およびサブウーファーの入力端子に接続する。



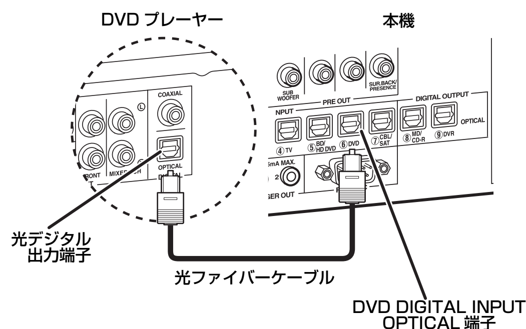
ステップ2：
DVD プレーヤーや他の
外部機器を接続する



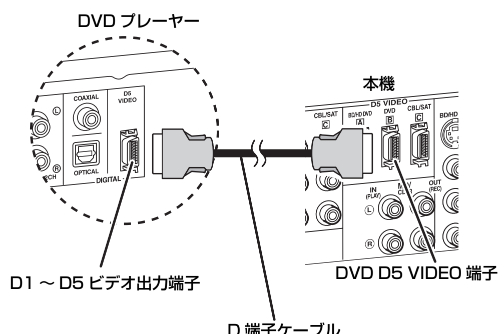


本機および DVD プレーヤーがコンセントに接続されていないことをご確認ください。

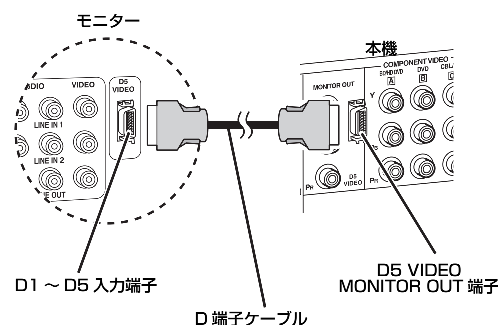
1 DVD プレーヤーの光デジタル出力端子と本機の DVD DIGITAL INPUT OPTICAL 端子を光ファイバーケーブルで接続する。



2 DVD プレーヤーの D1 ～ D5 ビデオ出力端子と本機の DVD D5 VIDEO 端子を D 端子ケーブルで接続する。



3 モニターの D1 ～ D5 ビデオ入力端子と本機の D5 VIDEO MONITOR OUT 端子を D 端子ケーブルで接続する。



4 電源コードを本機に接続し、本機や他の外部機器の電源プラグをコンセントに接続する。



電源コードの接続について詳しくは、31 ページをご覧ください。

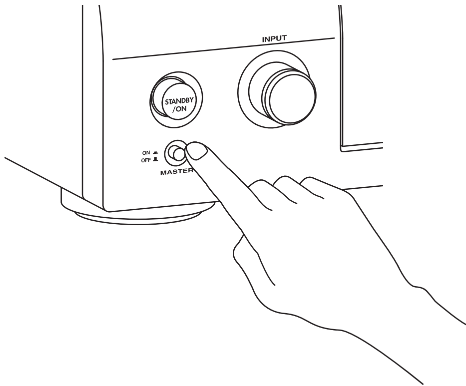
■ その他の接続について

- 他のスピーカーシステム ☞ 17 ページ
- 端子や接続ケーブル ☞ 20 ページ
- HDMI ☞ 21 ページ
- テレビやプロジェクター ☞ 24 ページ
- その他の機器 ☞ 25 ページ
- 外部アンプ ☞ 27 ページ
- マルチチャンネル出力端子がある機器 ☞ 28 ページ
- ヤマハ製 iPod 用ドッグや Bluetooth レシーバー ☞ 28 ページ
- FM ／ AM アンテナ ☞ 30 ページ
- ネットワーク ☞ 29 ページ
- USB デバイス ☞ 29 ページ

ステップ3：電源をオンにし、再生を始める

1 本機に接続したモニターの電源をオンにし、入力を本機の映像に切り替える。

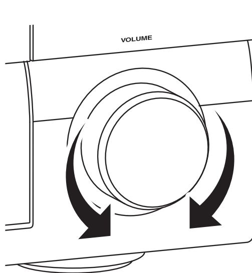
2 フロントパネルの Ⓐ **MASTER ON/OFF** スイッチを押して、ON の位置にする。



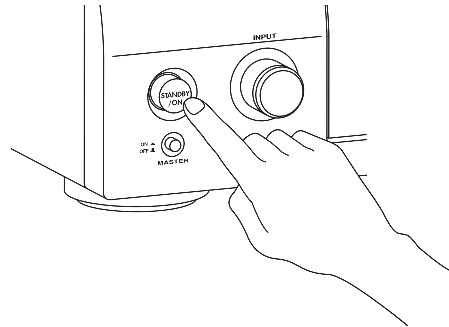
3 Ⓒ **INPUT** セレクターを回して、入力を「DVD」に切り替える。

4 DVD プレーヤーで DVD を再生する。

5 Ⓞ **VOLUME** コントロールを回して、音量を調節する。



6 本機の電源をスタンバイにするには、フロントパネルの Ⓑ **STANDBY/ON** キーを押す。





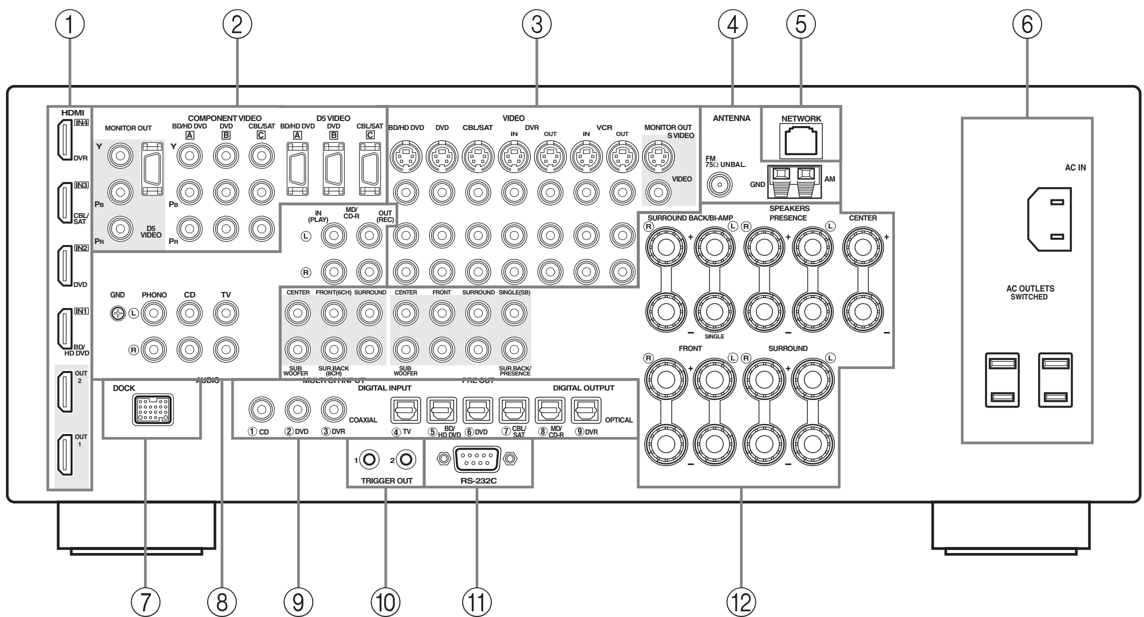
電源のオン／オフやスタンバイについて詳しくは、31 ページをご覧ください。

■ その他の操作について

- スピーカーの自動設定 ☞ 35 ページ
- 基本的な再生操作 ☞ 41 ページ
- 音場プログラム ☞ 45 ページ
- ピュアダイレクトモード ☞ 52 ページ
- FM ／ AM 放送の受信 ☞ 53 ページ
- Bluetooth 機器の再生 ☞ 56 ページ
- iPod の再生 ☞ 58 ページ
- USB デバイス／ネットワークオーディオの再生 ☞ 60 ページ

接続する

リアパネル（背面）



	名称	参照ページ
①	HDMI 端子	21
②	COMPONENT VIDEO ／ D5 VIDEO 端子	20
③	映像機器用端子	20
④	ANTENNA 端子	30
⑤	NETWORK 端子	29
⑥	AC IN	31
	AC OUTLETS	31
⑦	DOCK 端子	28
⑧	音声機器用端子	20

	名称	参照ページ
⑨	DIGITAL INPUT ／ OUTPUT 端子	20
⑩	TRIGGER OUT 端子	90
⑪	RS-232C 端子	–
⑫	MULTI CH INPUT 端子	28
	PRE OUT 端子	27
	SPEAKERS 端子	17

ご注意

RS-232C 端子はサービス用の端子です。通常は使用しません。

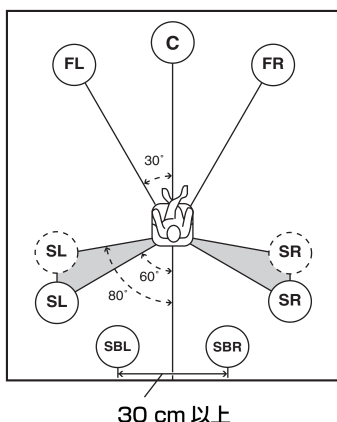
スピーカーを設置する

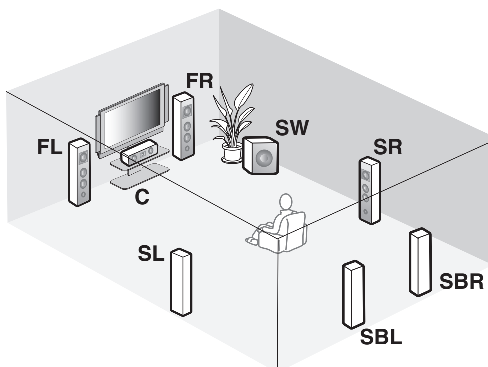
下図はおすすめのスピーカー配置を表しています。



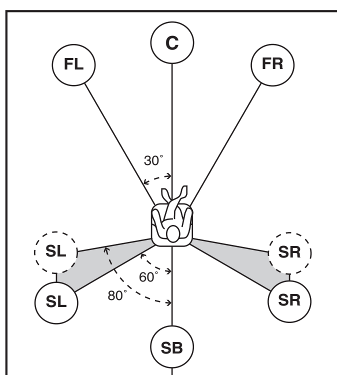
- 7.1 チャンネルシステムでは、次世代オーディオフォーマット（Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio など）や音場プログラムの効果を最大に発揮できます。
- CINEMA DSP 音場プログラムの効果をさらに楽しむには、プレゼンススピーカーも使用することをおすすめします。

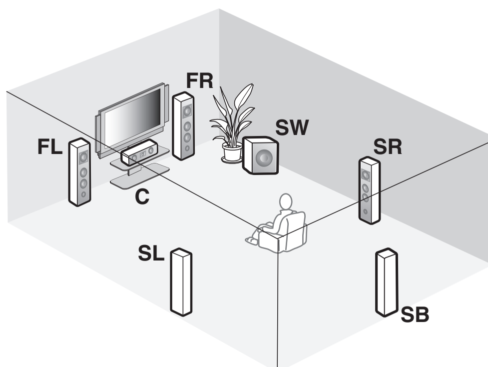
7.1 チャンネル構成の場合



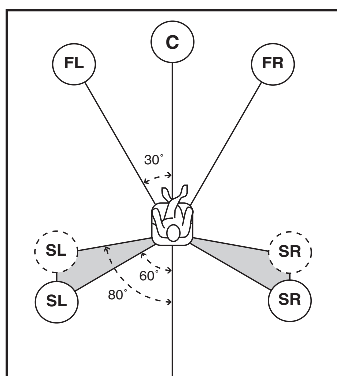


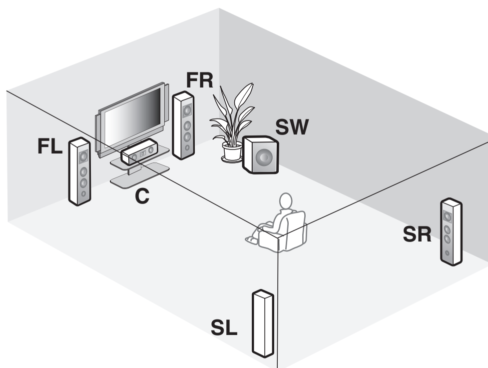
6.1 チャンネル構成の場合





5.1 チャンネル構成の場合





■ スピーカーについて

フロント左／右スピーカー（FL ／ FR）
フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。リスニングルーム前方に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から 4 分の 1 位の高さが適当です。

センタースピーカー（C）
会話やボーカルなど、画面中央に定位する音を出力します。フロント左／右スピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

サラウンド左／右スピーカー（SL ／ SR）
サラウンド音と効果音を出力します。リスニングルーム左右後方に、リスニングポジションに向けて設置します。

サラウンドバック左／右スピーカー（SBL ／ SBR）
後方の効果音を出力します。リスニングルーム後方に、リスニングポジションに向けて設置します。左右のスピーカーは 30cm 以上間隔を開けて設置してください。フロント左／右スピーカーと同じ間隔が理想的です。

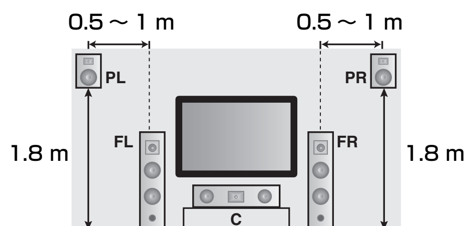
サブウーファー（SW）
ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号に含まれる LFE（低域効果音）や、低音を出力します。ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いください。リスニングルーム前方のフロント左／右スピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。

その他のスピーカー構成

7.1 ／ 6.1 ／ 5.1 チャンネル以外のスピーカー構成でも、マルチチャンネルソースを音場プログラムと一緒に楽しめます。
「自動測定」（35 ページ）、または「スピーカーの設定」（79 ページ）で、スピーカーのサラウンド音声出力を設定できます。

■ プレゼンス左／右スピーカー（PL ／ PR）について

プレゼンススピーカーを使えば、音場プログラム（45 ページ）を選んでいるときに前方の効果音を出力することによって、より豊かなプレゼンス音場を実現できます。CINEMA DSP 音場プログラムを楽しむときはプレゼンススピーカーを使うことをおすすめします。
スピーカーを PRESENCE 端子に接続し、「フロントプレゼンス」を「使用する」（80 ページ）に設定してください。



スピーカーを接続する

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、「+」（プラス、赤）、「−」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると、音声が正しく再生されないことがあります。

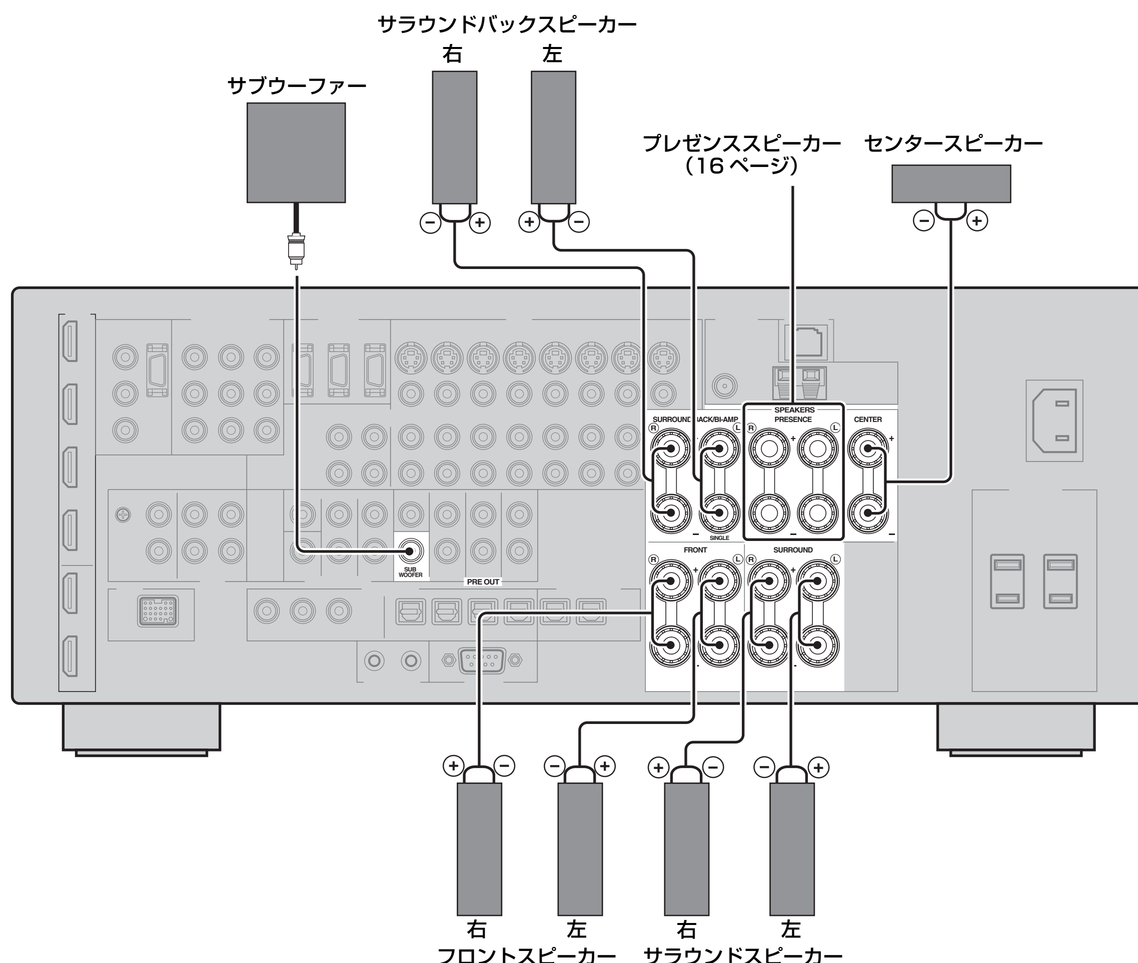
警告

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグがコンセントに接続されていないことをご確認ください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。また、スピーカーケーブルがショートしていると、本機の電源をオンにしたときにフロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示されます。
- スピーカーは防磁型をお使いください。防磁型スピーカーをお使いでもモニターの画面が乱れる場合は、モニターとスピーカーを離して設置してください。
- スピーカーは、インピーダンスが 6 Ω 以上のものをお使いください。

ご注意

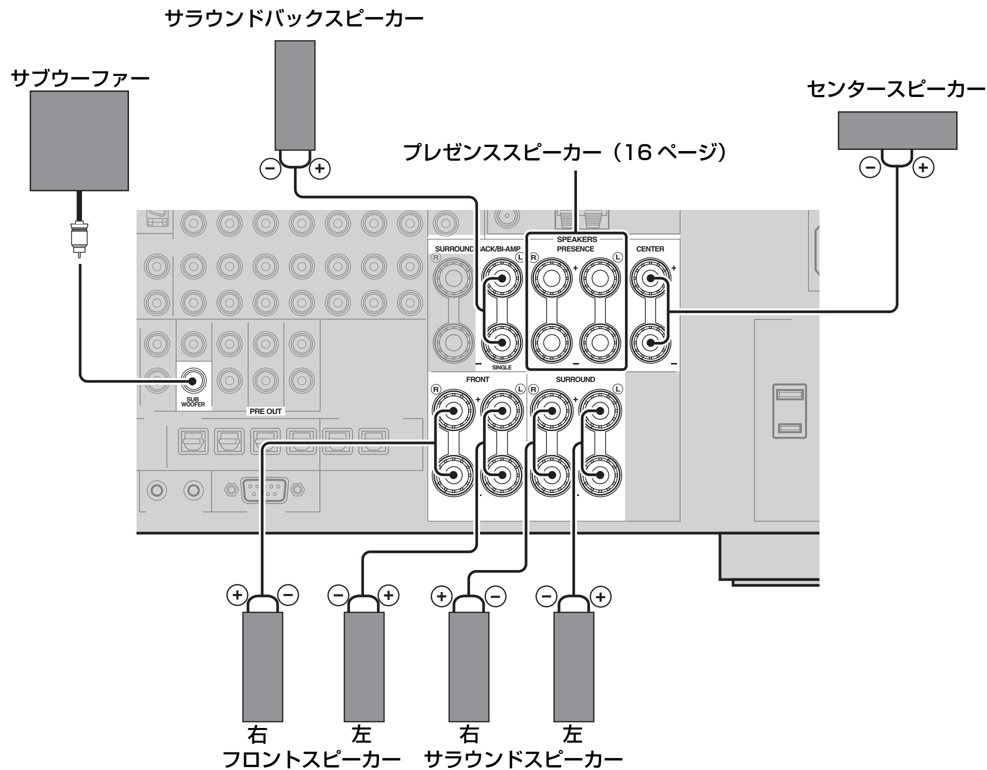
一般的にスピーカーケーブルは、平行した 2 本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの 1 本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「+」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「−」（マイナス、黒）へ接続してください。
本機はサラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方を接続できますが、同時に音声を出力することはできません。選んでいる入力ソースや音場プログラムに応じて、出力するスピーカーを自動的に決定します。

■ 7.1 チャンネル時のスピーカー接続

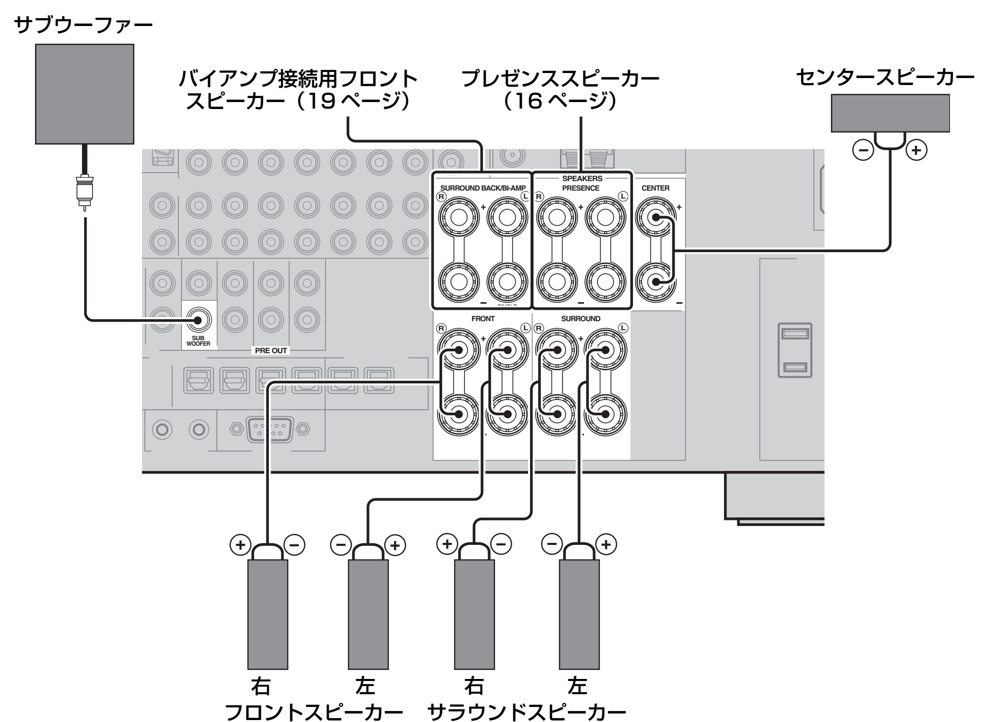


準備

■ 6.1 チャンネル時のスピーカー接続

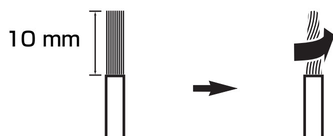


■ 5.1 チャンネル時のスピーカー接続

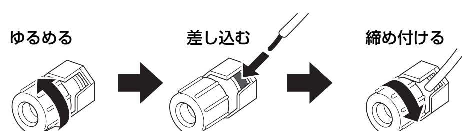


■ スピーカーケーブルを接続する

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10 mm ぐらいはがし、ショートしないように芯線をしっかりとよじる。

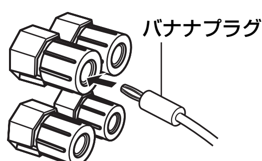


2 スピーカー端子をゆるめ、端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込んでから、端子を締め付ける。



■ バナナプラグを使って接続する

スピーカー端子を締め付け、端子の先端にバナナプラグを差し込む。

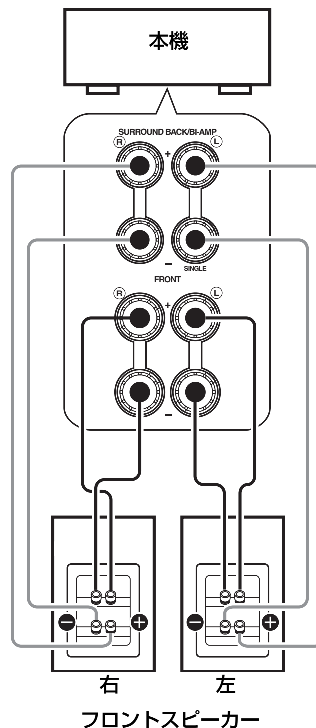


■ バイアンプ接続する

警告

バイアンプ接続をする場合は、本機とスピーカーを接続する前に必ずスピーカーのウーファー端子とツィーター端子をつないでいる金具またはケーブルを取り外してください。

本機はバイアンプ接続対応のスピーカーを下図のように接続できます。「BI-AMP」で、バイアンプ機能をオンにしてください（108 ページ）。



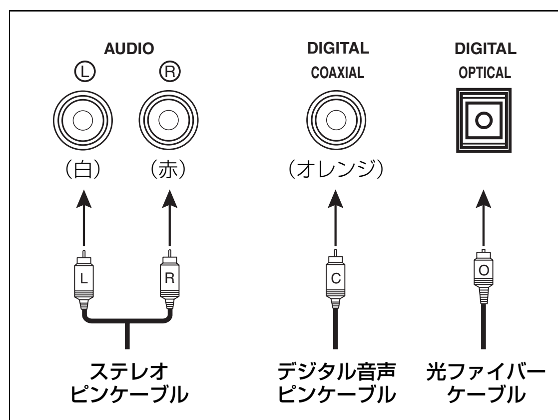
ご注意

バイアンプ接続をしない場合は、スピーカーのウーファー端子とツィーター端子をつなぐ金具またはケーブルがスピーカーに正しく取り付けられていることをご確認ください。詳しくは、スピーカーに付属している取扱説明書をご覧ください。

端子とケーブル

本機は３種類の音声端子と４種類の映像端子、HDMI 端子を装備しています。接続する機器に合わせて、使用する端子を決定してください。

■ 音声端子



AUDIO 端子

標準的なアナログ左右音声信号をステレオピンケーブルを使って伝送します。
赤いケーブルの先端部を赤い端子へ、白いケーブルの先端部を白い端子へ接続してください。

COAXIAL 端子

同軸デジタル音声信号をデジタル音声ピンケーブルを使って伝送します。

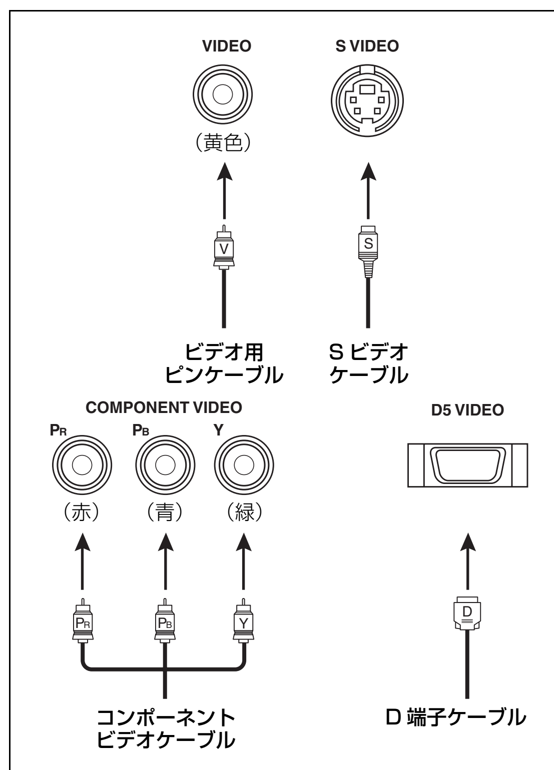
OPTICAL 端子

光デジタル音声信号を光ファイバーケーブルを使って伝送します。

ご注意

デジタル音声端子は、PCM 信号、およびドルビーデジタル、DTS、AAC のビットストリーム信号を入力できます。１つの機器を COAXIAL 端子と OPTICAL 端子の両方を使って接続した場合は、COAXIAL 端子に入力された信号を優先的に再生します。本機の OPTICAL 入力端子は、サンプリング周波数 96kHz までのデジタル信号に対応しています。

■ 映像端子



VIDEO 端子

標準的なコンポジットビデオ信号をビデオ用ピンケーブルを使って伝送します。

S VIDEO 端子

輝度信号（Y）と色信号（C）に分離した S ビデオ信号を S ビデオケーブルを使って伝送します。

COMPONENT VIDEO 端子

輝度信号（Y）と青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離したコンポーネントビデオ信号をコンポーネントビデオケーブルを使って伝送します。

D5 VIDEO 端子

輝度信号（Y）と青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離したコンポーネントビデオ信号と、コントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を D 端子ケーブルを使って伝送します。

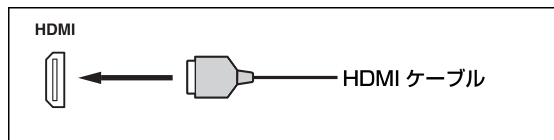


本機はビデオコンバージョン機能を搭載しています。（23 ページ）

HDMI について

本機はデジタル音声／映像信号を伝送できる HDMI 入力端子を４つ、出力端子を 2 つ装備しています。

■ HDMI 端子と HDMI ケーブルについて





- 接続には 19 ピンの HDMI ケーブルで、HDMI ロゴのついているものをお使いください。また、長さ 5.0m 以下のものを使うことをおすすめします。
- 本機を DVI 端子のある機器に接続する場合は、HDMI 端子⇔ DVI-D 端子の変換ケーブルが必要です。
- HDMI 接続に関するエラー情報を確認できます（44 ページ）。
- 「スタンバイスルー」の「モード」を「前回」、または「固定」に設定すると、本機は HDMI IN 端子に入力した HDMI 信号を HDMI OUT 端子から出力します（87 ページ）。
- 本機は HDMI OUT 端子を２つ装備しています。信号を出力する HDMI OUT 端子を選べます（42 ページ）。
- 本機はビデオコンバージョン機能を搭載しています（23 ページ）。

ご注意

- HDMI で接続した機器を再生中に、本機の HDMI OUT 端子に接続している HDMI ／ DVI 機器の電源をオン／オフしたり、HDMI ケーブルを抜き差ししたりしないでください。音声が途切れたり、ノイズが発生したりすることがあります。
- HDMI OUT 端子からは、HDMI IN 端子から入力した音声信号のみ出力します。
- DVI 端子を使って本機の HDMI OUT 端子と接続しているモニターの電源をオフにすると、信号を認識できない場合があります。

■ HDMI 信号について

音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16 ／ 20 ／ 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192 kHz、16 ／ 20 ／ 24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
DSD	2 ／ 5.1ch、2.8224MHz、1bit	SA-CD
ビットストリーム	ドルビーデジタル、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ	ブルーレイディスク、HD DVD



- 再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、以下の方法で音声接続すれば、音声解説を楽しめます。
  －アナログマルチチャンネル接続（28 ページ）
  －デジタル接続
- 再生機器の取扱説明書をご覧になり、機器を正しく設定してください。

ご注意

- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備した機器には対応していません。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- ブルーレイディスクや HD DVD の音声解説（例：インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

映像信号について

－ 480i ／ 60Hz
－ 480p ／ 60Hz
－ 720p ／ 60Hz、50Hz
－ 1080i ／ 60Hz、50Hz
－ 1080p ／ 60Hz、50Hz、24Hz

ディープカラー、x.v.Color 映像信号について

本機はディープカラー（３０／３６ビット）、および x.v.Color 映像信号に対応しています。本機の HDMI OUT 端子からこれらの信号をそのまま出力するには、「HDMI ▸ HDMI」を「変換しない」に設定してください（86 ページ）。

ご注意

モニターがこれらの信号に対応していない場合、映像が正しく表示されないことがあります。

■ HDMI 入力端子の割り当てについて

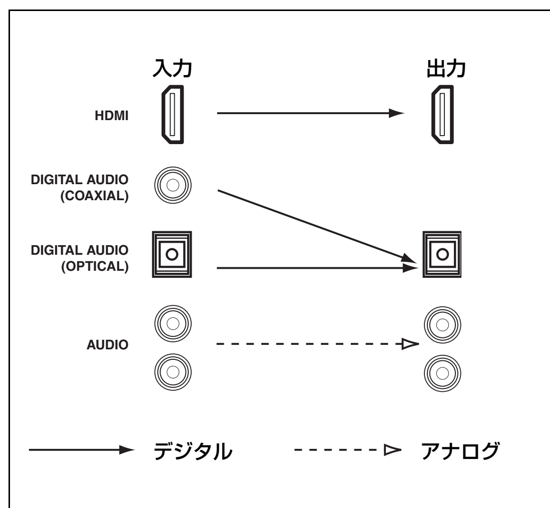
HDMI 入力端子	機器
IN1	BD/HD DVD
IN2	DVD
IN3	CBL/SAT
IN4	DVR

■ HDMI コントロール機能について

HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビ（一部を除く）と本機を HDMI 接続した場合、テレビのリモコンで本機を操作できます。詳しくは 65 ページをご覧ください。

音声信号と映像信号の流れ

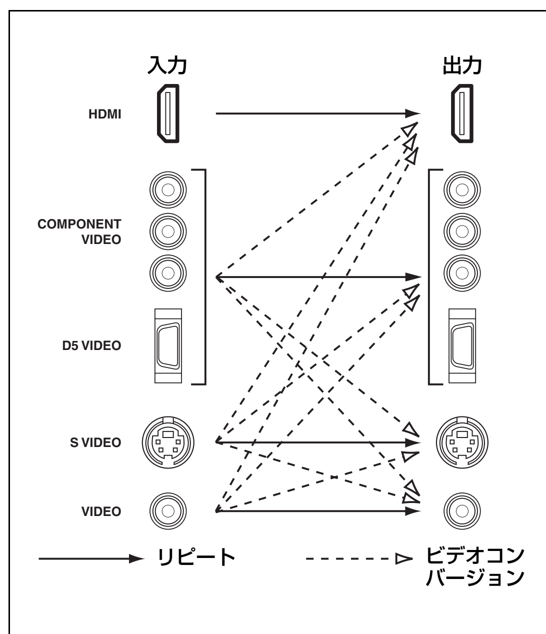
■ 音声信号の流れ



ご注意

マルチチャンネル PCM、DSD、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ信号はHDMI 端子からのみ入力できます。

■ 映像信号の流れ





- HDMI 映像信号、または 1080p アナログ映像信号が入力されている場合は、アナログ信号を HDMI 信号に変換できません。
- アナログ端子間のビデオコンバージョンの設定や他の映像に関する設定については「映像の設定」をご覧ください（86 ページ）。
- 異なる種類のアナログ映像信号が同時に入力されている場合は、以下の優先順位で信号が出力されます。
  （1）COMPONENT VIDEO ／ D5 VIDEO、
  （2）S VIDEO、（3）VIDEO

準備

テレビやプロジェクターを接続する



本機および外部機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。



「音声出力」で、HDMI OUT 端子から出力する音声信号を設定できます（87 ページ）。

ご注意

DVI 端子を使って本機の HDMI OUT 端子と接続しているモニターの電源をオフにすると、信号を認識できない場合があります。このような場合、HDMI インジケーターが点滅します。

プロジェクター
HDMI 入力

HDMI
MONITOR OUT
COMPONENT VIDEO
VIDEO
MONITOR OUT
S VIDEO
D5 VIDEO
TV
AUDIO
DIGITAL INPUT
④TV
OUT 2
OUT 1

D1 ～ D5 ビデオ入力
コンポーネントビデオ入力
アナログ音声出力
HDMI 入力
テレビ
光デジタル出力
コンポジットビデオ入力
S ビデオ入力

――― おすすめの接続方法
- - - - 代わりの接続方法

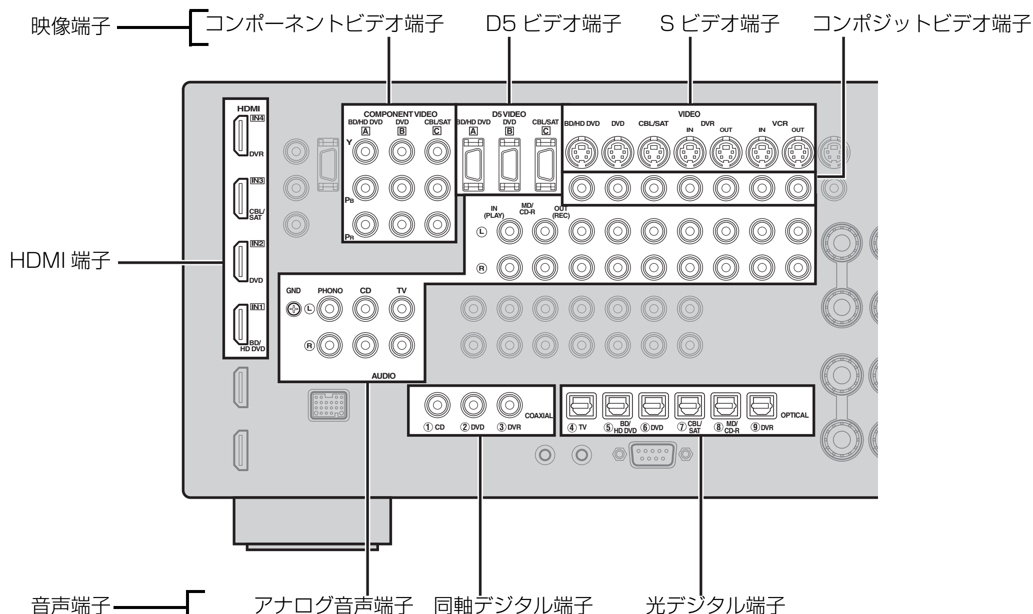
他の外部機器を接続する

■ 音声／映像機器を接続する

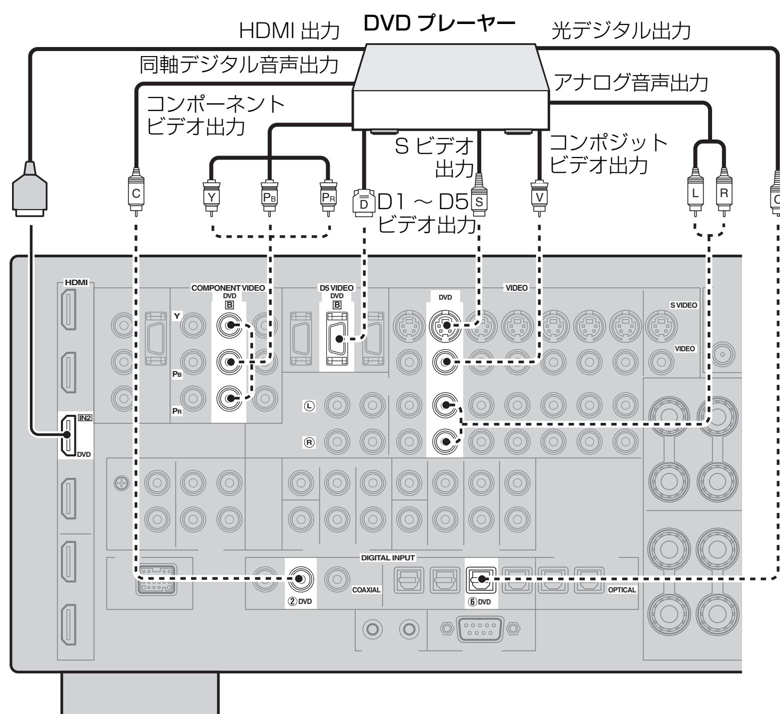
本機は３種類の音声端子と４種類の映像端子、HDMI 端子を装備しています。接続する機器に合わせて、使用する端子を決定してください。



HDMI 端子は、１本の HDMI ケーブルでデジタル音声／映像信号をデジタルのまま伝送できます。

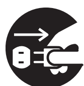


接続例（DVD プレーヤーとの接続）



音声／映像接続で使う端子

おすすめの接続方法は太字で示されています。録音／録画機器を接続する場合は、追加接続が必要です（本機から録音／録画機器へ信号を伝送します）。



本機および外部機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。



フロントパネルの V-AUX 端子に外部機器を接続することもできます。

接続する機器	信号種類	接続する端子	
		接続機器側	本機側
ブルーレイディスク／HD DVD プレーヤー	音声／映像	**HDMI 出力**	**HDMI IN1 (BD/HD DVD)**
	音声	光デジタル出力	OPTICAL (BD/HD DVD)
		アナログ出力	AUDIO (BD/HD DVD)
	映像	D5 ビデオ出力	D5 VIDEO (BD/HD DVD)
		コンポーネント出力	COMPONENT VIDEO (BD/HD DVD)
		S ビデオ出力	S VIDEO (BD/HD DVD)
		コンポジット出力	VIDEO (BD/HD DVD)
DVD プレーヤー	音声／映像	**HDMI 出力**	**HDMI IN2 (DVD)**
	音声	光デジタル出力	OPTICAL (DVD)
		同軸デジタル出力	COAXIAL (DVD)
		アナログ出力	AUDIO (DVD)
	映像	D5 ビデオ出力	D5 VIDEO (DVD)
		コンポーネント出力	COMPONENT VIDEO (DVD)
		S ビデオ出力	S VIDEO (DVD)
		コンポジット出力	VIDEO (DVD)
衛星放送／ケーブルテレビチューナー	音声／映像	**HDMI 出力**	**HDMI IN3 (CBL/SAT)**
	音声	光デジタル出力	OPTICAL (CBL/SAT)
		アナログ出力	AUDIO (CBL/SAT)
	映像	D5 ビデオ出力	D5 VIDEO (CBL/SAT)
		コンポーネント出力	COMPONENT VIDEO (CBL/SAT)
		S ビデオ出力	S VIDEO (CBL/SAT)
		コンポジット出力	VIDEO (CBL/SAT)
DVD レコーダー	音声／映像	**HDMI 出力**	**HDMI IN4 (DVR)**
	音声	同軸デジタル出力	COAXIAL (DVR)
		アナログ出力	AUDIO (DVR IN)
	映像	S ビデオ出力	S VIDEO (DVR IN)
		コンポジット出力	VIDEO (DVR IN)
	録音	**光デジタル入力**	**OPTICAL (DVR)**
		アナログ入力	AUDIO (DVR OUT)

接続する機器	信号種類	接続する端子	
		接続機器側	本機側
DVD レコーダー	録画	S ビデオ入力	S VIDEO (DVR OUT)
		コンポジット入力	VIDEO (DVR OUT)
ビデオデッキ	音声	アナログ出力	AUDIO (VCR IN)
	映像	S ビデオ出力	S VIDEO (VCR IN)
		コンポジット出力	VIDEO (VCR IN)
	録音	アナログ入力	AUDIO (VCR OUT)
	録画	S ビデオ入力	S VIDEO (VCR OUT)
		コンポジット入力	VIDEO (VCR OUT)
CD プレーヤー	音声	同軸デジタル出力	COAXIAL (CD)
		アナログ出力	AUDIO (CD)
MD ／ CD レコーダー	音声	アナログ出力	AUDIO (MD/CD-R IN)
	録音	光デジタル入力	OPTICAL (MD/CD-R)
		アナログ入力	AUDIO (MD/CD-R OUT)
レコードプレーヤー	音声	アナログ出力	AUDIO (PHONO)

ご注意

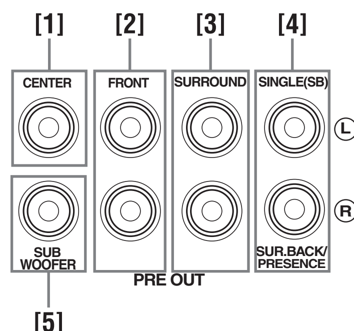
- ビデオコンバージョン機能をオフに設定している場合は、モニターとの接続と同じ種類の端子を使って映像機器を映像接続してください。例えば、モニターを本機の VIDEO MONITOR OUT 端子に接続している場合、映像機器も VIDEO 端子を使って接続してください。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は著作権者に無断で使用することはできません。
- DVD プレーヤーを OPTICAL と COAXIAL の両方の端子に接続する場合、COAXIAL 端子に入力した信号を優先的に出力します。
- モニター表示信号は DVR OUT 端子や VCR OUT 端子から出力されないため、映像と一緒に録画されることはありません。
- デジタル入出力端子に初期設定で割り当てられている機器とは異なる機器を接続する場合は、「端子の割り当て」で設定を変更してください（89 ページ）。
- レコードプレーヤーを本機の GND 端子へ接続すれば、ノイズレベルを低減できます。レコードプレーヤーによっては、GND 端子へ接続しないほうがよい場合もあります。
- MM カートリッジまたは高出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、そのまま PHONO AUDIO 端子に接続します。低出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランスまたは MC ヘッドアンプを使用して PHONO AUDIO 端子に接続します。
- GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。

■ 外部パワーアンプを接続する

スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプ（プリメインアンプ）をお使いになる場合は、PRE OUT 端子と接続します。各 PRE OUT 端子は、対応するスピーカー端子と同じチャンネル信号を出力します。

ご注意

- PRE OUT 端子を使って接続する場合は、本機のスピーカー端子にスピーカーを接続しないでください。
- サブウーファーの音量は、お使いのサブウーファー本体で調節してください。



[1]CENTER PRE OUT 端子
センターチャンネルの信号を出力します。

[2]FRONT PRE OUT 端子
フロント左／右チャンネルの信号を出力します。

[3]SURROUND PRE OUT 端子
サラウンド左／右チャンネルの信号を出力します。

[4]SUR.BACK ／ PRESENCE PRE OUT 端子

サラウンドバック、またはプレゼンス左／右チャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを 1 つだけ接続する場合は、L 側（SINGLE）の端子に接続してください。



- サラウンドバックチャンネル信号を出力するには、「フロントプレゼンス」を「使用しない」に、また、「サラウンドバック」を「無」以外に設定してください（80 ページ）。
- プレゼンスチャンネル信号を出力するには、「フロントプレゼンス」を「使用する」に、また、「サラウンドバック」を「無」に設定してください（80 ページ）。

[5]SUBWOOFER PRE OUT 端子

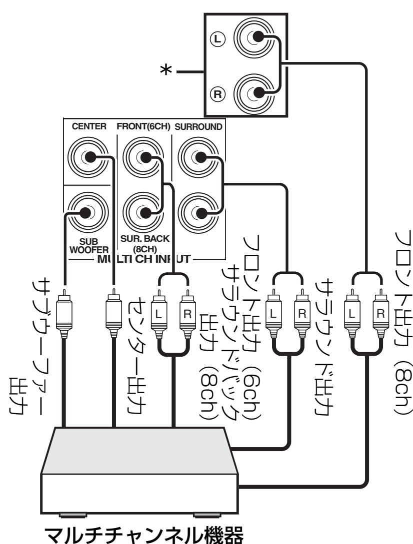
ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどのアンプ内蔵サブウーファーを接続します。

■ マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

本機は６つのアナログマルチチャンネル入力端子（FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER）を装備しています。「入力チャンネル」を「８チャンネル」に設定すれば（78 ページ）、「フロント入力」で設定したアナログ音声出力端子をフロントチャンネル用の入力端子として使えます。

ご注意

- MULTI CH を入力選択すると、音場プログラムは選べなくなります。
- スピーカーが接続されていないチャンネルの音声信号は出力されません。マルチチャンネル機器の音声を聴く場合は、5.1 チャンネル以上のスピーカー構成で楽しむことをおすすめします。

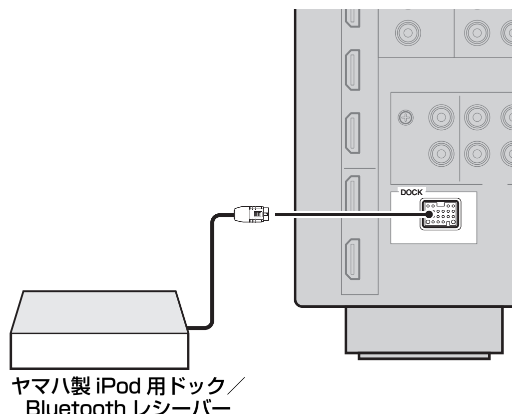


マルチチャンネル機器

* 「マルチCH入力」の「フロント入力」で設定したアナログ音声入力端子（78ページ）

■ ヤマハ製 iPod 用ドック／ Bluetooth® ワイヤレスオーディオレシーバーを接続する

本機は、ヤマハ製 iPod 用ドックや Bluetooth レシーバーを接続するための DOCK 端子を装備しています。iPod 用ドック（別売 YDS-11 など）や Bluetooth レシーバー（別売 YBA-10 など）を接続すれば、iPod や Bluetooth 機器の再生が楽しめます。接続用のケーブルは専用のものをお使いください。



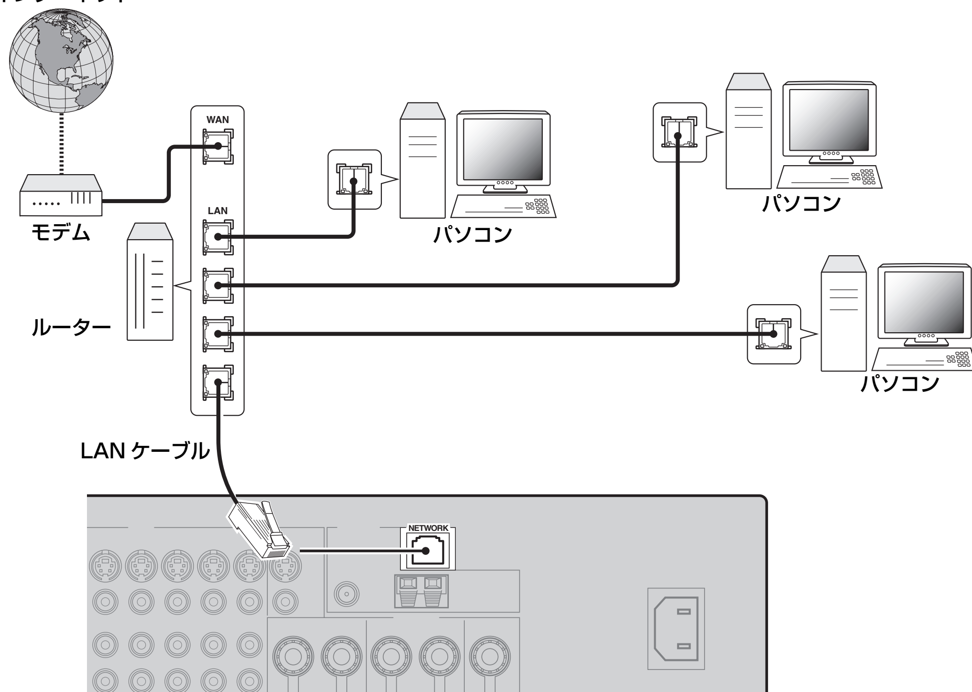
ヤマハ製 iPod 用ドック／ Bluetooth レシーバー

■ ホームネットワークに接続する

本機をホームネットワークに接続すれば、パソコンに保存されている音楽ファイルやインターネットラジオの音声をお楽しみいただけます。また、パソコンから Web ブラウザーで本機をコントロールできます。
本機の NETWORK 端子を、CAT5 以上のストレート LAN ケーブルで、ルーターの空いている NETWORK 端子に接続します。
ルーターの DHCP サーバー機能をオンにします。
下図はホームネットワーク環境の一例を表しています。

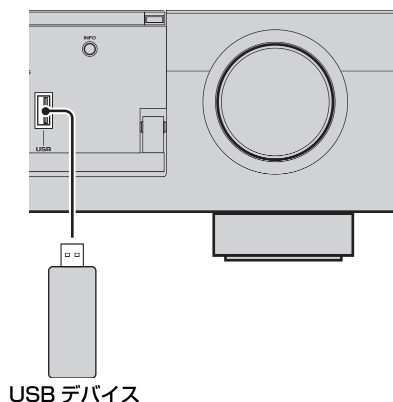
ご注意

- ストレート LAN ケーブルは、必ず、STP ケーブルをご使用ください。
- ルーターに DHCP 機能がない場合は、ネットワークを手動で設定してください（88 ページ）。



■ USB デバイスを接続する

本機フロントパネルの USB 端子に USB デバイスを接続します。本機が対応している USB デバイスについては 62 ページをご覧ください。

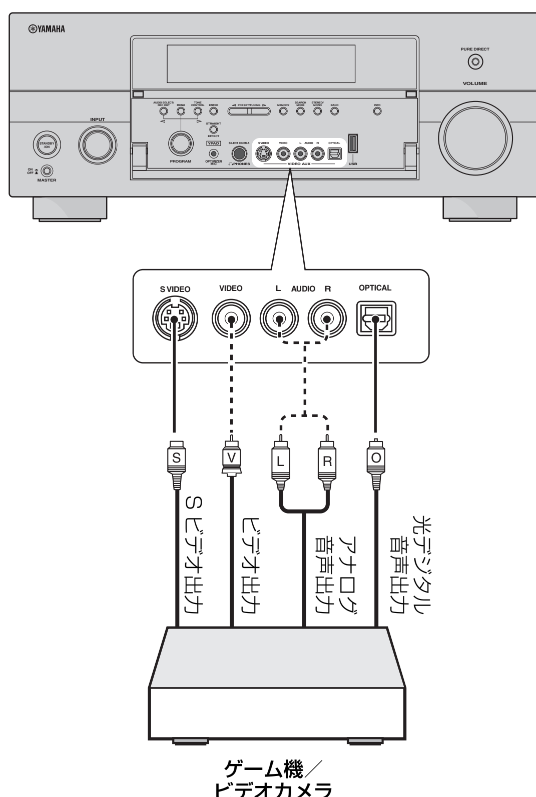


VIDEO AUX端子を使う

ゲーム機やビデオカメラをフロントパネルのVIDEO AUX 端子に接続します。
V-AUX 端子に接続した機器を再生するには、入力ソースに「V-AUX」を選んでください。

警告

本機と接続機器の音量を十分に下げてから接続してください。

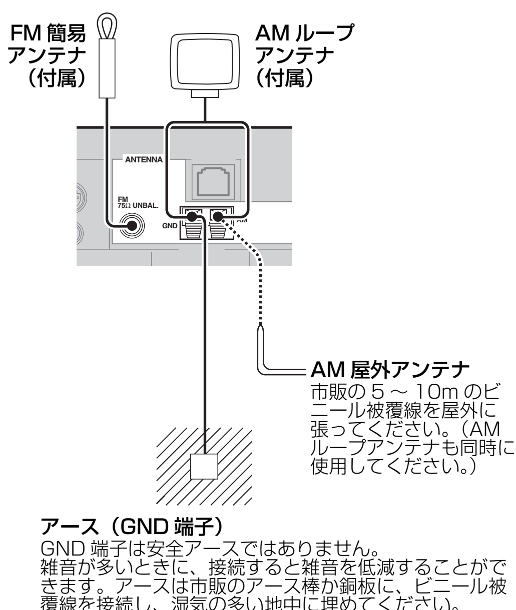


FM ／ AMアンテナを接続する

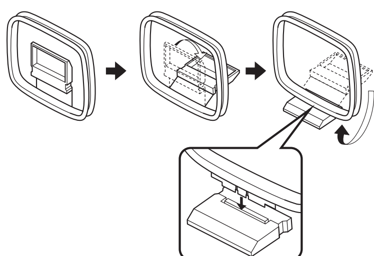
本機には、FM 簡易アンテナおよび AM ループアンテナが付属しています。通常はこれらのアンテナで十分な受信感度を得られます。

ご注意

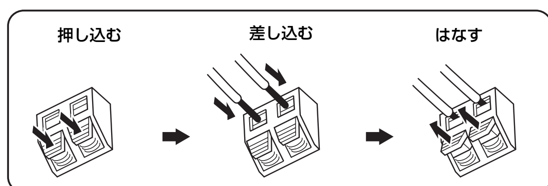
- AM ループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。



AM ループアンテナの組立方法



AM ループアンテナの接続方法

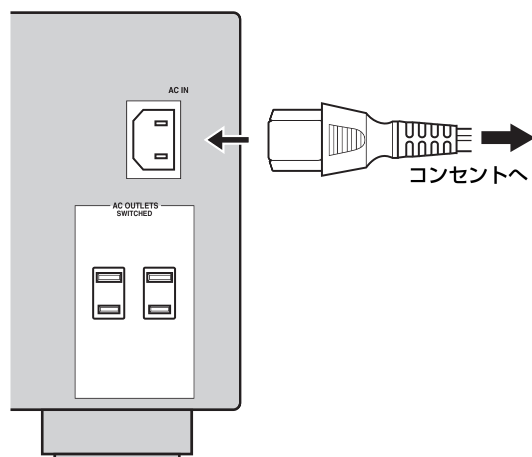


コードに極性はありません。また、AM と GND それぞれの端子にどちらのケーブルを接続してもかまいません。

電源コードを接続する

■ 電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、付属の電源コードを本機の AC IN 端子にしっかりと差し込み、家庭用 AC100V、50 ／ 60Hz のコンセントに電源プラグを接続します。



■ AC OUTLETS

外部機器に電源を供給します。外部機器の電源プラグをここへ接続してください。本機の電源がオンのときは電源を供給し、オフのときは遮断します。また、本機の ⒷSTANDBY/ON キーと連動して電源を供給／遮断します。合計で消費電力 100W までの機器を接続し、電源を供給できます。

ご注意

- 本機の AC アウトレットに消費電力 100W を超える機器（サブウーファーなど）を接続しないでください。本機が故障するおそれがあります。
- 「スタンバイスルー」（87 ページ）または「ネットワークスタンバイ」（88 ページ）が有効になっているときは、ⒷSTANDBY/ONキーを押して本機の電源をスタンバイにしても AC アウトレットから電源が供給されます。

本機の電源をオン／オフする

■ 電源をオンにする

フロントパネルの ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して、ON の位置にする。

■ 電源をオフにする

ⒶMASTER ON/OFF スイッチをもう一度押して、OFF の位置にする。

■ 電源をスタンバイにする

ⒷSTANDBY/ON キー（または ⑭STANDBY キー）を押す。

■ 電源をスタンバイモードからオンに切り替える

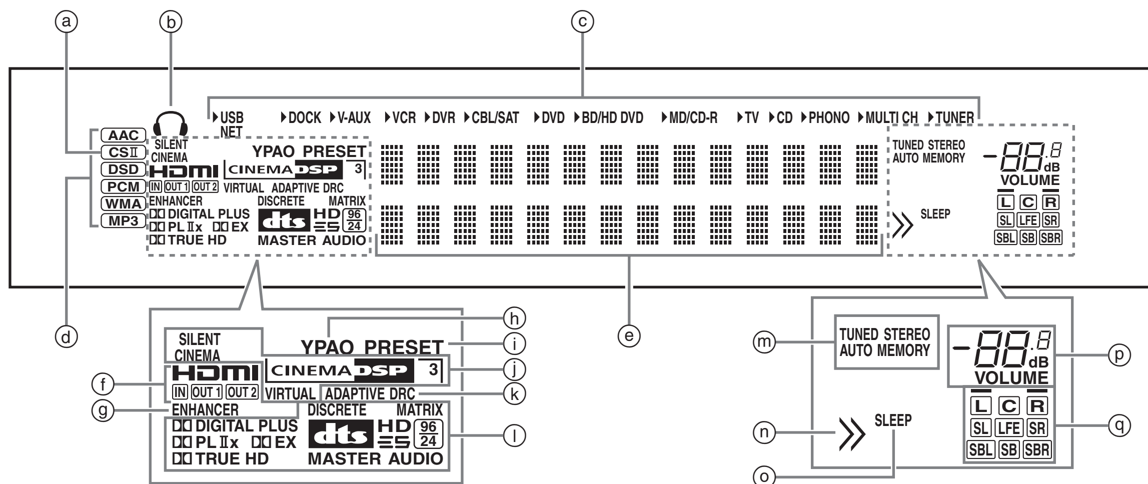
ⒷSTANDBY/ON キー（または ⑮POWER キー）を押す。

- 基本的に、本機の電源を落とすときはスタンバイモードにすることをおすすめします。スタンバイになっているあいだも、リモコンからの赤外線信号を受信するために少量の電力を消費します。
- スタンバイモードになっていても、「スタンバイスルー」（87 ページ）または「ネットワークスタンバイ」（88 ページ）が有効になっているときはより多くの電力を消費します。本機を長期間使用しない場合は、ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにし、消費電力を最小限に抑えてください。
- ⒶMASTER ON/OFF スイッチが ON の位置になっているときのみ、ⒷSTANDBY/ON、⑭STANDBY、⑮POWER キーで操作できます。
- 本機の電源をオンにしてから音声が出力されるまで数秒かかります。

問題が起きたときは

- 本機の電源をオフにしてから、もう一度オンにしてください。
- 問題が解決しない場合は、本機の設定を初期設定に戻してください（121 ページ）。

フロントパネルディスプレイ



ⓐ **CS II インジケーター**

SRS Circle Surround II デコーダーが作動しているときに点灯します。（66 ページ）

ⓑ **ヘッドホンインジケーター**

ヘッドホンを接続しているときに点灯します（43 ページ）。

ⓒ **入力ソースインジケーター**

現在選んでいる入力ソース名の左側に矢印が点灯します。

ご注意

「ネットワークスタンバイ」を「オン」に設定し（88 ページ）、本機の電源がスタンバイのときは、NET インジケーターも点灯します。

ⓓ **入力信号インジケーター**

現在入力している信号を表示します。

ⓔ **マルチインフォメーションディスプレイ**

現在選んでいる音場プログラムの名前や、設定を変更するときのさまざまな情報を表示します。

ⓕ **HDMI インジケーター**

IN インジケーター

ソースの信号を HDMI IN 端子に入力しているときに点灯します（21 ページ）。

OUT 1 ／ OUT 2 インジケーター

HDMI OUT 端子から信号を出力しているときに、出力している端子に応じて点灯します（21 ページ）。

ⓖ **ENHANCER インジケーター**

コンプレストミュージック・エンハンサーモードで再生しているときに点灯します（50 ページ）。

ⓗ **YPAO インジケーター**

自動測定の実行中、および自動測定での設定値が有効になっているときに点灯します（35 ページ）。

ⓘ **PRESET インジケーター**

プリセットチューニングモードのときに点灯します。

ⓙ **DSP インジケーター**

選んでいる音場プログラムに応じて点灯します。

SILENT CINEMA インジケーター

ヘッドホンを接続し、音場プログラムを選んでいるときに点灯します（50 ページ）。

CINEMA DSP インジケーター

CINEMA DSP モードで再生しているときに点灯します（45 ページ）。

3D インジケーター

CINEMA DSP 3D モードで再生しているときに点灯します（51 ページ）。

VIRTUAL インジケーター

バーチャルシネマ DSP モードで再生しているときに点灯します（50 ページ）。

ⓚ **ADAPTIVE DRC インジケーター**

「Adaptive DRC」を「自動」に設定しているときに点灯します（81 ページ）。

ⓛ **デコーダーインジケーター**

本機のデコーダーが動作しているときにデコーダーの種類に応じて点灯します。

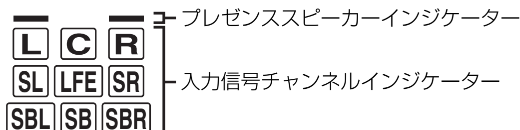
ⓜ **チューナーインジケーター**
FM ／ AM 放送を聴くときや、放送局をプリセットするときに点灯します（53 ページ）。

ⓝ **メニューブラウズインジケーター**
iPod や USB などのメニューを表示しているときに、現在選んでいるメニューの下にも項目がある場合に点灯します。

ⓞ **SLEEP（スリープ） インジケーター**
スリープタイマーをオンに設定しているときに点灯します（44 ページ）。

ⓟ **VOLUME（ボリューム） インジケーター**
- 現在の音量を表示します。
- 本機をミュート（消音）しているときに点滅します（43 ページ）。

ⓠ **入力信号チャンネル／スピーカーインジケーター**

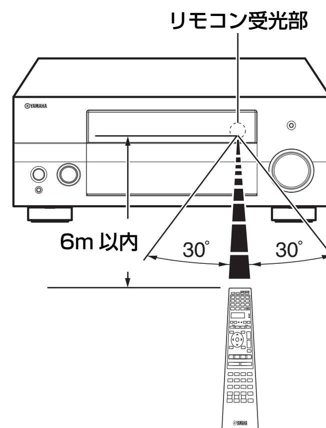


入力信号チャンネルインジケーター
- 入力しているデジタル信号に含まれているチャンネルに応じて点灯します。
- 自動測定を実行しているときにスピーカーの設定に応じて点灯／点滅します。（35 ページ）

プレゼンススピーカーインジケーター
自動測定を実施しているときや「音量」（81 ページ）で各スピーカーの音量を調節しているときに、「構成」の「フロントプレゼンス」（80 ページ）の設定に応じて点灯します。

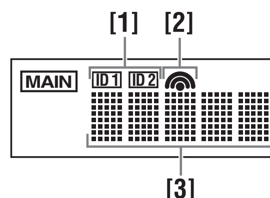
リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。



⑥LIGHT（ライト） キー
リモコンキーとリモコンディスプレイが点灯します（④）。

リモコンディスプレイ（④）



[1] ID1 ／ ID2 インジケーター
現在使われているリモコン ID を表示します（107 ページ）。

[2] トランスミッションインジケーター
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに表示します。

[3] インフォメーションディスプレイ
操作できる入力ソースの名前などを表示します。

赤外線送信部（①）
リモコン操作用の赤外線信号を送信します。リモコンを操作するときは、送信部を操作したい機器に向けてください。

準備

操作機器選択スイッチ（⑯）
いくつかのキーの機能は、操作機器選択スイッチの位置に応じて切り替わります。

AMP（アンプ）
本機のアンプ機能を操作するときに選びます。

SOURCE（ソース）
入力選択キーで選んだ機器を操作するときに選びます。（98 ページ）

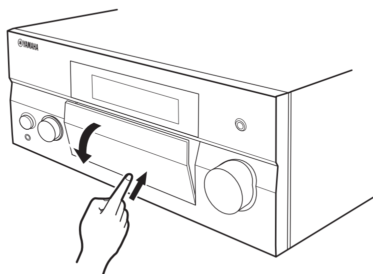
TV（テレビ）
テレビを操作するときに選びます。
（97 ページ）

ご注意

- 水やお茶などの液体をこぼさないでください。
- 落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないでください。
  －風呂場の近くなど、湿度が高いところ
  －暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ
  －極端に寒いところ
  －ほこりの多いところ
- 外部機器のリモコンコードを設定するには、100 ページをご覧ください。

コントロールパネルの開閉

コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使うときは、パネルの下の部分を押すと、パネルが開きます。コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使わないときは、パネルを閉めておきます。パネルの開閉時には指などを挟まないようご注意ください。



最適な視聴空間を自動的に設定する（YPAO）

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定できます。スピーカーからテストトーンを出力し、付属のオプティマイザーマイクで測定します。本機は複数の測定方法を搭載していますので、お好みに応じて選べます。

簡易自動測定（35 ページ）
フロントパネルディスプレイに表示されるメニューを見ながら測定します。

通常自動測定（36 ページ）
１つのリスニングポジション（視聴位置）で測定します。項目を選んで測定することもできます。

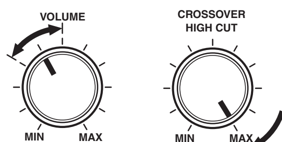
詳細自動設定（38 ページ）
複数のリスニングポジション（視聴位置）で測定します。項目を選んで測定することもできます。

準備

自動測定を始める前に

自動測定を始める前に以下の事項をご確認ください。

- ❏ すべてのスピーカー、およびサブウーファーが正しく接続されている
- ❏ ヘッドホンが取り外されている
- ❏ モニターが正しく接続されている
- ❏ 本機とモニターの電源がオンになっている
- ❏ モニターの映像入力が本機の映像に切り替わっている
- ❏ サブウーファーの電源がオンで、音量が約半分（または半分よりやや小さめ）に設定されている
- ❏ サブウーファーのハイカット／クロスオーバー周波数が最大に設定されている



サブウーファーの調節ツマミ（例）

- ❏ リスニングルームや周囲の環境ができるだけ静かに保たれている
- ❏ 操作機器選択スイッチ（⑯）が AMP になっている。

ご注意

- 測定中は大きな音量でテストトーンが出ます。小さなお子様がリスニングルームに入らないようご配慮ください。
- 最適な測定を行うため、測定中はお部屋の環境をできるだけ静かに保つようにしてください。物音などが聞こえると、正確な測定結果が得られない場合があります。

簡易自動測定

フロントパネルディスプレイに表示されるメニューを見ながら測定します。

1 フロントパネルの OPTIMIZER MIC 端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する。



オプティマイザーマイク

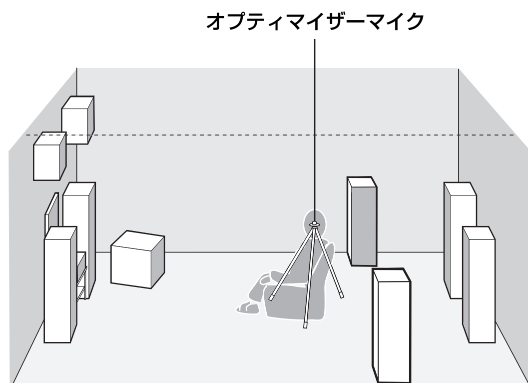
フロントパネルディスプレイに以下のように表示されます。

```
AUTO SETUP
ENTER TO START
```

ご注意

モニター画面にメニューが表示されている場合は「View GUI Menu」と表示されます。この場合、⑲MENU キーを押してメニューを消すか、「通常自動測定」で測定してください（36 ページ）。

2 オプティマイザーマイクを視聴位置（リスニングポジション）に、ヘッド部を上に向けて耳と同じ高さに置く。




耳と同じ高さに設置するために三脚などを使うことをおすすめします。その場合は、三脚に付属しているネジでオプティマイザーマイクを固定してください。

次の手順に進む前に

次の手順を操作すると、１０秒後に測定を開始します。測定中は本機を操作しないでください。より正確な測定結果を得るため、測定を妨げない位置（スピーカーの横や後ろなど）に移動して物音を立てないようにするか、お部屋の外で待機することをおすすめします。測定には約３分かかります。

3　⑨ENTER キーを押して測定を開始する。
１０秒間のカウントダウンを開始します。


- 測定をすぐに開始する場合は ⑨ENTER キーを押します。
- 自動測定を中止する場合は ⑩RETURN キーを押してから ⑨ENTER キーを押します。

測定中は大きな音量でテストトーンが出力されます。測定が終わると、モニターに「COMPLETED」と表示されます。

```
COMPLETED
PLS UNPLUG MIC
```

ご注意

エラーメッセージや警告メッセージについては「自動測定」をご覧ください（119 ページ）。

```
ERROR: E-01
PRESS ENTER
```

4　オプティマイザーマイクを取りはずして自動測定を終了する。

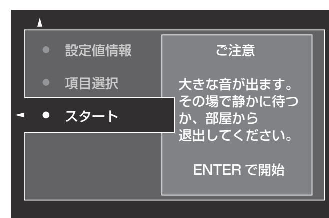

モニター画面を見ながら測定結果を確認できます（39 ページ）。

通常自動測定

１つのリスニングポジションで測定します。項目を選んで測定することもできます。

1　モニターの電源をオンにし、「簡易自動測定」の手順１～２を操作する（35 ページ）。

2　リモコンの ⑲MENU キーを押す。
モニターに以下の画面が表示されます。



3　測定する項目を選ぶには ⑨△ キーを押して「項目選択」を選び、⑨▷ キーを押す。
測定する項目を選ばない場合は手順６へお進みください。


測定する項目を選ばない場合は前回選択された項目を測定します。初期設定ではすべての項目が選択されています。

4　⑨◁ / ▷ キーを繰り返し押して項目を選び、⑨ENTER キーを押して測定するかしないかを選ぶ。
測定する項目にチェックマークを入れます。

項目	説明
マルチ測定	複数個所で測定します。詳しくは「詳細自動測定」（38 ページ）をご覧ください。「通常自動測定」では、初期設定のまま測定してください。
結線の確認	スピーカーの接続状態や極性をチェックします。
距離の補正	リスニングポジションから各スピーカーまでの距離の差を補正します。

項目	説明
大きさ判定	各スピーカーのサイズを設定します。
周波数補正	各スピーカーの周波数特性を補正します。
音量の調整	各スピーカーの音量を調整します。

5　設定が終わったら ⑨◁ キーを押して前のメニューに戻り、⑨▽ キーを押して「スタート」を選ぶ。

次の手順に進む前に

次の手順を操作すると、１０秒後に測定を開始します。測定中は本機を操作しないでください。より正確な測定結果を得るため、測定を妨げない位置（スピーカーの横や後ろなど）に移動して物音を立てないようにするか、お部屋の外で待機することをおすすめします。測定には約３分かかります。

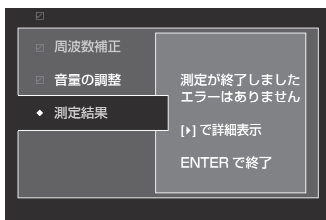
6　⑨ENTER キーを押して測定を開始する。

１０秒間のカウントダウンを開始します。



- 測定をすぐに開始する場合は ⑨ENTER キーを押します。
- 自動測定を中止する場合は ⑩RETURN キーを押します。

測定中は大きな音量でテストトーンが出力されます。測定が終わると、「測定が終了しました」と表示されます。



ご注意

エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合は「エラー／警告メッセージ」をご覧ください（37 ページ）。



7　⑨ENTER キーを押して「測定結果」表示を終了する。



測定結果の詳細を確認するには、⑨▷ キーを押します。⑨△ ／ ▽ キーを繰り返し押して項目を切り替えてください（40 ページ）。⑨◁ キーを押すと「測定結果」画面に戻ります。

8　測定結果を保存する場合は ⑨◁ キーを押して「はい」を、保存しない場合は ⑨▷ キーを押して「いいえ」を選ぶ。

9　⑲MENU キーを押して設定を終了し、オプティマイザーマイクを取り外す。

■　エラー／警告メッセージ

自動測定を実施中にエラーメッセージや警告メッセージが表示された場合、以下の手順を操作してください。各メッセージについて詳しくは「自動測定」をご覧ください（119 ページ）。

- エラー／警告メッセージの詳細を表示するには ⑨▷ キーを押します。⑨△ ／ ▽ キーを押すとページを切り替えます（前後にページがある場合）。⑨◁ キーを押すと前のメニューに戻ります。
- 初期メニュー画面に戻るには ⑨◁ キーを押します。
- 測定をやり直すには ⑨△ キーを押します。
- メッセージを無視して測定を続行するには ⑨▽ キーを押します。

ご注意

エラーや警告の内容により、操作できない項目があります。

準備

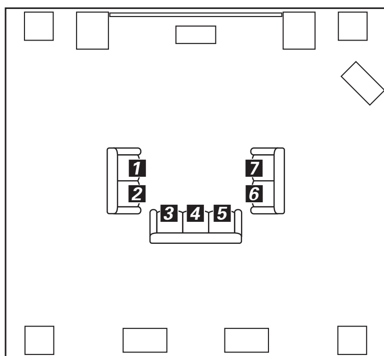
詳細自動測定

複数のリスニングポジションで測定します。項目を選んで測定することもできます。

1　モニターの電源をオンにし、フロントパネルのOPTIMIZER MIC 端子にオプティマイザーマイクを接続する。

2　最初に測定するリスニングポジションにオプティマイザーマイクを設置する。

下図は、７箇所のリスニングポジションで測定する場合の設置方法を例示しています。



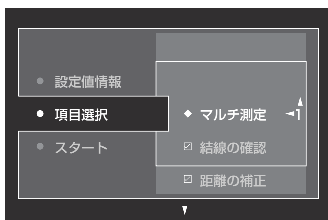
1／2／3／4／5／6／7: リスニングポジション

3　リモコンの ⑲MENU キーを押す。

モニター画面にメニューが表示されます。

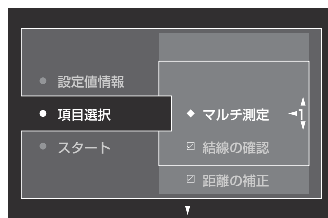
4　⑨△ キーを押して「項目選択」を選び、⑨▷ キーを押す。

5　⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「マルチ測定」を選び、⑨▷ キーを押す。



6　⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して、測定したいリスニングポジションの数を選び、⑨◁ キーを押す。

選択項目：
１（初期設定）、２、３、４、５、６、７、８



7　測定する項目を選ぶには ⑨△ / ▽ キーを押し、⑨ENTER キーを押して測定するかしないかを選ぶ。

測定する項目を選ばない場合は手順８へお進みください。



測定する項目を選ばない場合は前回選択された項目を測定します。初期設定ではすべての項目が選択されています。

8　⑨◁ キーを押して前のメニューに戻り、⑨▽ キーを押して「スタート」を選ぶ。

次の手順に進む前に

次の手順を操作すると、１０秒後に測定を開始します。測定中は本機を操作しないでください。より正確な測定結果を得るため、測定を妨げない位置（スピーカーの横や後ろなど）に移動して物音を立てないようにするか、お部屋の外で待機することをおすすめします。測定には約３分かかります。

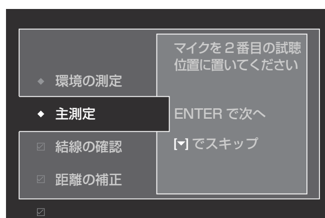
9　⑨ENTER キーを押して測定を開始する。

１０秒間のカウントダウンを開始します。



- 測定をすぐに開始する場合は ⑨ENTER キーを押します。
- 自動測定を中止する場合は ⑩RETURN キーを押します。

測定中は大きな音量でテストトーンが出ます。最初のリスニングポジションでの測定が終わると、以下の画面が表示されます。



ご注意

エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合は「エラー／警告メッセージ」をご覧ください（37 ページ）。

10 **２番目に測定するリスニングポジションにオプティマイザーマイクを移動し、⑨ENTER キーを押す。**



残りのリスニングポジションでの測定をスキップする場合は ⑨▽ キーを押してください。

11 **すべてのリスニングポジションでの測定が終わるまで手順 10 を繰り返す。**
すべてのリスニングポジションでの測定が終わるか、残りのリスニングポジションでの測定をスキップした場合、「操作が終了しました」と表示されます。

12 **「通常自動測定」（36 ページ）の手順 7 ～ 9 を操作して測定結果を確認し、設定を終了する。**

設定値を確認する／以前の状態に戻す

自動測定の設定値を確認したり、手動でのスピーカー設定や音の調節値を前回実施した自動測定の設定値に戻したりします。

ご注意

自動測定の設定値に戻すと手動での設定値は破棄されます。自動測定の値に戻す前に設定を保存するには「システム・メモリー」をご覧ください（92 ページ）。

1 **操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、⑲MENU キーを押す。**
モニターにメニュー画面が表示されます。

「トップメニュー」（71 ページ）以外が表示されている場合は、トップメニューが表示されるまで ⑲MENU キーを長押ししてください。

2 **⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「設定」を選び、⑨▷ キーを押す。**

3 **⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「自動測定」を選び、⑨▷ キーを押す。**

4 **⑨△ キーを繰り返し押して「設定値情報」を選び、⑨▷ キーを押す。**

5 **⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して、設定値を確認したい項目を選ぶ。**

準備

項目	説明
マルチ測定	測定したリスニングポジションの数を表示します。
結線の確認	スピーカーの接続状態や極性を表示します。 －正：極性が正しく接続されている。 －逆：極性が逆に接続されている。 －有：サブウーファーを接続している。 －無：スピーカーを接続していない。
距離の補正	リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を表示します。⑨▷ キーを繰り返し押して、表示するスピーカーを切り替えてください。
大きさ判定	各スピーカーの大きさとクロスオーバー周波数（「クロス」）を表示します。 －大：低域効果音を効果的に再生できる。 －小：低域効果音を効果的に再生できない。
周波数補正	各スピーカーの周波数補正結果を表示します。⑨▷ キーを繰り返し押すと、パラメトリックイコライザーの種類を切り替えられます。画面に表示されている測定結果を適用するには ⑨ENTER キーを押してください。 選択項目：**ナチュラル**、フラット、フロント －ナチュラル：すべてのスピーカーの音質を高域特性を下げた状態に揃えます。高域がきつく聞こえるときに設定してください。 －フラット：各スピーカーの音質を均一（フラット）にします。 －フロント：フロント左／右スピーカーの特性に各スピーカーの特性を合わせます。
音量の調整	各スピーカーの音量の補正結果を表示します。⑨▷ キーを繰り返し押すと、パラメトリックイコライザーの種類（上記参照）ごとの補正結果を確認できます。パラメトリックイコライザーを使用しない場合の補正結果を表示するには、「スルー」を選んでください。



警告メッセージの原因となっている項目は、黄色、またはピンク色で表示されます。

ご注意

- スピーカーを接続していない、または測定をしていないチャンネルは「ーーー」と表示されます。
- スピーカーの種類や設置位置、リスニングルームを変更した場合は自動測定をやり直してください。
- 「距離の補正」の測定結果は、お使いのサブウーファーや外部アンプの特性により、実際よりも長い距離が表示される場合があります。
- 「周波数補正」の測定結果は、最適な補正をした結果、同じ周波数に異なった設定値が表示されることがあります。

6 表示されている項目を以前の状態に戻すには ⑨ENTER キーを押す。

7 ⑲MENU キーを押して終了する。



- 「PEQ選択」でパラメトリックイコライザーの種類を選ぶこともできます（83ページ）。
- サブウーファーの位相を設定できます（80 ページ）。

再生する

警告

DTS-CD を再生するときは、特に注意が必要です。DTS-CD を DTS 非対応の CD プレーヤーで再生するとノイズだけが再生され、スピーカーが故障する原因になります。お使いの CD プレーヤーが DTS-CD の再生に対応していることをご確認ください。また、DTS-CD を再生する前に音量が十分に下げられていることをご確認ください。



デジタル接続をしてDTS-CDを楽しむときは、再生する前に「入力選択」の「デコードモード」を「DTS固定」に設定してください（78ページ）。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

基本的な操作

1　本機に接続したモニターの電源をオンにする。

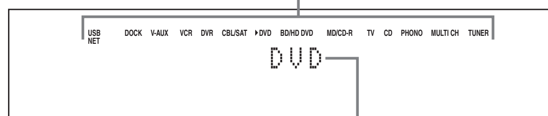


- 本機の HDMI OUT 端子にモニターを2つ接続した場合、(㉘)HDMI OUT キーを繰り返し押して、使用するモニターを選んでください。詳しくは 42 ページをご覧ください。
- モニター画面に表示されるメニューを見ながら本機を操作できます。
- 「映像の設定」（86 ページ）、および「表示設定」（89 ページ）で、フロントパネルディスプレイ表示の設定を変更できます。

2　ⒸINPUT セレクターを回す（または入力選択キー（③）を押す）。

現在選んでいる入力ソース名が数秒間表示されます。

選べる入力ソース



現在選んでいる入力ソース

3　入力機器を再生する、または FM ／ AM 放送局を選ぶ。

- 外部機器の操作については外部機器に付属している取扱説明書をご覧ください。
- FM ／ AM 放送の選局（53 ページ）
- Bluetooth 機器の再生（56 ページ）
- iPod の再生（58 ページ）
- USB デバイス／ネットワークオーディオの再生（60 ページ）

4　ⓄVOLUME コントロールを回して（または⑳VOLUME ＋ / －キーを押して）音量を調節する。

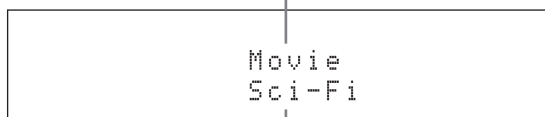


各スピーカーの音量を調節するには 81 ページをご覧ください。

5　ⓂPROGRAM セレクターを回して（または音場プログラムキー（㉗）を押して）、音場プログラムを選ぶ。

音場プログラムについて詳しくは、45 ページをご覧ください。

現在選んでいる音場プログラムカテゴリー



現在選んでいる音場プログラム



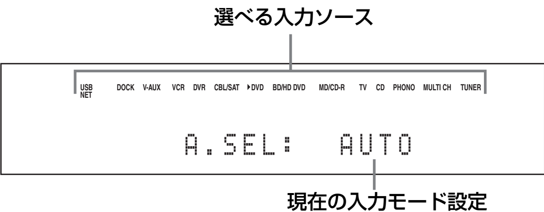
ⓀINFO キー（または操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、⑬INFO キー）を繰り返し押して、フロントパネルディスプレイに表示される情報（現在選んでいる入力ソースや音場プログラムなど）を切り替えてください。

音声を入力する端子を選ぶ（入力モード切り替え）

1 つの再生機器を 2 種類以上の音声端子を使って接続している場合に、音声を入力する端子を選びます。

1 **ⓒINPUT セレクターを回して（または入力選択キー（③）を押して）、入力ソースを選ぶ。**

2 **ⓓAUDIO SELECT キーを押してから ⓜPROGRAM セレクターを回して（または操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、㉕AUDIO SEL キーを繰り返し押して）、音声を入力する端子を切り替える。**



AUTO	以下の優先順位で入力端子を選びます。 （1）HDMI （2）デジタル （3）アナログ
HDMI	HDMI 端子を選びます。HDMI 信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
COAX/OPT	以下の優先順位で入力端子を選びます。 （1）同軸デジタル （2）光デジタル 同軸／光デジタル信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
ANALOG	アナログ端子を選びます。アナログ信号が入力されていない場合、音声は出力されません。

「音声入力初期値」で、電源オン時の入力モード初期値を設定できます（90 ページ）。

ご注意

「端子の割り当て」（89 ページ）で、選んでいる入力ソースにデジタル入力端子が割り当てられていない場合、その端子は選べません。また、HDMI 入力端子が割り当てられているときのみ「HDMI」を選べます。

マルチチャンネル入力の音声を聴く

本機の MULTI CH INPUT 端子（28 ページ）に接続した機器の音声を再生します。

ⓒINPUT セレクターを回して（または ③MULTI キーを押して）「MULTI CH」入力を選ぶ。

「マルチCH入力」で、マルチチャンネル入力の設定を変更できます（78ページ）。

ご注意

MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、音場プログラムは選べません。

信号を出力する HDMI 端子を選ぶ

入力信号を出力する HDMI OUT 端子を選びます。

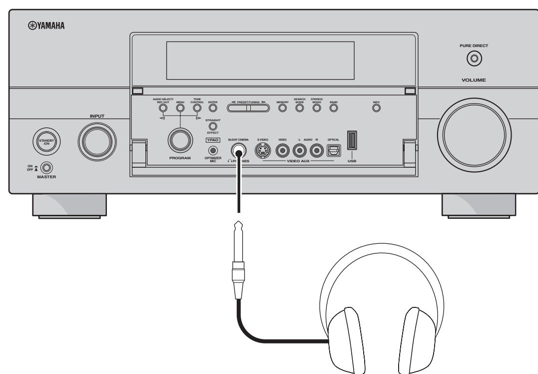
操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選び、リモコンの ㉘HDMI OUT キーを繰り返し押して設定を変更する。
信号を出力する HDMI 出力端子の設定が以下のように切り替わります。

OUT 1+2	HDMI OUT 1 と HDMI OUT 2 の両方の端子から同時に信号を出力します。
OUT 1	HDMI OUT 1 端子から信号を出力します。
OUT 2	HDMI OUT 2端子から信号を出力します。
OFF	HDMI OUT 1 と HDMI OUT 2 の両方の端子から信号を出力しません。HDMI OUT 端子に接続しているモニターを使わない場合に設定します。

「コントロールモニター」で、HDMI コントロール信号を出力する HDMI OUT 端子を設定できます（88 ページ）。

ヘッドホンで再生を楽しむ

フロントパネルの PHONES 端子とヘッドホンを、ヘッドホン用ケーブルを使って接続する。





音場プログラムを選ぶと、自動的にサイレントシネマ TM モードに切り替わります（50 ページ）。

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときはスピーカーから音声は出力されません。
- すべてのマルチチャンネル音声信号はヘッドホンの左右チャンネルに振り分けられます。
- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、MULTI CH INPUT FRONT 端子から入力した音声信号のみ出力します。

一時的に音量を下げる

リモコンの ㉒MUTE キーを押す。もとの音量に戻すには、㉒MUTE キーをもう一度押す。



- 音量を一時的に下げているときはフロントパネルディスプレイの VOLUME インジケーターが点滅します。
- 「ミューティング量」で、下げる音量を選べます（82 ページ）。

入力信号情報を表示する

音声および映像入力信号の情報をモニターに表示します。

1 操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、リモコンの ⑧STATUS キーを押す。
モニターに情報画面が表示されます。

2 ⑨◁ / ▷キーを押して音声情報と映像情報を切り替える。

3 ⑧STATUS キーを押して終了する。

基本操作

■ 音声情報

信号方式	フォーマットを表します。本機がデジタル信号を認識できないときは、自動的にアナログ入力に切り替わります。
サンプリング	アナログ信号をデジタル信号化するときの、1 秒あたりのサンプル数を表します。
チャンネル	入力信号に含まれているチャンネル数を表します（フロント／サラウンド／ LFE）。例えば、入力信号にフロント 3 チャンネル、サラウンド 2 チャンネル、LFE が含まれている場合は、「3/2/0.1」と表示されます。
ビットレート	入力信号の 1 秒あたりのデータ量を表します。
ダイアローグ	ビットストリーム信号のダイアログノーマライゼーションレベルを表します。
フラグ 1 ／フラグ 2	ビットストリーム信号、PCM に含まれている識別信号を表します。

ご注意

- 本機が情報を正しく表示できない場合は、「－－－」と表示されます。
- AAC 信号のビットレートは再生中に変化する場合があります。
- 次世代オーディオフォーマットでは、独立したサラウンドバック左／右チャンネル信号を含まずに、192kHz のビットレートでエンコードされている場合があります。
- ビットストリーム信号をそのまま出力するように設定していても、再生機器によってはドルビー TrueHD やドルビーデジタルプラス信号がドルビーデジタル信号に変換されたり、DTS － HD マスターオーディオや DTS － HD ハイレゾリューションオーディオ信号が DTS 信号に変換されたりすることがあります。

■ 映像情報

HDMI 信号	映像入力信号と、HDMI OUT 端子から出力している映像信号を表します。
HDMI 解像度	入力信号（アナログまたは HDMI）と出力信号（HDMI）の解像度を表します。
アナログ解像度	映像入力信号と、本機の COMPONENT MONITOR OUT 端子から出力されるアナログ映像信号の解像度を表します。
HDMI エラー	HDMI 信号や HDMI 機器に関するエラーを表します。

HDMI エラー情報

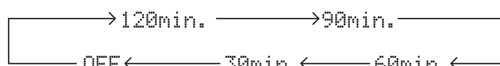
デバイス数超過	制限台数を超える HDMI 機器が接続されています。
HDCP 認証失敗（HDMI メッセージ）	HDCP の認証に失敗しました。
範囲外の解像度	モニターが映像入力信号の解像度に対応していません。

一定時間後に自動的にスタンバイにする（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときなどに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面の AC アウトレット（31 ページ）に接続した機器の電源もオフになります。

操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選び、⑬SLEEP キーを繰り返し押して時間を設定する。

下記のように設定が切り替わります。



スリープタイマーを設定すると、フロントパネルディスプレイの SLEEP インジケーターが点灯し、音場プログラム表示に戻ります。

スリープタイマーを解除する

操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選び、⑬SLEEP キーを繰り返し押して「OFF」を選んでください。



本機の電源をスタンバイにすると、スリープタイマーは自動的にキャンセルされます。

音場プログラムを楽しむ

本機は 2 チャンネルソースやマルチチャンネルソースのほぼすべてをマルチチャンネル音声で楽しめる、多彩なデコーダーを装備しています。また、音の楽しさを広げる、音場プログラムが記憶されたヤマハ・デジタルサウンドフィールドプロセッシング（DSP）チップを搭載しています。



ヤマハ CINEMA DSP 音場プログラムは、すべてのドルビーデジタル、DTS、ドルビーサラウンド、ドルビー TrueHD、DTS-HD マスターオーディオソースに有効です。

音場プログラムを選ぶ

ⓂPROGRAM セレクターを回す（または操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、音場プログラムキー ㉗ を繰り返し押す）。

選んだ音場プログラムの名前がフロントパネルディスプレイ、およびショートメッセージ画面に表示されます。



- モニター画面を見ながら、音場プログラムを選んだり音場パラメーターを調節したりすることができます（72 ページ）。
- 調節できる音場パラメーターや音場効果は、入力ソースや本機の設定により変化します。

ご注意

- 入力ソースを選ぶと、本機は前回その入力ソース選択時に選んでいた音場プログラムを自動的に呼び出します。
- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているとき（28 ページ）や、ピュアダイレクトモードで再生しているとき（52 ページ）は、音場プログラムを選べません。
- DTS 96/24 ソースに音場プログラムをかけて再生する場合、本機は DTS 96/24 デコードせずに音場プログラムを適用します。
- 入力ソースが 48kHz を超えるサンプリング周波数の場合、48kHz 以下にダウンサンプリングしてから音場プログラムを適用します。

音場プログラムの傾向について

各音場プログラムの初期設定時の特長を以下の指標によって表現します。

ご注意

これらの特長は、リスニングルームの設定や音場パラメーターの設定などによっては異なって感じられる場合があります。

音場空間の大きさ（大きさ）

小 ―――○――― 大

生成する音場の大小を表します。小さいと小規模な空間の響きになり、大きいと広大な空間の響きになります。

高さと広さのバランス（高さ／広さ）

高 ―――○――― 広

生成する音場の垂直方向（高さ）と水平方向（広さ）のバランスを表します。
この項目が横（水平方向）寄りだと壁面からの反射が強い空間の響きになり、たて（垂直方向）寄りだと天井からの反射が強い空間の響きになります。

前後のバランス（前／後）

前 ―――○――― 後

CINEMA DSP プログラムを選んでいるときに適用される指標です。前方と後方のどちらの効果がより大きいかを表します。
前方の効果が大きい場合は画面方向の開放感や奥行き感が、後方の効果が大きい場合は周囲の包囲感や移動感が感じられやすくなります。
前方／後方のバランスがとれているプログラムは比較的にどのようなソースにも合いやすく、どちらかに振られているプログラムはソースに合わせて選ぶとより効果的です。

音場の雰囲気（雰囲気）

生成する音場の雰囲気が、以下のどちらに近い傾向かを表します。選んでいる音場プログラムの種類により、評価の基準が異なります。

すっきり ―――○――― 複雑

すっきり：　響きの消え方が素直で、軽やかで穏やかな印象です。華やかさや迫力は少なめですが、比較的どのようなソースにも合いやすいプログラムです。

複雑：　響きが複雑に変化しながら減衰し、豊かで華やかな印象です。ソースによって相性がありますが、相性が良いソースに対しては非常に効果的なプログラムです。

穏やか ―――○――― パワフル

穏やか：　全般的に穏やかで控えめな効果です。派手さや迫力は少なめですが、比較的どのようなソースにも合いやすいプログラムです。

パワフル：　広大な空間表現や熱狂感などがあり、SF 映画やスペクタクル感のある映画などによく合うプログラムです。ソースによって相性がありますが、相性が良いソースに対しては非常に効果的なプログラムです。

■ 音楽用音場プログラム



音楽用には、ピュアダイレクトモード（52 ページ）、およびストレートデコードモード（51 ページ）もおすすめします。

CLASSICAL 1　CLASSICAL（クラシカル）

Hall in Munich（ホール イン ミュンヘン）	
ヨーロッパに多くみられる、内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は 1 階の中央左寄りです。	**大きさ**　小 ―○― 大 **高さ／広さ**　高 ―○― 広 **雰囲気**　すっきり ―○― 複雑

Hall in Vienna（ホール イン ウィーン）	
1700 席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。	**大きさ**　小 ―○― 大 **高さ／広さ**　高 ―○― 広 **雰囲気**　すっきり ―○― 複雑

ホール イン アムステルダム
Hall in Amsterdam

アムステルダムの広幅化したシューボックス型の大ホールで、サークルステージ、ステージバック席があり、客席は2200 程です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

チャーチ イン フライブルグ
Church in Freiburg

ドイツ南部の 120m 近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みはあまりありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

チェンバー
Chamber

宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長の音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

LIVE/CLUB 2

ライブ クラブ
LIVE/CLUB

ビレッジ バンガード
Village Vanguard

ニューヨークの 7 番街にあるジャズクラブです。天井が低く、狭い室内の角にあるステージ付近に強い反射音が集中しています。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ウェアハウス ロフト
Warehouse Loft

ソーホーのロフトを思わせるコンクリートの空間です。壁面からの反射音は比較的明瞭で、エネルギッシュな音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

セラー クラブ
Cellar Club

天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ザ ロキシー シアター
The Roxy Theatre

ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約 460 程です。客席中央左寄りの音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ザ ボトム ライン
The Bottom Line

かつてニューヨークに存在した有名なライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長の音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

■ すべてのソース用音場プログラム

ENTERTAIN 3

エンターテイン
ENTERTAIN

スポーツ
Sports

ステレオ放送のスポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに明瞭に定位し、歓声も含め場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり、その場にいるような臨場感が体感できます。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

■ ゲーム用音場プログラム

ENTERTAIN 3

エンターテイン
ENTERTAIN

アクション　ゲーム
Action Game

カーレースや FPS などのアクションゲームに合わせてデザインされた音場です。チャンネル毎に効果の範囲を制限した反射音データを用いることで、明瞭な方位感を保ちつつさまざまな効果音の存在感を高め、臨場感と迫力のあるプレイ環境を提供します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

ロールプレイング　ゲーム
Roleplaying Game

RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせてデザインされた音場です。映画用の音場効果と、Action Game で用いた音場デザインを組み合わせることで、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を提供します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

■ 音楽系映像ソース用

ENTERTAIN 3

エンターテイン
ENTERTAIN

ミュージック　ビデオ
Music Video

ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感と、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場に加え、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場により、ホットなライブ空間に浸れます。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

リサイタル　オペラ
Recital/Opera

響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感とともに、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の楽しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

■ 映像用音場プログラム


下記の音場プログラム（Mono Movie 以外）と組み合わせるデコーダーを選べます（66 ページ）。

MOVIE 4 MOVIE（ムービー）

Standard（スタンダード）

ドルビーデジタル、DTS および AAC などの各種マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱すことなく、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」をコンセプトにデザインされた音場で、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

Spectacle（スペクタクル）

壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面にマッチする広大な空間再現と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広い音場感が特長です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

Sci-Fi（サイファイ）

最新 SFX 映画の緻密なサウンドデザインを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各々の異なった空間を鮮やかに再現します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

Adventure（アドベンチャー）

アクション＆アドベンチャー映画に最適な音場です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行感は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

Drama（ドラマ）

シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長の音場です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM が柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

Mono Movie（モノ ムービー）

往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめる音場です。音声に拡がりと適度な残響が付加され、奥行感をともなった心地よい空間が再現されます。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

■ ステレオ再生用音場プログラム

STEREO 5 STEREO（ステレオ）

2ch Stereo（2チャンネル ステレオ）
前方からのステレオ音声が楽しめる、基本的な再生モードです。

7ch Stereo（7チャンネル ステレオ）
後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長の再生モードです。ホームパーティーのBGMに最適です。セットメニューの設定により、最大7つのスピーカーから音が出力されます。

■ 圧縮音源用（コンプレストミュージック・エンハンサーモード）

ENHANCER 6 ENHANCER（エンハンサー）

Straight Enhancer（ストレート エンハンサー）
2チャンネル／マルチチャンネル圧縮オーディオフォーマットを、音源のチャンネル数はそのままにダイナミックに再生します。

7ch Enhancer（7チャンネル エンハンサー）
7チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生します。

■ サラウンドデコードモード

SUR. DECODE 7 SUR. DECODE（サラウンド デコード）

サラウンドデコーダー
デコーダーを選んで2チャンネルソースをマルチチャンネルで再生するときに選びます（66ページ）。

■ サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

サラウンドスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる音場再生を楽しめます。
バーチャルシネマDSPモードでは、仮想スピーカーを創り出すことによって自然な音場を再現します。「サラウンド」を「無」に設定すれば（80ページ）、音場プログラム（45ページ）を選んでいるときは自動的にバーチャルシネマDSPモードに切り替わります。

ご注意

以下の場合、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
－MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生している（28ページ）。
－ヘッドホンをPHONES端子に接続している。
－7ch Stereoで再生している（50ページ）。

■ ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ™）

サイレントシネマ™では、ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースをヘッドホンで楽しめます。音場プログラム（45ページ）を選んでいるときにヘッドホンをPHONES端子に接続すれば、自動的にサイレントシネマ™モードに切り替わります。サイレントシネマ™モードで再生しているあいだはフロントパネルディスプレイのSILENT CINEMAインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合、サイレントシネマ™モードは無効になります。
－MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生している（28ページ）。
－2ch Stereo（50ページ）、ピュアダイレクトモード（52ページ）、ストレートデコードモード（51ページ）で再生している。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

より立体的な音場を楽しむ（CINEMA DSP 3Dモード）

CINEMA DSP 3D モードでは、より緻密で立体的な 3D 感覚の音場をリスニングルームに再現します。

㉖3D DSP キーを繰り返し押して、CINEMA DSP 3D モードのオン／オフを切り替える。
CINEMA DSP 3D モードがオンのときは 3D インジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合、CINEMA DSP 3D モードは無効になります（「3D:--」が表示されます）。
–「フロントプレゼンス」を「使用しない」に設定している（80 ページ）。
–CINEMA DSP（7ch Stereo 以外）を選んでいない。
–ヘッドホンを PHONES 端子に接続している。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

ストレートデコードモードでは、2 チャンネルソースをフロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合は、ソースを適切なデコーダーでデコードし、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

ⓃSTRAIGHT キー（または ㉚STRAIGHT キー）を押して「STRAIGHT」を選ぶ。

ストレートデコードモードを解除する
ⓃSTRAIGHT キー（または ㉚STRAIGHT キー）をもう一度押す、または他の音場プログラムを選ぶ（45 ページ）。

基本操作

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクトモード）

入力ソースを原音に忠実な高品質音声で再生します。ピュアダイレクトモードをオンにすると、音声入力信号を最小限の回路構成で再生します。

ⓁPURE DIRECT キー（または ㉔PURE DIRECT キー）を押してピュアダイレクトモードのオン／オフを切り替える。
ピュアダイレクトモードで再生しているあいだはフロントパネルの ⓁPURE DIRECT キーが点灯し、フロントパネルディスプレイが非表示になります。

ご注意

- ピュアダイレクトモードで再生しているときは、以下の機能が無効になります。
  －音場プログラムの切り替え
  －メニュー画面の表示
  －録音／録画
- 本機の電源をスタンバイにするとピュアダイレクトモードは自動的に解除されます。



ピュアダイレクトモードで再生中に本機から映像信号を出力するには、「ピュアダイレクト」の設定を変更してください（85 ページ）。

音色を調節する（トーンコントロール）

フロント左／右、センタースピーカー、サブウーファーの低音域と高音域のバランスを調節します。

1 フロントパネルの ⒹTONE CONTROL キーを繰り返し押して低音域（BASS）または高音域（TREBLE）を選ぶ。

2 ⓂPROGRAM セレクターを回して音色を調節する。
調節範囲：－6.0dB ～＋6.0dB

ご注意

- 音色を極端に調節した場合、サラウンドスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- ピュアダイレクトモードで再生しているときや MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているときは音色を調節できません。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

スピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら各スピーカーの音量を調節します。MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているときも調節できます。

ご注意

「自動測定」（35 ページ）や「音量」（81 ページ）で各スピーカーの音量を調節している場合は設定が上書きされます。

1 リモコンの ⑬LEVEL キーを押してから ⑨∆ / ∇ キーを繰り返し押して、調節するスピーカーを選ぶ。

表示	調節するスピーカー
FRONT L	フロント左スピーカー
FRONT R	フロント右スピーカー
CENTER	センタースピーカー
SUR.L	サラウンド左スピーカー
SUR.R	サラウンド右スピーカー
SB L	サラウンドバック左スピーカー
SB R	サラウンドバック右スピーカー
FP L	プレゼンス左スピーカー
FP R	プレゼンス右スピーカー
SWFR	サブウーファー



各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。

2 ⑨◁ / ▷ キーを押して音量を調節する。
調節範囲：－10.0dB ～＋10.0dB

外部機器で録音／録画する

録音／録画するときに、元となる音声や映像を再生する機器を選びます。

1 フロントパネルディスプレイに「REC OUT」と表示されるまで ⒹREC OUT キーを押し続ける。

2 ⓂPROGRAM セレクターを回して、再生する機器を選ぶ。



現在選んでいる入力ソースを録音／録画する場合は「SOURCE」を選んでください。

FM ／ AM 放送を聴く

選局方法を選ぶ

FM ／ AM 放送は大別して 2 種類の方法で受信できます。

ノーマルチューニングモード
周波数をサーチしたり直接指定したりして FM ／ AM 放送を自動、または手動で受信します（下記「FM ／ AM 放送を選局する」）。

プリセットチューニングモード
FM ／ AM 放送局をプリセット（登録）しておき、プリセットグループとプリセットナンバーを指定することによって簡単に呼び出します（「プリセットチューニングモードで選局する」（55 ページ））。

ご注意

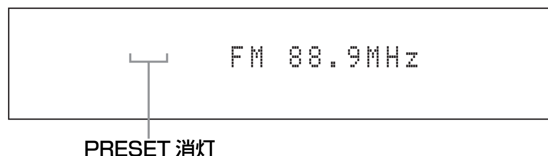
受信感度が最良になるように、本機に接続した FM ／ AM アンテナの向きや位置を調節してください。

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯**SOURCE** を選び、③**TUNER** キーを押してください。

FM ／ AM 放送を選局する

1 ⓙBAND キー（または ⑧BAND キー）を押してバンドを選ぶ。

2 フロントパネルディスプレイに PRESET インジケーターが点灯している場合は、ⓗSEARCH MODE キー（または ⑲SRCH MODE キー）を押して消灯する。



3 自動で選局するには、ⓕPRESET/TUNING◁ / ▷ キーを約 2 秒間長押しする（または ⑨PRESET/CH△ / ▽ キーを押す）。手動で選局するには、ⓕPRESET/TUNING◁ / ▷ キーを繰り返し押す。

- 高い周波数に向かって選局するには、ⓕ▷ キー（または ⑨△ キー）を押します。
- 低い周波数に向かって選局するには、ⓕ◁ キー（または ⑨▽ キー）を押します。

ご注意

受信したい放送局の電波が弱い場合は手動で選局するか、周波数を直接入力して受信してください（53 ページ）。



- 放送局を受信すると TUNED インジケーターが点灯します。
- フロントパネルディスプレイに表示される情報（現在選んでいる入力ソース、音場プログラムなど）を切り替えるには、ⓚ**INFO** キー（または操作機器選択スイッチ（⑯）で **AMP** を選び、⑬**INFO** キー）を繰り返し押してください。
- FM 放送のステレオ／モノラル受信を切り替えるには ⓘ**STEREO/MONO** キー（または ㉕**AUDIO** キー）を押します。

■ 周波数ダイレクト選局

周波数を直接入力して放送局を受信します。

1 「FM ／ AM 放送を選局する」（53 ページ）の手順 1 ～ 2 を操作してバンドを選ぶ。

2 数字キー（⑫）を押して、受信する放送局の周波数を入力する。
例：77.1MHz の放送局を受信する場合





受信範囲外の周波数が入力された場合、フロントパネルディスプレイに「WRONG STATION!」と表示されます。

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選び、③TUNER キーを押してください。

FM ／ AM放送局を登録する

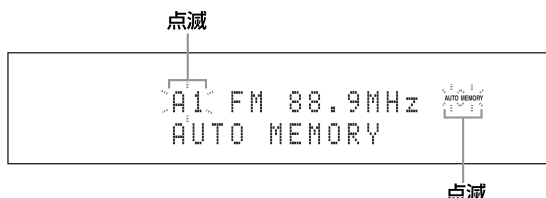
AM ／ FM 放送局を 40 局（8局× 5 グループ、A1 ～ E8）まで登録（プリセット）できます。オートプリセット、またはマニュアルプリセットで、放送局を登録してください。

■ オートプリセットで登録する

電波の強い FM 放送局を、自動的に 40 局まで登録（プリセット）できます。
AM 放送局は自動で登録できません。手動で登録してください（右記参照）。

1 ⒿBAND キー（または ⑧BAND キー）を押して「FM」を選ぶ。
フロントパネルディスプレイに「FM」と表示されます。

2 ⒿBAND キー（または ⑧BAND）を３秒以上押し続ける。
フロントパネルディスプレイに AUTO、および MEMORY インジケーターが点滅し、「AUTO MEMORY」と表示されます。約 5 秒後に、現在の周波数から高い周波数に向かってオートプリセットを開始します。



オートプリセットが完了すると MEMORY インジケーターが消灯します。



- オートプリセットを開始するプリセット番号を指定できます。手順 2 を操作したあとに、ⒻPRESET/TUNING◁ / ▷ キー（または ⑨A-E◁ / ▷ キー、PRESET/CH△ / ▽ キー）を繰り返し押して、最初のプリセット放送局を登録するプリセット番号を選んでください。
- 登録を中止するには ⒿBAND キー（または ⑧BAND キー）を押してください。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消去され、新しい放送局に入れ替わります。
- プリセットする放送局の数が４０（A1 ～ E8）に満たない場合は全周波数帯域を一巡して停止します。

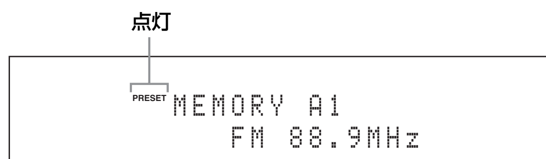
- オートプリセットでは、電波の強い FM 放送局だけが登録されます。AM 放送局や電波の弱い FM 放送局を登録したいときは、ノーマルチューニングモードで放送局を受信したあと、手動で登録してください（「マニュアルプリセットで登録する」下記参照）。

■ マニュアルプリセットで登録する

AM 放送局や、電波の弱い FM 放送を手動で登録します。

1 放送局を受信する。
受信方法については 53 ページ をご覧ください。

2 ⒼMEMORY キー（または ⑩MEMORY キー）を押す。
フロントパネルディスプレイに PRESET インジケーターが点灯します。

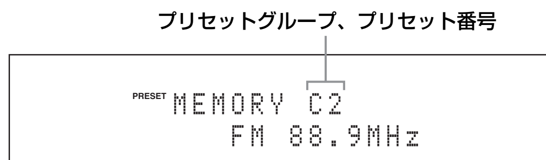




- 登録されていないプリセット番号に、受信した放送局を自動的に登録するには、手順2の代わりに ⒼMEMORY キー（または ⑩MEMORY キー）を2秒以上押してください。その場合、以下の操作は必要ありません。
- 登録を中止するには、MEMORY インジケーターが点滅しているあいだに ⒼMEMORY キー（または ⑩MEMORY キー）をもう一度押してください。

3 ⒻPRESET/TUNING◁ / ▷ キー（または ⑨A-E ◁ / ▷ キー、PRESET/CH △ / ▽ キー）を繰り返し押してプリセット放送局（A1 ～ E8）を選ぶ。

- 高いプリセットグループ／プリセット番号に向かって選局するには、Ⓕ▷ キー（または ⑨△ キー）を押します。
- 低いプリセットグループ／プリセット番号に向かって選局するには、Ⓕ◁ キー（または ⑨▽ キー）を押します。





- 数字キー（⑫）を押してプリセット番号（1～8）を指定することもできます。
- 登録済みのプリセット番号（番号の横に「＊」を表示）を選ぶと、現在の放送局が上書きされます。

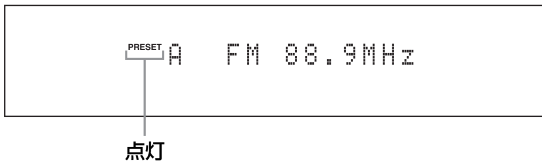
4 ⒺENTER キー（または ⑨ENTER キー）を押す。
放送局が登録され、PRESET インジケーターが消灯します。

ご注意

放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。

■ プリセットチューニングモードで選局する

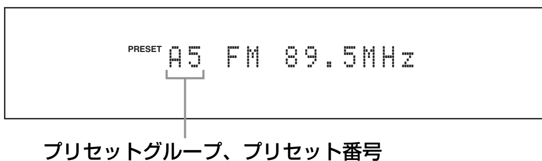
1 フロントパネルディスプレイに PRESET インジケーターが点灯していない場合は、ⒽSEARCH MODE キー（または ⑲SRCH MODE キー）を押して点灯させる。



ご注意

あらかじめ放送局が登録されていない場合は、プリセットチューニングモードで選局できません。

2 ⒻPRESET/TUNING◁ / ▷ キー（または ⑨PRESET/CH△ / ▽ キー）を押してプリセット放送局（A1 ～ E8）を選ぶ。





- 登録されていないプリセット番号はスキップします。
- ⑨A-E ◁ / ▷ キー、および数字キー（⑫）を押して、プリセット放送局（A1 ～ E8）を選ぶこともできます。

■ プリセット放送局の登録を解除する

プリセット放送局の登録を解除します。

1 登録を解除したい放送局を選局する。
詳しくは、「プリセットチューニングモードで選局する」をご覧ください（55 ページ）。

2 フロントパネルディスプレイに「CLEAR?」と表示されるまで ⒽSEARCH MODE キー（または ⑲SRCH MODE キー）を押し続ける。

A1 CLEAR?[ENT]
FM 88.9MHz

3 ⒺENTER キー（または ⑨ ENTER キー）を押して登録を解除する。



登録の解除を中止するには ⒽSEARCH MODE キー（または ⑲SRCH MODE キー）をもう一度押してください。

基本操作

Bluetooth® 機器を再生する

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）を DOCK 端子に接続すれば、本機と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）をケーブルで接続することなく、Bluetooth 機器に保存した音楽ファイルを再生できます。再生する前に Bluetooth レシーバーと Bluetooth 機器を「ペアリング」してください。フロントパネルディスプレイやモニター画面に表示されるメッセージについては「Bluetooth」をご覧ください（118 ページ）。

ご注意

本機は Bluetooth プロファイルの A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応しています。

Bluetooth® レシーバーと Bluetooth® 機器をペアリングする

Bluetooth 機器を Bluetooth レシーバーを使って本機で再生する前に「ペアリング」を行います。本機能をはじめて使う場合や、ペアリングしたデータが消去された場合は、必ず行ってください。「ペアリング」とは、Bluetooth で通信するために Bluetooth 機器を登録することです。



- ペアリングは Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーをはじめて使うときのみ必要です。
- Bluetooth で通信できるようにするには、本機および Bluetooth 機器の両方でペアリングしてください。必要に応じて Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

本機では、セットメニューの「ペアリング」と、クイックペアリングの 2 種類の方法でペアリングできます。

■ セットメニューでペアリングする

モニターに表示されるメニューを見ながらペアリングします。詳しくは、「ペアリング」をご覧ください（79 ページ）。

■ クイックペアリングでペアリングする

> セキュリティー確保のため、ペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

1 ⓒINPUT セレクターを回して（または操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選び、③DOCK キーを押して）「DOCK」を入力選択する。

2 ペアリングしたいBluetooth機器の電源をオンにし、Bluetooth 機器をペアリングモードにする。

Bluetooth 機器の操作方法について詳しくは Bluetooth 機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 フロントパネルディスプレイに「Searching」と表示されるまで ⓔENTER キー（または ⑨ENTER キー）を押す。

Bluetooth レシーバーがペアリングモードのとき、フロントパネルディスプレイに DOCK インジケーターが点滅します。



ペアリングを中止するにはもう一度 ⓔENTER キー（または ⑨ENTER キー）を押します。

4 Bluetooth機器がBluetoothレシーバーを認識していることを確認する。

Bluetooth 機器が Bluetooth レシーバーを認識している場合は Bluetooth デバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」（例）と表示されます。

5 Bluetooth デバイスリストから Bluetooth レシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。

正しくペアリングされた場合はフロントパネルディスプレイに「Completed」と表示されます。

ご注意

ヤマハ製 Bluetooth レシーバーは8台までの Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の機器が正しくペアリングされ、ペアリングデータが登録された場合、もっとも長い間使われていない機器のデータは消去されます。

Bluetooth® 機器の再生を楽しむ

1 ⓒINPUT セレクターを回して（または操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選び、③DOCK キーを押して）「DOCK」を入力選択する。

2 Bluetooth 機器の再生を開始する。

接続した Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器を認識すると、フロントパネルディスプレイに「BT Connected」と表示されます。



- ⑨ENTER キーを押すと、接続した Bluetooth レシーバーは最後に接続していた Bluetooth 機器を検索し、接続します。Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器を検索できなかった場合はフロントパネルディスプレイに「Not found」と表示されます。
- Bluetooth レシーバーと Bluetooth 機器の接続を解除するには ⑨ENTER キーを押してください。

ミュージックコンテンツメニュー

ミュージックコンテンツメニューでは、iPod や USB デバイス、パソコン、インターネットラジオの音楽ファイルをブラウズしたり、選んでいるサブ入力ソースの再生操作やプレイスタイルの設定をしたりすることができます。

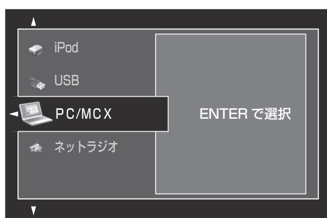
ミュージックコンテンツメニューの操作

1 操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、⑲MENU キーを押してメニュー画面を表示する。



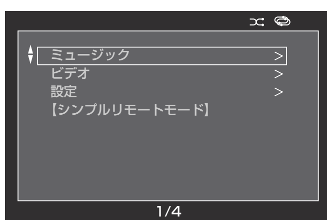
「トップメニュー」（71 ページ）以外が表示されている場合は、トップメニューが表示されるまで⑲MENU キーを長押ししてください。

2 ⑨◁ / ▷ キーを繰り返し押して「ミュージックコンテンツ」を選び、⑨▷ キーを押す。



3 ⑨◁ / ▷キーを繰り返し押してサブ入力ソースを選び、⑨ENTER キーを押す。

選んだサブ入力ソースのメニュー画面がモニターに表示されます。下図は例として iPod メニューを表示しています。



ご注意

サブ入力ソースが選択できない場合は「Not Available」と表示されます。

4 選んだサブ入力ソースのメニューを操作する。

各サブ入力ソースのメニュー項目、および操作手順について詳しくは以下に記載されている各ページをご覧ください。

- iPod（58 ページ）
- USB（60 ページ）
- PC/MCX（60 ページ）
- ネットラジオ（63 ページ）

ご注意

本機とネットワーク接続して使用できるミュージックキャスト（MusicCast）は、日本国内では販売されていません。

5 ⑲MENU キーを押して設定を終了する。

iPodを再生する

リアパネルのDOCK端子に接続したヤマハ製iPod用ドック（別売YDS-11など）にiPodをセットすれば（28ページ）、iPodを本機のリモコンで操作したりモニター画面に表示されるメニューを見ながら操作したりすることができます。また、コンプレストミュージック・エンハンサーモードを選べば、圧縮オーディオフォーマット（MP3など）をダイナミックな音声で再生できます（50ページ）。

ご注意

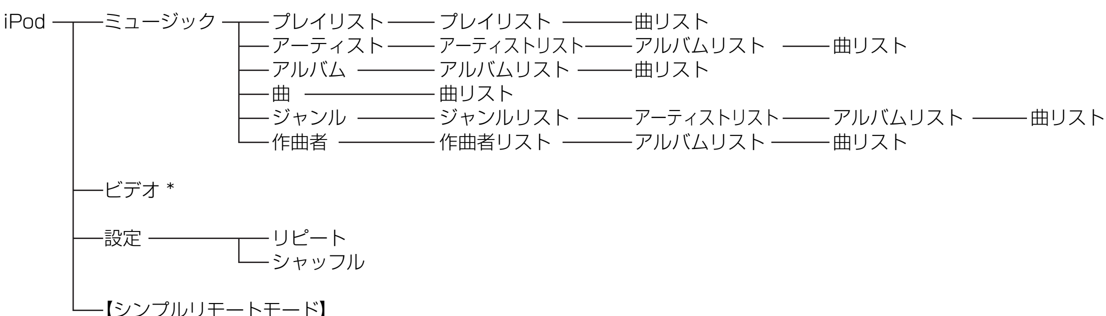
- iPod touch、iPod（iPod classicを含むクリックホイール）、iPod nano、iPod miniに対応しています。
- iPodの種類やソフトウェアのバージョンにより一部の機能が使えない場合があります。
- ヤマハ製iPod用ドックの種類により一部の機能が使えない場合があります。ここではYDS-11を使って説明します。



- 本機とiPodとの通信が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod Connected」と表示されます。
- フロントパネルディスプレイやモニター画面に表示されるメッセージについては「iPod」をご覧ください（118ページ）。
- 「スタンバイ時の充電」で、本機の電源がスタンバイのときのiPodの充電モードを設定できます（90ページ）。

iPodメニューツリー

下図はiPodメニューのメニュー構造を表しています。iPodメニューの表示方法については「ミュージックコンテンツメニューの操作」をご覧ください（57ページ）。



ご注意

- iPod、およびヤマハ製iPod用ドックが映像ファイルのブラウズ機能に対応していない場合、「ビデオ」は表示されません。また、「ビデオ」内で表示される項目は、お使いのiPodに保存された映像ファイルの構成により異なります。

iPodを操作する

以下のリモコンキーで iPod を操作できます。

■ iPod メニューを操作する

モニター画面を見ながら iPod メニュー を操作するには操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

キー		機能
⑨	ENTER	選んだメニューに入る、または再生します。
	△	上のメニューに移動します。
	▽	下のメニューに移動します。
	◁	1 つ前のメニューに戻ります。
	▷	選んだメニューに入ります。
⑩	SUBMENU	再生情報画面を表示しているときにサブメニュー表示をオン／オフします。
⑲	MENU	再生情報画面を表示していないときにメニュー表示をオン／オフします。
㉑	DISPLAY	再生情報画面の表示をオン／オフします。

■ iPod を再生する

以下のリモコンキーで iPod メニューを操作できます。操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選び、③DOCK キーを押してください。

キー		機能
⑪	◁◁	巻き戻しします（長押し）。
	▷▷	早送りします（長押し）。
	▷▷|	次の曲の先頭にスキップします。
	|◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします。
	□	再生を停止します。
	▯▯	一時停止します。
	▷	再生します。

■ プレイスタイルを設定する

iPod メニューの「設定」で、以下のプレイスタイルを設定します。

リピート

曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します。
選択項目：オフ、１曲、すべて

- リピート再生しない場合は「オフ」を選んでください。
- 曲ごとにリピート再生する場合は「１曲」を選んでください。
- すべての曲をリピート再生する場合は「すべて」を選んでください。

シャッフル

曲やアルバムをランダムに再生します。
選択項目：オフ、曲、アルバム

- ランダム再生しない場合は「オフ」を選んでください。
- 曲ごとにランダム再生する場合は「曲」を選んでください。
- アルバムごとにランダム再生する場合は「アルバム」を選んでください。



- 設定項目を切り替えるには ⑨ENTER キーを繰り返し押してください。
- 「リピート」で「１曲」または「すべて」を選んでいるときはモニター画面に「」、または「」が表示されます。
- シャッフル機能がオンのときは、モニター画面に「」が表示されます。

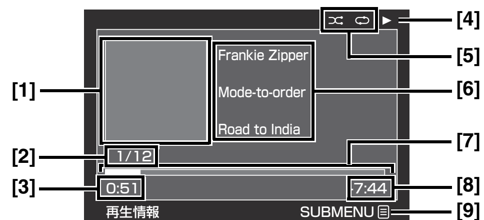
■ シンプルリモートモードで再生する

iPod メニューで「シンプルリモートモード」を選んだ場合、モニター表示がオフになり、iPod を本機のリモコン、または iPod 本体で操作できるようになります。



操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選び、㉑DISPLAY キーを 3 秒間押してシンプルリモートモードを選ぶこともできます。

■ 再生情報画面の表示



[1]アルバムアート（表示できる場合）

[2]トラック番号／トラック数

[3]経過時間

[4]▶（再生）、▮▮（一時停止）、▸▸（早送り）、◂◂（巻き戻し）

[5]シャッフル／リピート表示

[6]アーティスト名／アルバム名／曲名

[7]進捗表示

[8]残り時間

[9]サブメニューアイコン

サブメニュー項目

再生操作

操作したい項目を選び、⑨ENTER キーを押す（または長押しする）。

プレイスタイル

プレイスタイルの項目を選び、⑨ENTER キーを繰り返し押してパラメーターを切り替える。プレイスタイルの設定について詳しくは「プレイスタイルを設定する」をご覧ください（59 ページ）。

USB デバイス／ネットワークオーディオの再生を楽しむ

USB デバイスやパソコンに保存した WAV （PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA、MPEG-4 AAC ファイルを再生したり、インターネットラジオ放送を楽しんだりすることができます。

ご注意

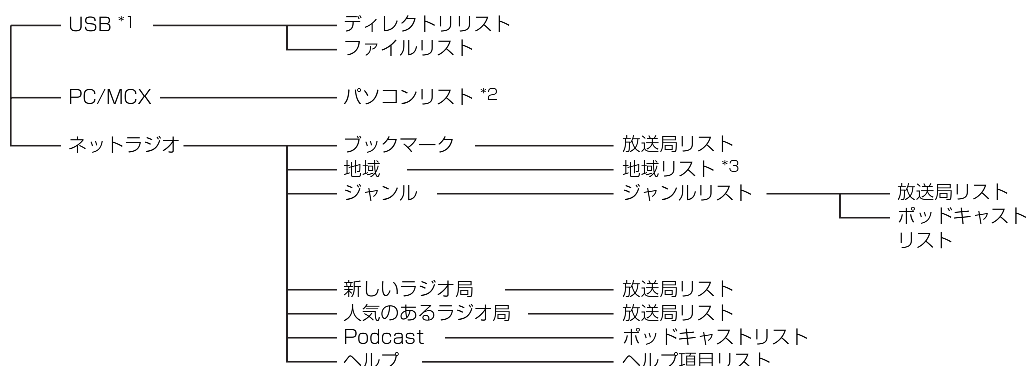
- 本機とネットワーク接続して使用できるミュージックキャスト（MusicCast）は、日本国内では販売されていません。
- ネットワークについて詳しくは、ネットワーク機器の取扱説明書をお読みになるか接続業者にお問い合わせください。
- 選んだ音楽ファイルにより、WAV、MP3、WMA、MPEG-4 AAC フォーマットで記録されていても再生できない場合やノイズが出力される場合があります。



フロントパネルディスプレイやモニター画面に表示されるメッセージについて詳しくは「USB デバイス／ネットワークオーディオ」（116 ページ）をご覧ください。

USB ／ネットワークオーディオメニューツリー

下図は USB、PC/MCX、インターネットラジオメニューのメニュー構造を表しています。メニューの表示方法については「ミュージックコンテンツメニューの操作」をご覧ください（57 ページ）。



ご注意

*1 USB デバイスのディレクトリ構造により、USB メニューのディレクトリ階層は異なります。
*2 本機で再生できるパソコンのみ表示されます。
*3 地域により、リストのディレクトリ構造は異なります。

USB ／ネットワークオーディオメニューを操作する

以下のリモコンキーで USB ／ネットワークオーディオメニューを操作できます。

■ USB ／ネットワークオーディオメニューを操作する

モニター画面を見ながら USB ／ネットワークオーディオメニューを操作するには操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

	キー	機能
⑨	ENTER	選んだメニューに入る、または再生します。
	△	上のメニューにカーソルを移動します。
	▽	下のメニューにカーソルを移動します。
	◁	1つ前の表示に戻ります。
	▷	選んだメニューに入ります。
⑩	SUBMENU	サブメニューがある場合（メニュー画面右下にサブメニューアイコンが表示されます）に、サブメニューのオン／オフを切り替えます。
⑲	MENU	再生情報画面が表示されていないときにメニュー表示をオン／オフします。
㉑	DISPLAY	再生情報画面表示をオン／オフします。

■ USB／ネットワークオーディオを再生する

以下のリモコンキーで USB ／ネットワークオーディオメニューを操作できます。操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選び、③USB/NET キーを押してください。

	キー	機能
⑪	▷▷⊳|	次の曲の先頭にスキップします（「ネットラジオ」以外）。
	|◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします（「ネットラジオ」以外）。
	□	再生を停止します。
	▷	再生します。（メニューブラウズモード時） 再生／停止します。（シンプルリモートモード時）

ご注意

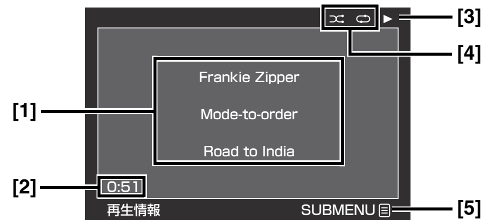
選んでいるサブ入力ソースにより、キーが機能しないことがあります。

■ 再生情報画面の表示

以下は例として、USB デバイスを再生しているときの再生情報画面を表しています。表示される情報や機能は、選んでいるサブ入力ソースにより変化します。

ご注意

本機が表示できない文字は「__」（アンダーバー）で表示されます。



[1]アーティスト名／アルバム名／曲名

[2]経過時間

[3]▶（再生）

[4]シャッフル／リピート表示

[5]サブメニューアイコン

サブメニュー項目

再生操作

操作したい項目を選び、⑨ENTER キーを押す（または長押しする）。

プレイスタイル

プレイスタイルの項目を選び、⑨ENTER キーを繰り返し押して（または長押しして）パラメーターを切り替える。プレイスタイルの設定について詳しくは「プレイスタイルを設定する」をご覧ください（59 ページ）。



シャッフル機能をオンにするには「シャッフル」を「オン」にしてください。

USB デバイスを再生する

本機フロントパネルの USB 端子に接続している USB デバイスに保存した WAV（PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA、MPEG-4 AAC ファイルを再生します。

ご注意

- データが FAT16 または FAT32 ファイルシステムで記録されている USB マスストレージクラス対応の USB デバイス、または MTP 対応の USB デバイスに対応しています。
- 先頭にあるパーティションのみブラウズできます。他のパーティションに保存されているファイルは選べません。
- 最大８階層までのディレクトリにある、１つのディレクトリにつき最大５００までのディレクトリ／ファイルを認識できます。
- USB デバイスのメーカーや種類により、ファイルを再生できない場合があります。
- WAV、MP3、WMA、MPEG-4 AAC ファイルでも再生できない場合やノイズを出力する場合があります。
- USB デバイスを接続してから再生を開始するまでに約１０秒かかります。

パソコンに保存されている音楽ファイルを聴く

パソコンに保存されている音楽ファイルを再生します。

1 パソコンに Windows Media Player 11 をインストールする。

- 「Windows Media Player 11 をインストールする」をご覧ください（62 ページ）。
- この手順ははじめて再生するときのみ必要です。
- 音楽ファイルを再生するために Windows Media Player 11 の設定が必要な場合があります。Windows Media Player 11 に付属の取扱説明書などをご覧ください。

2 パソコンの電源をオンにする。

3 「ミュージックコンテンツ」の「PC/MCX」を選び、再生する曲が保存されているパソコンを選択する。

ご注意

- 本機とネットワーク接続して使用できるミュージックキャスト（MusicCast）は、日本国内では販売されていません。
- 本機と同じサブネットに接続されている１５台までのパソコンをブラウズできます。
- WAV、MP3、WMA、MPEG-4 AAC フォーマットで記録されていても、再生できない場合やノイズが出力される場合があります。

■ Windows Media Player 11 をインストールする

Windows Media Player 11 をインストールして、パソコンで音楽ファイルを再生できるようにします。詳しくは Windows Media Player 11 に付属の取扱説明書などをご覧ください。



Windows Media Connect 2.0 でも再生できます。

1 パソコンに Windows Media Player 11 をインストールする。

Windows Media Player 11 やアップグレードファイルはマイクロソフト社のウェブサイトからダウンロードできます。

2 パソコンの電源をオンにし、音楽ファイルを共有ディレクトリに保存する。

「PC/MCX」メニューのパソコン選択画面に共有ディレクトリが追加されます。

ご注意

- パソコンの OS が Windows Vista の場合、Windows Media Player 11 はプリインストールされています。（一部を除く）
- パソコンにインストールされているセキュリティソフト（ウィルス対策ソフトやファイアウォールソフトなど）により、本機がパソコンにアクセスできない場合があります。パソコンに保存された音楽ファイルを再生するときは、セキュリティソフトの設定をご確認ください。

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオ放送を聴きます。本機は、本機用に編集された２０００以上の放送局データをもつ vTuner ラジオ局データベースサービスを利用しています。さらに、ブックマーク機能を利用して、お気に入りの放送局を登録できます。

ご注意

- ラジオ局データベースサービスは予告なく停止される場合があります。
- 表示されている放送局であっても、再生できない場合があります。
- インターネットラジオ放送を聴くには、本機をホームネットワークに接続してください（29 ページ）。
- インターネットがナローバンド（５６ K モデム、ISDN など）で接続されていると、インターネットラジオを十分にお楽しみいただけません。ブロードバンド（ケーブルモデム、xDSL など）で接続してください。詳しくは、インターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。



- ポッドキャストはインターネットサービスの一つで、インターネット上に数多く存在しています。放送時間にとらわれることなく好きな時間に楽しめるのが特長です。１回分の放送が終わると、再生が停止します。
- セキュリティデバイス（ファイアウォールなど）により、本機がインターネットラジオにアクセスできない場合があります。インターネットラジオを聴くときは、セキュリティの設定をご確認ください。

■ ブックマークにラジオ局を登録する

お気に入りのインターネットラジオ局をブックマークに登録します。

登録したいラジオ局を再生しているときに、操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選び、⑧TITLE キーを長押しする。

ラジオ局がブックマークに登録されます
（60 ページ）。



- ブックマークの登録を解除するには、「ブックマーク」から放送局を選び、⑧TITLE キーを長押ししてください。
- パソコンから以下のヤマハウェブサイトにアクセスしてお気に入りのインターネットラジオ放送局を登録することもできます。アカウントを取得するには、MAC アドレス（これが ID になります）、およびメールアドレスが必要です。MAC アドレスを確認するには、「ネットワーク設定」の「ネットワーク情報」をご覧ください
（88 ページ）。
URL:http://yradio.vtuner.com/

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選び、③USB/NET キーを押してください。

ショートカットを登録する

お気に入りの音楽ソース（パソコンや USB デバイスに保存されている WAV、MP3、WMA ファイルやインターネットラジオ放送局）を簡単に呼び出します。１つのサブ入力ソースにつき８つまでの項目を登録できます。

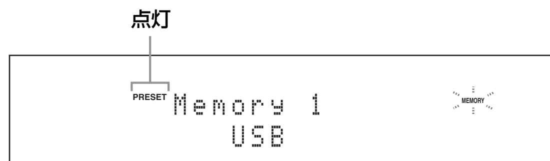
■ 数字キー（１～８）にショートカットを登録する

1　登録したい音楽ファイルやインターネットラジオを再生する。

2　⑩MEMORY キーを押す。

フロントパネルディスプレイに PRESET インジケーターが点灯し、空いているプリセット番号が表示されます。

点灯

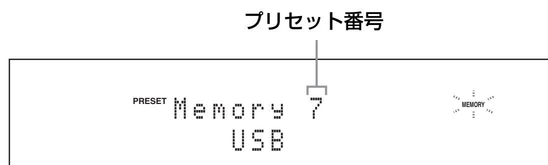




- 登録されていないプリセット番号に、選んだコンテンツを自動的に登録するには、手順２の代わりに ⑩MEMORY キーを２秒以上押してください。その場合、以下の操作は必要ありません。
- 登録を中止するには、もう一度 ⑩MEMORY キーを押してください。
- 各手順を３０秒以内に操作しなかった場合、登録を自動的に中止します。この場合は手順２から操作し直してください。

基本操作

3 ショートカットを登録する数字キー（1〜8）を押す。





すでに登録されているプリセット番号（番号の横に「＊」を表示）に新しい曲を登録すると、前に登録されていた曲は消去され、新しい曲に入れ替わります。

4 ⒺENTER キー（または ⑨ENTER キー）を押す。

曲が登録され、PRESET インジケーターが消灯します。

■ 登録したショートカットを選んで再生する

ショートカットを登録した数字キー（1〜8）（⑫）を押す。

選んだ数字キーに登録されている曲を再生します。

ご注意

- ショートカットが登録されていない数字キーを押すと「Empty Memory!」と表示されます。
- 以下の場合は数字キーを押しても登録した曲が再生されません。
  - 曲を登録したときとは異なる USB デバイスを接続している。
  - パソコンの電源がオフになっている、またはパソコンがホームネットワークから切断されている。
  - 登録したインターネットラジオ局に一時的に接続できない、または放送を停止した。
  - ディレクトリ内でファイルの位置を移動した。



本機は登録したコンテンツのディレクトリ内における相対的な位置を記憶しています。したがって、ディテクトリ内で音楽ファイルを追加／削除すると、登録した曲が呼び出されないことがあります。そのような場合はショートカットを登録し直してください。以下はショートカット機能を上手に利用するためのおすすめの方法です。

USB デバイス

USB デバイス内にディレクトリを8つ作成し、その中に音楽ファイルを保存します。次に、それぞれのディレクトリ内の先頭の音楽ファイルを1から8までのショートカットに登録します。ショートカットで呼び出す音楽ファイルを変更する場合は、ディレクトリは削除せずに、現在登録されている音楽ファイルを新しい音楽ファイルと入れ替えます。

パソコン

パソコンにプレイリストを8つ作成します。次に、それぞれのプレイリストの先頭の音楽ファイルを1から8までのショートカットに登録します。ショートカットで呼び出す音楽ファイルを変更する場合は、プレイリストは削除せずに、現在登録されている音楽ファイルを新しく登録する音楽ファイルと入れ替えます。

HDMI コントロール機能を使う

HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビ（一部を除く）と本機を HDMI 接続した場合、テレビのリモコンで本機の以下の機能を操作できます。

- 電源のオン／スタンバイ（テレビ連動）
- 音量の調節（上／下、消音）
- 音声を出力する機器の切り替え（テレビ⇔本機）
- テレビや、テレビと接続した機器の音声信号を本機で再生
- 本機と HDMI 接続した HDMI コントロール機能対応機器とのリンク動作

HDMI を使ったコントロール機能に対応している機器の例として、パナソニック製ビエラリンク対応テレビ「ビエラ」、DVD レコーダー／ブルーレイレコーダー「ディーガ」、東芝製レグザリンク対応テレビ「REGZA」などがあります。テレビや DVD レコーダー／ブルーレイレコーダー／ HD DVD レコーダーは、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。対応機器について詳しくは、弊社ホームページの「HDMI コントロール機能によるリンク操作対応機器」をご覧ください。



- HDMI を使ったコントロール機能に対応している DVD レコーダー／ブルーレイレコーダー／ HD DVD レコーダー（一部を除く）を HDMI 接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくは DVD レコーダー／ブルーレイレコーダー／ HD DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。
- 下記の設定時には、テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

1 HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビと本機を HDMI 接続する。



HDMI や HDMI 接続について詳しくは、「HDMI について」（21 ページ）、および「テレビやプロジェクターを接続する」（24 ページ）をご覧ください。テレビの取扱説明書では、AV アンプとの接続方法をご覧ください。

2 HDMI 接続しているすべての機器の電源をオンにする。

外部機器の操作について詳しくは、お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

3 HDMI 接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にする。

「HDMIコントロール」（88ページ）を「オン」に設定してください。また、「コントロールモニター」で、HDMIコントロール機能を使うテレビを接続したHDMI OUT端子を選んでください（88ページ）。外部機器の設定について詳しくは、お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

手順 1 ～手順 3 までは、一度操作すれば二回目以降は必要ありません。

4 テレビの電源をオフにする。

5 HDMI 接続している、テレビ以外の機器の電源がオンになっていることを確認する。

オフになっている場合は、オンにしてください。

6 テレビの電源をオンにする。

7 テレビの入力を、本機に接続した入力（[HDMI] など）に切り替える。

8 本機の入力を、DVD レコーダーまたはブルーレイレコーダー、HD DVD レコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。

9 テレビのリモコンで、本機の電源オン／スタンバイや音量の調節、音声出力機器の切り替えなどの操作をする。



- HDMI コントロール機能で使う HDMI OUT 端子を変更する場合は、手順 1 からもう一度操作し直してください。
- 本機が動作しない場合は、以下のことをご確認ください。
  - 「HDMIコントロール」（88ページ）が「オン」に設定されている
  - テレビの設定で、HDMI を使ったコントロール機能が有効になっている（テレビの取扱説明書参照）

  テレビの電源をオン／オフしたり、電源プラグをコンセントに接続し直したりすると、正常に動作する場合もあります。
- HDMI 以外の音声を再生しているときには、テレビのリモコンを操作してテレビの電源をオフにしても、本機の電源はスタンバイになりません。そのまま再生を楽しめます。

音声出力を詳細に設定する

デコーダーを選ぶ

■ 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ（サラウンドデコードモード）

2 チャンネルソースをマルチチャンネル化して楽しむためのデコーダーを選びます。

操作機器選択スイッチ （⑯） で AMP を選び、㉙SUR. DECODE キーを繰り返し押して、 デコーダーを選ぶ。

再生しているソースやお好みに応じてデコーダーを選べます。



「ステレオ / サラウンド」でデコーダーのパラメーターを調節できます（72 ページ）。

■ デコーダー一覧

デコーダー名
（デコーダーのタイプ）

PLIIx Music PLII Music
ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。「サラウンドバック」を「無」に設定している場合（80 ページ）やヘッドホンを接続している場合、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。

説明

Pro Logic
ドルビープロロジックデコーダーです。すべてのソースに適しています。

PLIIx Movie PLII Movie
ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。「サラウンドバック」を「無」に設定している場合（80 ページ）やヘッドホンを接続している場合、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。

PLIIx Music PLII Music
ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。「サラウンドバック」を「無」に設定している場合（80 ページ）やヘッドホンを接続している場合、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。

PLIIx Game PLII Game
ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。ゲームに適しています。「サラウンドバック」を「無」に設定している場合（80 ページ）やヘッドホンを接続している場合、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。

Neo:6 Cinema
DTS デコーダーです。映画鑑賞に適しています。

Neo:6 Music
DTS デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。

CSII Cinema
SRS サークルサラウンド II デコーダーです。映画鑑賞に適しています。

CSII Music
SRS サークルサラウンド II デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。



マルチチャンネルデジタル音声信号を再生しているときにサラウンドデコードモードを選択すると、本機は自動的に入力信号に適したデコーダーを選んで再生します。

■ MOVIE プログラムと組み合わせるデコーダーを選ぶ

MOVIE プログラム（Mono Movie 以外）と組み合わせるデコーダーを下記から選べます。MOVIE プログラムについて詳しくは、「映像用音場プログラム」（49 ページ）をご覧ください。また、デコーダータイプの選択方法については、「その他の音場パラメーター」（73 ページ）をご覧ください。

選択項目：PLIIx Movie（PLII Movie）、
Neo:6 Cinema

■ マルチチャンネルソース用デコーダーを選ぶ

サラウンドバックスピーカーを接続している場合に、ドルビープロロジック IIx、ドルビーデジタル EX、DTS-ES デコーダーを使って、マルチチャンネルソースを 6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。

操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、㉓EXTD SUR.キーを繰り返し押して5.1／6.1／7.1 チャンネル再生を切り替える。

選択項目	説明
AUTO	本機が確認できる信号（フラグ）が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。
デコーダー (PLIIx Movie、PLIIx Music、EX/ES)	デコーダーを手動で選びます。
OFF	6.1 または 7.1 チャンネルで再生しません。



入力ソースに記録されているフラグを本機が正しく認識できない場合に、手動でデコーダーを切り替えてください。

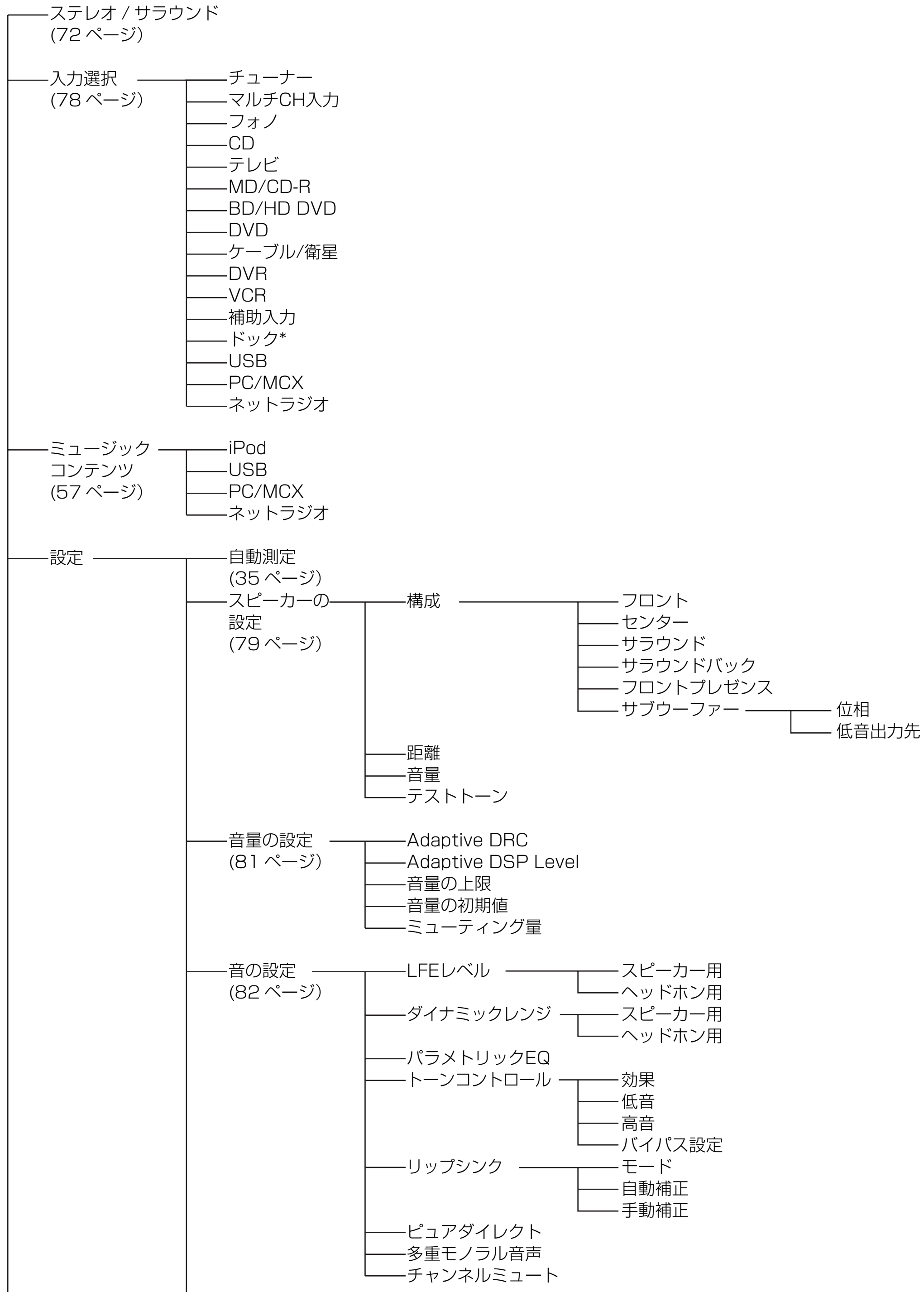
ご注意

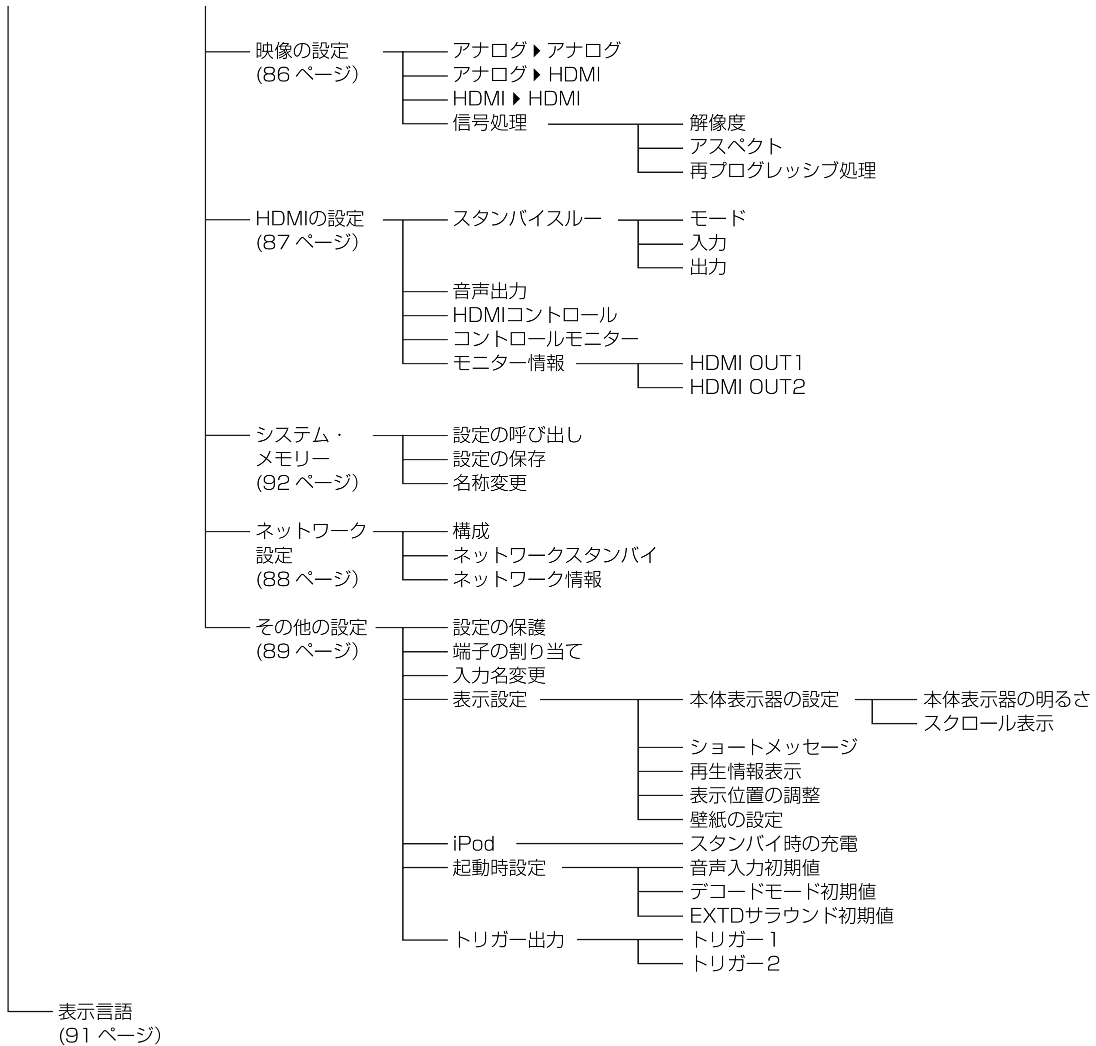
- スピーカーの設定や入力ソースにより、選べるデコーダーは変化します。
- 以下の場合は 6.1 ／ 7.1 チャンネルで再生できません。
  - 「サラウンド」（80 ページ）、または「サラウンドバック」（80 ページ）を「無」に設定している。
  - MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している。
  - 再生しているソースにサラウンド左／右チャンネル信号が含まれていない。
  - Dolby Digital KARAOKE ソースを再生している。
  - ステレオ再生、または 7ch Enhancer（50 ページ）、ピュアダイレクトモード（52 ページ）で再生している。
  - 「BI-AMP」を「ON」に設定している（108 ページ）。
- 「EXTDサラウンド初期値」（90ページ）を「自動判別」に設定している場合、本機の電源をスタンバイにすると自動的に「AUTO」に設定されます。

応用操作

セットメニューで設定する

■ セットメニューツリー





ご注意

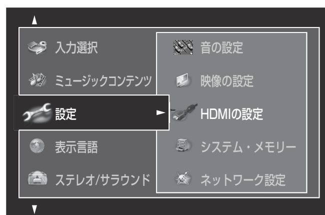
* DOCK 端子に接続したヤマハ製 iPod ドックに iPod をセットしているときは「iPod」と表示されます。また、DOCK 端子にヤマハ製 Bluetooth レシーバーを接続しているときは「ブルートゥース」と表示されます。

セットメニュー一覧

本機のセットメニューには、見やすい日本語 GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）を使用しています。セットメニューでは、本機に入力している信号の情報や本機の状態を確認できます。



- 全メニュー構造については「セットメニューツリー」をご覧ください（68 ページ）。
- セットメニューの操作方法について詳しくは「セットメニューの操作」をご覧ください（71 ページ）。



■ ステレオ / サラウンド
音場プログラムを選んだり、音場プログラムやデコーダーのパラメーターを調節したりします（72 ページ）。

■ 入力選択
入力ソースを選んだり、各入力ソースのパラメーターを調節したりします（78 ページ）。

■ ミュージックコンテンツ
iPod や USB デバイス、パソコン、インターネットラジオの音楽コンテンツを楽しみます（57 ページ）。

■ 設定
スピーカーやシステムパラメーターを調節します。

自動測定
お部屋の環境を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定します（35 ページ）。

スピーカーの設定
79 ページをご覧ください。

音量の設定
81 ページをご覧ください。

音の設定
82 ページをご覧ください。

映像の設定
86 ページをご覧ください。

HDMIの設定
87 ページをご覧ください。

システム・メモリー
92 ページをご覧ください。

ネットワーク設定
88 ページをご覧ください。

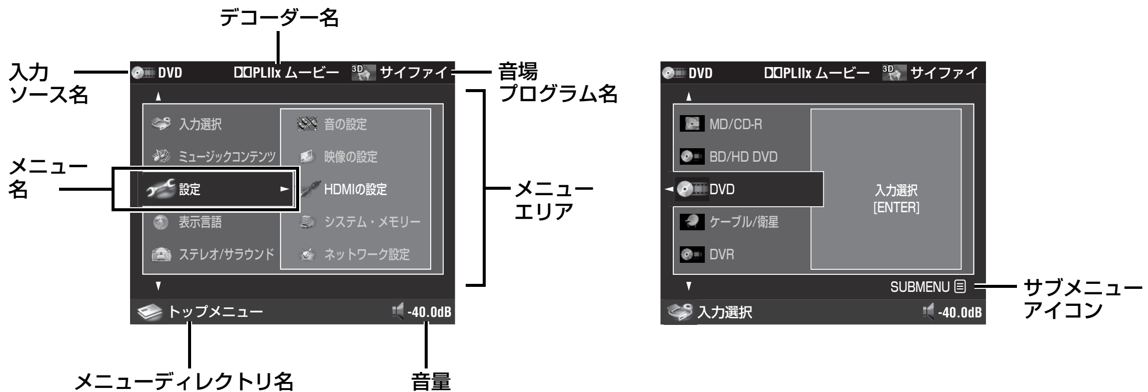
その他の設定
89 ページをご覧ください。

■ 表示言語
フロントパネルディスプレイやモニターに表示されるメニューなどの表示言語を設定します（91 ページ）。

セットメニューの操作

本機のセットメニューには、見やすい日本語 GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）を使用しています。セットメニューでは、本機に入力している信号の情報や本機の状態を確認したり、本機の設定を変更したりすることができます。

■ セットメニューの画面項目



■ リモコン操作



セットメニューをリモコンで操作するときは操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

キー	機能
⑨△ / ▽	上／下のメニューに移動します。
⑨▷	選んだメニューに入ります。
⑨◁	１つ前のメニューに戻ります。
⑨ENTER	選んだメニューに入ります。
⑩SUBMENU	サブメニューのオン／オフを切り替えます（現在選んでいるメニューの下にサブメニューがある場合、サブメニューアイコンが表示されます）。
⑲MENU	メニュー表示をオン／オフします。 トップメニューを表示します（長押し）。

ご注意

⑲MENU キーを押すと、前回セットメニュー表示を消したときに表示していた画面が表示されます。セットメニューの初期画面（トップメニュー）を表示するには、⑲MENU キーを長押ししてください。

■ フロントパネル操作

キー	機能
ⒹMENU	メニュー表示をオン／オフします。
Ⓓ▷	選んだメニューに入ります。
Ⓓ◁	１つ前のメニューに戻ります。
ⒺENTER	選んだメニューに入ります。
ⓂPROGRAM	上／下のメニューに移動します。

ステレオ / サラウンド

音場プログラムは初期設定のままで十分にお楽しみいただけますが、音場パラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果をアレンジできます。



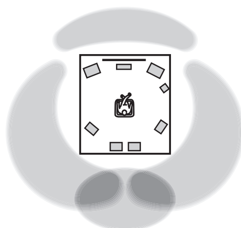
音場パラメーターの設定を変更するには、パラメーターを変更したい音場プログラムを選んでから ⑩SUBMENU キーを押してサブメニューを表示してください。

■ 基本的な音場パラメーター

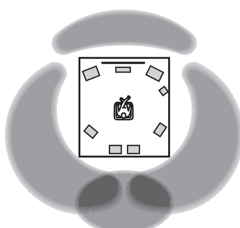
それぞれの音場プログラムはプログラムの性格を特徴付けているパラメーターを持っています。音場プログラムを変更するときは、はじめに「エフェクト量の加減」および「セリフの位置調整」を調節し、音場効果を一度確認したあとでその他のパラメーターを変更することをおすすめします。

エフェクト量の加減

エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境に合わせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。



エフェクト量：小



エフェクト量：大

「エフェクト量の加減」は以下のように調節してください。

- 効果音が小さく感じられる
- 各音場プログラム間の違いが感じ取れない



効果レベルを大きくする

- 音がぼんやりと聴こえる
- 音場効果のかかり具合が過剰に感じられる

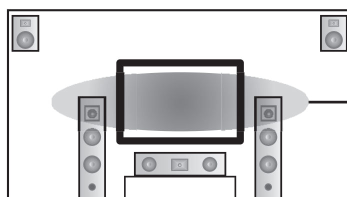


効果レベルを小さくする

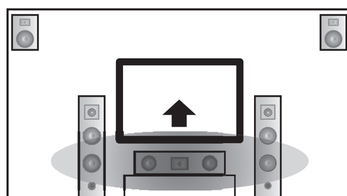
可変範囲：－6dB ～＋3dB

セリフの位置調整

プレゼンススピーカーを使っている場合に、セリフなど、中央に定位する音の定位位置（上下方向）を調節するパラメーターです。値を大きくすると上方に定位します。



セリフがテレビ画面よりも低い位置から聞こえる場合、セリフの上下位置を上へ移動してください。



理想的な定位位置に移動

選択項目：**0**、1、2、3、4、5

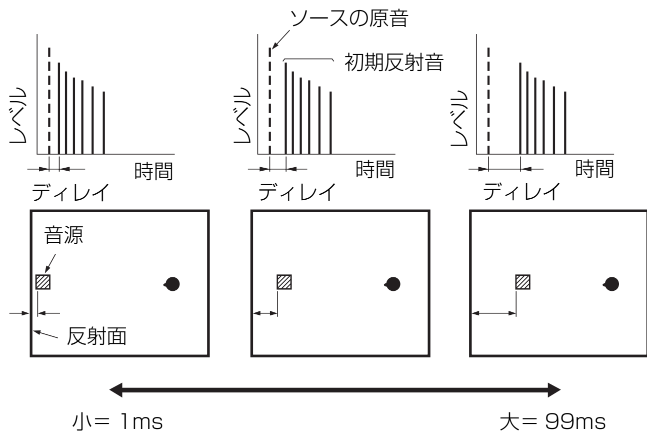
「0」（初期設定値）が最も低く、「5」が最も高い位置です。

ご注意

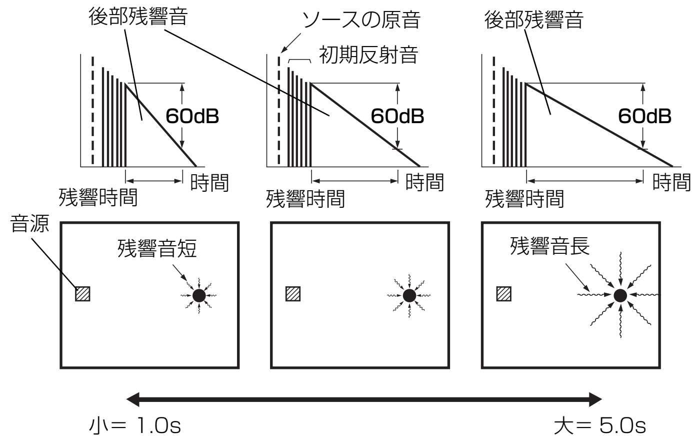
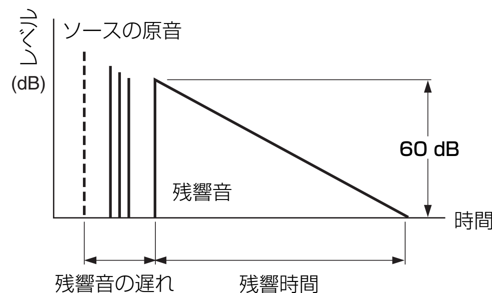
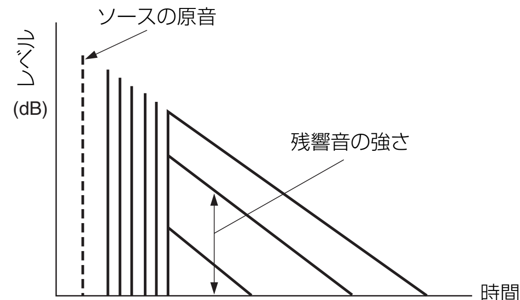
- 「セリフの位置調整」は「フロントプレゼンス」を「使用する」に設定しているときのみ調節できます（80 ページ）。
- セリフの上下位置を初期設定よりも下にすることはできません。

■ その他の音場パラメーター

音場プログラムをカスタマイズするには、以下の音場パラメーターで設定を変更してください。音場プログラムにより、調節できるパラメーターは異なります。

音場パラメーター	特長
デコーダー選択	音場プログラムと一緒に楽しむデコーダーを選びます。パラメーター項目は選んでいるデコーダーにより変化します。詳しくは 77 ページをご覧ください。
ディレイ **サラウンド音場の遅れ** **サラウンドバックの遅れ**	直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。このパラメーターを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等が調節できます。 遅延時間を調節するときは、対応する音場の空間の大きさも調節することをおすすめします。 可変範囲：1 ～ 99ms（ディレイ） 1 ～ 49ms（サラウンド音場の遅れ、サラウンドバックの遅れ） 

音場パラメーター	特長
音場空間の大きさ **サラウンド音場の広さ** **サラウンドバックの広さ**	空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音どうしの時間間隔を調節すれば、広がり感を変えることができるということになります。1.0 で実測値そのまま、2.0 にすると、1 辺の長さが倍の空間になります。 💡 空間の大きさを調節するときは、対応する音場の遅延時間も調節することをおすすめします。 可変範囲：0.1 ～ 2.0 ソースの原音 初期反射音 レベル 時間 音源 小＝ 0.1 大＝ 2.0
響きの強さ **サラウンド音場の響き** **サラウンドバックの響き**	初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。実際のホールでのライブ感／デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。 可変範囲：0 ～ 10 ソースの原音 デッド ライブ レベル 時間 反射音小 反射音大 小＝ 0 大＝ 10

音場パラメーター	特長
残響時間	後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約 1kHz の残響音が 60dB 減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。残響時間を調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節したりすることができます。
	可変範囲：1.0 ～ 5.0s
	
残響音の遅れ	残響音が発生しはじめるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ残響時間でも、残響音の遅れを長くしていくと大きな空間の残響感になります。
	可変範囲：0 ～ 250ms
	
残響音の強さ	後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。
	可変範囲：0 ～ 100%
	

応用操作

■ ステレオプログラム用パラメーター

音場パラメーター	特長
ダイレクト **(2ch Stereo のみ)**	2 チャンネルアナログソースを再生しているときにデコーダーや DSP 回路をバイパスして、より高音質で再生します。
	選択項目：**自動判別**、オフ
	• デコーダーや DSP 回路をバイパスするには、トーンコントロールの「BASS」、および「TREBLE」が「BYPASS」に設定されているときに、「自動判別」を選んでください。 • デコーダーや DSP 回路をバイパスしないときは、トーンコントロールの「BASS」、および「TREBLE」が「BYPASS」に設定されているときに、「オフ」を選んでください。 • マルチチャンネル信号が入力されると、入力信号は 2 チャンネルにダウンミックスされ、フロント左／右スピーカーから出力されます。 • 以下の場合、フロント左／右スピーカーの低音域成分はサブウーファーから出力されます。 –「低音出力先」が「フロントとサブウーファー」に設定されている（80 ページ）。 –「フロント」が「小」に設定されていて（80 ページ）、「低音出力先」が「サブウーファーのみ」に設定されている（80 ページ）。
センター音量 **サラウンド左音量** **サラウンド右音量** **サラウンドバック左音量** **サラウンドバック右音量** **フロントプレゼンス左音量** **フロントプレゼンス右音量** **(7ch Stereo のみ)**	7ch Stereo プログラムでの、各チャンネルの音量を調節します。各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるパラメーターは変化します。
	可変範囲：0 ～ 100%

■ コンプレストミュージック・エンハンサーモード用パラメーター

コンプレストミュージック・エンハンサーモード	特長
レベル **(Straight Enhancer、7ch Enhancer のみ)**	コンプレストミュージック・エンハンサーモードの効果レベルを調節するパラメーターです。高音域が過剰に強調されているときは、「効果小」に設定してください。
	選択項目：**効果大**、効果小

■ デコーダーパラメーター

デコーダーパラメーター	特長
パノラマ（PLIIx Music、PLII Music のみ）	PRO LOGIC II Music および PRO LOGIC IIx Music プログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロント左／右の音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。
	選択項目：**オフ**、オン
センターの広がり（PLIIx Music、PLII Music のみ）	PRO LOGIC II Music および PRO LOGIC IIx Music プログラムでの、センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。
	可変範囲：0 ～ 7 （0 にするとセンターのみ、7 にするとフロント左／右のみからセンター音声が出力されます。）
	初期設定：3
ディメンション（PLIIx Music、PLII Music のみ）	PRO LOGIC II Music および PRO LOGIC IIx Music プログラムでの、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。
	可変範囲：－3～+3
	初期設定：標準
センターイメージ（Neo:6 Music のみ）	DTS Neo:6 Music プログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。
	可変範囲：0.0 ～ 1.0 （0.0 にするとフロント左／右のみ、1.0 にするとセンターのみからセンター音声が出力されます。）
	初期設定：0.3
フォーカス（CSII Cinema、CSII Music のみ）	低い位置に設置したスピーカーから出力される音声の位置を感覚的に持ち上げることで、音声の明瞭さを調節します。値を大きくするほど音声の位置が高くなります。
	可変範囲：**0** ～ 8
トゥルーベース（CSII Cinema、CSII Music のみ）	SRS CS II プログラムでの低音域を調節するパラメーターです。値を大きくするほど低音域が強調され、サブウーファーがない場合でも効果的に低音を再生することができます。サブウーファーがある場合は、より重厚な低音を再生することができます。
	可変範囲：**0** ～ 8

■ 初期化

変更した音場パラメーターを初期設定に戻します。
選択項目：**しない**、する

- 初期設定に戻す場合は「する」を選び、⑨**ENTER** キーを押します。
- 初期設定に戻さない場合は「しない」を選び、⑨**ENTER** キー（または ⑨◁ キー）を押します。



すべての音場プログラムパラメーターを初期設定に戻す場合はアドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「DSP PARAM」で設定してください。（108 ページ）

応用操作

入力選択

入力ソースに関するさまざまな設定を変更します。



入力ソースの設定を変更するには、パラメーターを変更したい入力ソースを選んでから ⑩SUBMENU キーを押してサブメニューを表示してください。

入力ソース	選択項目
iPod USB PC/MCX ネットラジオ チューナー	再生レベル補正
マルチCH入力	再生レベル補正 入力端子設定 映像選択
フォノ CD テレビ MD/CD-R BD/HD DVD DVD ケーブル/衛星 DVR VCR 補助入力	音声入力選択 デコードモード 再生レベル補正
ブルートゥース	再生レベル補正 ペアリング 接続

■ 音声入力選択

入力モードを切り替えます。

選択項目	説明
自動判別	以下の順番で自動的に入力端子を選びます。 （1）HDMI （2）デジタル （3）アナログ
HDMI	HDMI 端子に固定します。HDMI 以外の信号を入力しても再生しません。
同軸/光	以下の順番で自動的に入力端子を選びます。 （1）同軸デジタル （2）光デジタル 同軸／光デジタル以外の信号を入力しても再生しません。
アナログ	アナログ端子に固定します。アナログ以外の信号を入力しても再生しません。



- ⓓAUDIO SELECT キー（または ㉕AUDIO SEL キー）を押して入力モードを切り替えることもできます（42 ページ）。
- 「起動時設定」の「音声入力初期値」で、電源をオンにしたときに適用する入力モードを設定できます（90 ページ）。

ご注意

「端子の割り当て」（89ページ）で、選んでいる入力ソースにデジタル端子が割り当てられていない場合、その端子は選べません。また、HDMI入力端子が割り当てられているときのみ「HDMI」を選べます。

デコードモード

入力するデジタル音声信号を選びます。

選択項目	説明
自動判別	自動的に音声入力信号を選びます。
DTS固定	DTS 信号に固定します。DTS 信号以外の信号が入力されても再生されません。
AAC固定	AAC 信号に固定します。AAC 信号以外の信号が入力されても再生されません。

ご注意

「デコードモード」は再生する機器が HDMI、光／同軸デジタル端子に割り当てられているときのみ有効です。

■ 再生レベル補正

入力ソース間の音量差を補正することで、入力を切り替えたときの急な音量の変化を防げます。
可変範囲：－6.0dB ～ ＋6.0dB
初期設定：0.0dB

■ 入力端子設定

再生機器を本機の MULTI CH INPUT 端子に接続しているときに、入力するチャンネルについて設定します。

入力チャンネル

MULTI CH INPUT 端子に入力した音声を再生するとき（28 ページ）に入力するチャンネル数を設定します。ここでは、LFE0.1 チャンネルも 1 チャンネルとして数えます。

選択項目	説明
6 チャンネル	5.1 チャンネル音声を入力します。
8 チャンネル	7.1 チャンネル音声を入力します。下記の「FRONT」を設定してください。

フロント入力

「入力チャンネル」を「8 チャンネル」に設定した場合に、フロントチャンネル用として使うアナログ音声入力端子を選びます。
選択項目：CD、テレビ、MD/CD-R、BD/HD DVD、DVD、ケーブル/衛星、DVR、VCR、補助入力

ご注意

「入力名変更」（89 ページ）で入力ソースの名称を変更した場合は変更後の名称が表示されます。

■ 映像選択

MULTI CH INPUT 端子に接続した機器の音声を再生しているときに組み合わせて楽しむ映像系入力ソースを選びます。

選択項目	説明
BD/HD DVD、DVD、ケーブル / 衛星、DVR、VCR、補助入力	選んだ映像系入力ソースを再生します。
映像なし	映像を再生しません。

ご注意

「入力名変更」（89 ページ）で入力ソースの名称を変更した場合は変更後の名称が表示されます。

■ ペアリング

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）のペアリングを開始します。ペアリングについて詳しくは、「Bluetooth® レシーバーと Bluetooth® 機器をペアリングする」をご覧ください（56 ページ）。

セキュリティー確保のため、ペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

1 ⑨ENTER キーを押して、ペアリングを開始する。
ヤマハ製 Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器をサーチします。

2 Bluetooth機器がBluetoothレシーバーを認識していることを確認する。
詳しくは Bluetooth 機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 Bluetooth レシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。
正しくペアリングされた場合は「BT Connected」と表示されます。

4 ⑨◁ キーを押して前のメニューに戻る。

ご注意

Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器を検索できなかった場合は「Not found」と表示されます。

■ 接続

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）の接続を確立します。

ご注意

Bluetooth 機器を Bluetooth レシーバーを使って本機で再生する前に「ペアリング」を行います。本機能をはじめて使う場合や、ペアリングしたデータが消去された場合は、必ず行ってください。

⑨ENTER キーを押して接続を確立する。
ヤマハ製 Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器をサーチします。接続が確立された場合は「BT Connected」と表示されます。

ご注意

Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器を検索できなかった場合は「Not found」と表示されます。



Bluetooth レシーバーと Bluetooth 機器の接続を解除するには ⑨ENTER キーを押してください。

ミュージックコンテンツ

iPod や USB デバイス、パソコン、インターネットラジオの音楽コンテンツを楽しみます（57 ページ）。詳しくは以下のページをご覧ください。

- iPod（58 ページ）
- USB（56 ページ）
- PC/MCX（60 ページ）
- ネットラジオ（63 ページ）

スピーカーの設定

スピーカーに関する基本的な設定を手動で変更します。「スピーカーの設定」の項目には、「自動測定」ですでに設定されているものもあります。



- 「テストトーン」を「出力する」に設定すれば、「構成」、「距離」、「音量」の各項目をテストトーンを聞きながら調節できます。
- お使いのサブウーファーが音量やハイカット／クロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）、ハイカット／クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

■ 構成

スピーカーサイズを選ぶときの目安
ウーファーの口径が
－ 16cm 以上：大
－ 16cm 未満：小

応用操作

フロント

選択項目	説明
大	フロントスピーカーが大きい場合に選びます。
小	フロントスピーカーが小さい場合に選びます。

ご注意

「低音出力先」を「フロントに出力」に設定しているときは「大」のみ選べます。「大」以外に設定されている場合は自動的に「大」に変更されます。

センター

選択項目	説明
大	センタースピーカーが大きい場合に選びます。
小	センタースピーカーが小さい場合に選びます。
無	センタースピーカーを接続していない場合に選びます。センターチャンネル信号はフロント左／右スピーカーに振り分けられます。

サラウンド

選択項目	説明
大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選びます。
小	サラウンドスピーカーが小さい場合に選びます。
無	サラウンドスピーカーを接続していない場合に選びます。自動的にバーチャルシネマ DSP モードが選択され（50 ページ）、「サラウンドバック」は「無」に設定されます。

サラウンドバック

選択項目	説明
大 1 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選びます。
小 1 台	小さいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選びます。
小 2 台	小さいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選びます。
大 2 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選びます。
無	サラウンドバックスピーカーを接続していない場合に選びます。サラウンドバックチャンネル信号はサラウンド左／右スピーカーに振り分けられます。

ご注意

サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用する場合はスピーカーを SUR.BACK SINGLE 端子に接続し、「サラウンドバック左」で「距離」、および「音量」を設定してください。

クロスオーバー

「小」に設定した各スピーカーから出力する低音域成分の下限周波数を設定します。設定よりも低い周波数信号は、サブウーファーまたは「大」に設定したスピーカーから出力されます。

選択項目：40Hz、60Hz、**80Hz**、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

フロントプレゼンス

フロントプレゼンススピーカーを使う場合に設定します。

選択項目	説明
使用する	プレゼンススピーカーを使う場合に選びます。
使用しない	プレゼンススピーカーを使わない場合に選びます。

サブウーファー

位相

低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を設定します。

選択項目	説明
正相	サブウーファーの位相を逆転しません。
逆相	サブウーファーの位相を逆転します。

低音出力先

LFE（低域効果音）や低音域成分を出力するスピーカーを設定します。

LFE 信号の出力先

選択項目	サブウーファー／スピーカー		
	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
フロントとサブウーファー	出力する	出力しない	出力しない
サブウーファーのみ	出力する	出力しない	出力しない
フロントに出力	出力しない	出力する	出力しない

低音域信号の出力先

選択項目	サブウーファー／スピーカー		
	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
フロントとサブウーファー	*1	*2	*3
サブウーファーのみ	*4	*3	*3
フロントに出力	出力しない	*1	*3

*1 フロントチャンネルと、「小」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。
*2 フロントチャンネルの低音域成分を出力します。
*3 「大」に設定している場合に低音域成分を出力します。
*4 「小」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。

■ 距離

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション（視聴位置）に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。

距離の単位

選択項目	説明
メートル	スピーカーの距離をメートルで表示します。
フィート	スピーカーの距離をフィートで表示します。

距離

可変範囲：0.30 ～ 24.00m（1.0 ～ 80.0ft）
初期設定：3.00m（10.0ft）
可変ステップ：0.05m（0.2ft）

選択項目	スピーカー
フロント左	フロント左スピーカー
フロント右	フロント右スピーカー
センター	センタースピーカー
サラウンド左	サラウンド左スピーカー
サラウンド右	サラウンド右スピーカー
サラウンドバック左	サラウンドバック左スピーカー
サラウンドバック右	サラウンドバック右スピーカー
フロントプレゼンス左	プレゼンス左スピーカー
フロントプレゼンス右	プレゼンス右スピーカー
サブウーファー	サブウーファー

ご注意

各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。

■ 音量

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
可変範囲： －10.0dB ～ ＋10.0dB
初期設定：0.0dB
可変ステップ：0.5dB

選択項目	スピーカー
フロント左	フロント左スピーカー
フロント右	フロント右スピーカー
センター	センタースピーカー
サラウンド左	サラウンド左スピーカー
サラウンド右	サラウンド右スピーカー
サラウンドバック左	サラウンドバック左スピーカー
サラウンドバック右	サラウンドバック右スピーカー
フロントプレゼンス左	プレゼンス左スピーカー
フロントプレゼンス右	プレゼンス右スピーカー
サブウーファー	サブウーファー



音圧計をお持ちの場合は、音圧計を C 特性／スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで 75dB SPL になるよう調節してください。

ご注意

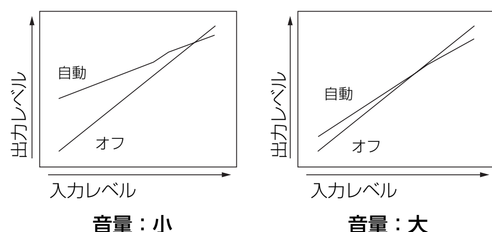
各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。

音量の設定

音量に関するさまざまな設定を手動で変更します。

Adaptive DRC

本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。音量を小さくして再生したり、夜間に再生したりするときに効果的です。「自動」に設定すると、ダイナミックレンジは以下のように変化します。
– 音量を小さく設定したとき：狭くなります。
– 音量を大きく設定したとき：広くなります。



選択項目	説明
自動	ダイナミックレンジを自動的に調節します。
オフ	ダイナミックレンジを自動的に調節しません。



- 「音の設定」の「ダイナミックレンジ」で、ビットストリーム信号のダイナミックレンジを設定することもできます。(82 ページ)。
- ヘッドホンを使って再生しているときにも有効です。

ご注意

ピュアダイレクトモード（52 ページ）で再生しているときは「Adaptive DRC」は無効になります。

Adaptive DSP Level

本機の音量と DSP のエフェクト量（72 ページ）を連動して調節します。

選択項目	説明
自動	DSP のエフェクト量を自動的に調節します。
オフ	DSP のエフェクト量を自動的に調節しません。

ご注意

「自動」に設定しても、DSP のエフェクト量の設定値は変わりません（72 ページ）。

音量の上限

音量が間違って上がりすぎないように音量の最大値を設定します。例えば、「－5dB」に設定しているとき、音量の可変範囲は－80.0dB から－5.0dB になります。初期設定値（＋16.5dB）では、最大音量まで出力します。
可変範囲： －30dB ～ ＋15dB、 **＋16.5dB**
可変ステップ：5dB

音量の初期値

本機の電源をオンにしたときの音量を設定します。
選択項目：**オフ**、ミュート、
－80.0dB ～＋16.5dB
可変ステップ：0.5dB

ご注意

- 自動測定の測定中は、「音量の上限」の設定に関わらず音量は自動的に0dBに調節されます。
- 「音量の上限」の設定は「音量の初期値」の設定よりも優先されます。

ミューティング量

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します（43 ページ）。

選択項目	説明
フルミュート	完全に消音し、無音にします。
－20dB	いま聴いている音量よりも、20dB 下げて再生します。
－40dB	いま聴いている音量よりも、40dB 下げて再生します。

音の設定

音声に関するさまざまな設定を手動で変更します。

■ LFEレベル

LFE（低域効果音）チャンネルの音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に設定できます。LFE とは、映画の爆発シーンなど、意図されたシーンでのみ出力される、重低音による効果音です。
可変範囲： －20.0 ～ **0.0**dB
可変ステップ：1.0dB

スピーカー用

スピーカーで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。

ヘッドホン用

ヘッドホンで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。

ご注意

「低音出力先」（80 ページ）の設定により、SUBWOOFER PRE OUT 端子から信号が出力されない場合があります。

■ ダイナミックレンジ

ビットストリーム信号再生時のダイナミックレンジを調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に設定できます。

スピーカー用

スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを調節します。

ヘッドホン用
ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを調節します。

選択項目	説明
最大	入力された信号を補正せず、そのまま再生するダイナミックレンジです。
最小/自動	・最小：ドルビー TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジです。 ・自動：ドルビー TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを自動的に調節します。
標準	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。ドルビー TrueHD 信号再生時も、入力信号の情報に関わらず常にダイナミックレンジは基準値に保たれます。

■ パラメトリックEQ
各スピーカーのパラメトリックイコライザーを調節します。

PEQデータコピー
自動測定で得られた３種類のパラメトリックイコライザーの中から１種類を選んで手動編集エリアにコピーします。パラメトリックイコライザーの種類について詳しくは 40 ページをご覧ください。

選択項目	説明
フラット▶手動編集	自動測定の「フラット」で得られた結果をコピーします。
フロント▶手動編集	自動測定の「フロント」で得られた結果をコピーします。
ナチュラル▶手動編集	自動測定の「ナチュラル」で得られた結果をコピーします。

PEQ選択
実際に使うパラメトリックイコライザーを選びます。パラメトリックイコライザーの種類について詳しくは 40 ページをご覧ください。

選択項目	説明
手動編集	「設定」で調節したパラメトリックイコライザーを使います。
フラット	「フラット」で得られたパラメトリックイコライザーを使います。
フロントに近似	「フロント」で得られたパラメトリックイコライザーを使います。
ナチュラル	「ナチュラル」で得られたパラメトリックイコライザーを使います。
使用しない	パラメトリックイコライザーを使いません。

ご注意

- 自動測定を実施すると、「PEQ選択」は自動的に「ナチュラル」に設定されます。
- 「PEQ選択」の設定により、「音量」の設定は変化します（81ページ）。
- 自動測定を実施しても「手動編集」の内容は変更されません。

各スピーカーのパラメトリックイコライザーを手動で編集する
自動測定での測定結果を「PEQデータコピー」でコピーして、手動編集する際のベースにできます。「PEQ選択」を「手動編集」に設定してください。

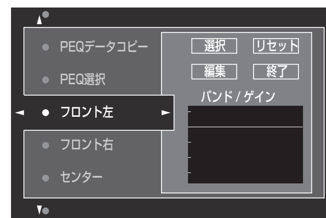
1 ⑨∆ / ∇ / ◁ / ▷ キーを押して「テストトーン」、または調節するスピーカーを選ぶ。

選択項目	説明
フロント左	フロント左スピーカー
フロント右	フロント右スピーカー
センター	センタースピーカー
サラウンド左	サラウンド左スピーカー
サラウンド右	サラウンド右スピーカー
サラウンドバック左	サラウンドバック左スピーカー
サラウンドバック右	サラウンドバック右スピーカー
フロントプレゼンス左	プレゼンス左スピーカー
フロントプレゼンス右	プレゼンス右スピーカー
サブウーファー	サブウーファー

テストトーン
各スピーカーの音質を調節しているときにテストトーンを出力するかしないかを選びます。

選択項目	説明
出力しない	テストトーンを出力しません。
出力する	テストトーンを出力します。

2 ⑨▷ キーを押して設定画面を表示する。

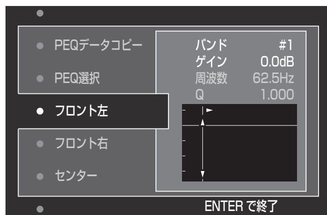


3 ⑨∆ / ∇ / ◁ / ▷ キーを押して「選択」を選び、⑨ENTER キーを繰り返し押して「バンド」、または「周波数」、「Q」（帯域幅）を選ぶ。

応用操作


「ゲイン」（レベルの強さ）は、どのパラメーターでも選べます。

4 ⑨∇ キーを押して「編集」を選び、⑨ENTER キーを押して編集画面を表示する。
パラメトリックイコライザーと各パラメーターについて詳しくは 128 ページをご覧ください。



「選択」で選んだパラメーターがハイライトされます。
- ⑨◁ / ▷ キーを押してパラメーターを調節します。
- ⑨∆ / ∇ キーを押して「ゲイン」を調節します。
- ⑨ENTER キーを押して編集を終了します。


- 手順３で「バンド」を選ぶと、グラフィックイコライザーとして使えます。
- ＃５～＃７のバンドでは５００ Hz 以上の周波数を選べます。
- ステップ１で「サブウーファー」を選び、ステップ３で「バンド」を選んだ場合、＃１～＃４のバンドのみ選べます。このとき、＃１～＃４のバンドでは２００ Hz 以下の周波数を調節できます。

5 手順３～４を繰り返し操作して他の項目を調節する。


選んだスピーカーのすべての「パラメトリックEQ」パラメーターを初期化するには、「リセット」を選んでから⑨ENTERキーを押します。

6 「終了」を選び、⑨ENTER キーを押して設定を終了する。

■ トーンコントロール
スピーカーやヘッドホンから出力される音声の低音域と高音域のバランスを調節します。

ご注意

以下の場合はトーンコントロールで音色を調節できません。
－ピュアダイレクトモードで再生している（52 ページ）。
－MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している。

効果

選択項目	説明
スピーカー用	スピーカーの低音域／高音域のバランスを調節します。
ヘッドホン用	ヘッドホンの低音域／高音域のバランスを調節します。


設定は「スピーカー用」と「ヘッドホン用」で別々に保存されます。「スピーカー用」では、フロント左／右、センタースピーカー、およびサブウーファーの音質を調節します。

低音
低音域の音色を調節します。
選択項目：125Hz、**350Hz**、500Hz
可変範囲：－6.0dB～+6.0dB
初期設定：0.0dB

高音
高音域の音色を調節します。
選択項目：2.5kHz、**3.5kHz**、8.0kHz
可変範囲：－6.0dB～+6.0dB
初期設定：0.0dB

バイパス設定
「低音」、および「高音」を「0.0dB」に設定している場合にトーンコントロール回路をバイパスするかしないかを設定します。

選択項目	説明
自動	「低音」、および「高音」を「0.0dB」に設定している場合にトーンコントロール回路を自動的にバイパスします。
オフ	トーンコントロール回路をバイパスしません。

■ リップシンク

モード
リップシンクの自動補正機能に対応しているモニターと本機を HDMI 接続している場合に、出力タイミングを自動的に補正します。音声出力を遅らせる時間を設定します。

選択項目	説明
手動補正	モニターが自動補正機能に対応していない、または自動補正機能を使わない場合に選びます。「手動補正」で補正時間を設定してください。
自動補正	モニターが自動補正機能に対応している場合に選びます。「自動補正」で補正時間を微調節してください。

ご注意

「自動補正」に設定していても、入力信号を出力するHDMI OUT 端子を「OUT 1+2」に設定し（42 ページ）、モニターを HDMI OUT 1 と HDMI OUT 2 の両方の端子に接続している場合は音と映像の自動補正機能ははたらきません。

自動補正

「モード」を「自動補正」に設定している場合に、補正時間を微調節します。
可変範囲：0 ～ 240ms
可変ステップ：1ms



「オフセット」は、自動補正機能によって調節された時間と、「自動補正」によって微調節された時間の差を表しています。本機はこの「オフセット」の値を記憶して、自動補正機能を持つ別のモニターにも同じ値を適用します。

手動補正

「モード」を「手動補正」に設定している場合に、補正時間を手動で微調整します。
可変範囲：0 ～ 240ms
可変ステップ：1ms

■ ピュアダイレクト

ピュアダイレクトモードで再生しているときの映像信号出力を設定します。

選択項目	説明
オーディオのみ	映像信号を出力しません。
オーディオ＋ビデオ	映像信号を出力します。音質を良くするため、最小限の映像機能が動作します。

ご注意

「ピュアダイレクト」を「オーディオ＋ビデオ」に設定しても、モニター画面にセットメニューを表示できません。

■ 多重モノラル音声

BS ／地上波デジタル放送などで使われているAAC モノラル二重音声入力時に、出力する音声を設定します。

選択項目	説明
主＋副	主音声と副音声をフロント左／右スピーカーから同時に出力します。PCM 信号入力時のフロント左／右チャンネルへの振り分けは、BS デジタルチューナーの設定により異なります。詳しくは BS デジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。
主音声	主音声をフロント左／右スピーカーから出力します。
副音声	副音声をフロント左／右スピーカーから出力します。

ご注意

- モノラルでない二重音声出力は BS デジタルチューナー側で設定してください。
- AAC、ドルビーデジタルの二重音声（デュアルモノ）信号、および AAC の音声多重（マルチモノ）信号受信時のみ設定が有効になります。
- 地上波放送などのアナログや PCM 信号での二重音声出力はチューナーやビデオデッキ側で設定してください。

■ チャンネルミュート

選んだチャンネルの音声をミュート（消音）します。

モード

各スピーカーの「チャンネルミュート」の設定をオン／オフします。

選択項目	説明
禁止	「チャンネルミュート」の設定をオフにします。
許可	「チャンネルミュート」の設定をオンにします。

各スピーカーの設定

「モード」を「許可」に設定しているときにミュートするスピーカーを選びます。

選択項目	ミュートするスピーカー
フロント左	フロント左スピーカー
フロント右	フロント右スピーカー
センター	センタースピーカー
サラウンド左	サラウンド左スピーカー
サラウンド右	サラウンド右スピーカー
サラウンドバック左	サラウンドバック左スピーカー
サラウンドバック右	サラウンドバック右スピーカー
フロントプレゼンス左	プレゼンス左スピーカー
フロントプレゼンス右	プレゼンス右スピーカー
サブウーファー	サブウーファー

選択項目	説明
ミュートする	選んだスピーカーの音声をミュートします。
ミュートしない	選んだスピーカーの音声をミュートしません。

映像の設定

映像出力に関する設定を変更します。



アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「VIDEO」（108 ページ）で、すべての「映像の設定」の項目を初期設定に戻せます。

■ アナログ ▶ アナログ

アナログ端子間のビデオコンバージョン機能をオン／オフします（VIDEO、S VIDEO、COMPONENT VIDEO、D5 VIDEO 端子）。

選択項目	説明
スルー	アナログ端子間のビデオコンバージョン機能をオフにします。
コンバージョン	アナログ端子間のビデオコンバージョン機能をオンにします。

ご注意

- HDMI 入力端子に映像信号を入力している、または 1080p アナログ映像信号を入力している場合以外、アナログから HDMI へのビデオコンバージョン機能は常に有効です。
- 480p、1080i、720p 信号は S VIDEO MONITOR OUT、または VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されません。
- 変換された映像信号は、MONITOR OUT 端子へのみ出力されます。外部機器を使って録画するときは、再生機器と同じ種類の映像接続を行ってください。
- ビデオデッキを本機に接続している場合、コンポジットビデオ信号または S ビデオ信号をコンポーネント信号に変換すると、ビデオデッキの種類によっては画質が劣化する場合があります。
- 特殊な映像信号を出力する機器（ゲーム機など）を本機のコンポジットビデオ端子、または S ビデオ端子に接続した場合、映像が正しく出力されなかったり、信号が変換されなかったりすることがあります。このような場合は「アナログ ▶ アナログ」を「スルー」に設定してください。

■ アナログ ▶ HDMI

アナログ端子に入力した信号を HDMI OUT 端子から出力するときに映像信号を処理するかしないかを設定します（VIDEO、S VIDEO、COMPONENT VIDEO、D5 VIDEO 端子入力、HDMI OUT 端子出力）。

選択項目	説明
スルー	信号を処理しません。
信号処理	「信号処理」の設定を適用する場合に選びます。

■ HDMI ▶ HDMI

HDMI IN 端子に入力した信号を HDMI OUT 端子から出力するときに映像信号を処理するかしないかを設定します （HDMI IN 端子入力、HDMI OUT 端子出力）。

選択項目	説明
スルー	信号を処理しません。
信号処理	「信号処理」の設定を適用する場合に選びます。

■ 信号処理

HDMI OUT 端子から出力する映像信号の解像度、アスペクト比、再プログレッシブ処理を設定します。

ご注意

「アナログ ▶ HDMI」、または「HDMI ▶ HDMI」で「信号処理」を選んでいる場合に設定できます。

解像度

アナログ入力端子、または HDMI IN 端子から入力した映像信号を HDMI OUT 端子から出力するときに解像度を上位変換します。
以下のように映像信号を変換します。

- 480i → 480p、1080i、720p、1080p
- 480p → 1080i、720p、1080p
- 1080i → 720p、1080p
- 720p → 1080i、1080p

選択項目	説明
変換しない	解像度を変換しません。
480p、720p、1080i、1080p	選んだ解像度に変換します。

アスペクト

アナログ入力端子、または HDMI IN 端子から入力した映像信号を HDMI OUT 端子から出力するときに縦横比（アスペクト比）を変換します。

選択項目	説明
変換しない	縦横比を変換せずに元の比率で出力します。
16:9 ノーマル	モニター画面の左右に黒い帯をつけて、4：3 の映像を 16：9 のモニターで最適な映像になるように出力します。
スマートズーム	4：3 の映像の左右を引き伸ばして、16：9 のモニターで最適な映像になるように出力します。

ご注意

- アスペクト比が 4 ：3 以外の映像信号が入力された場合、「アスペクト」の設定は無効になります。
- 「アスペクト」を「スマートズーム」に設定した場合、映像の左右両端を引き伸ばしてモニター画面に表示します。

再プログレッシブ処理
アナログ入力端子、または HDMI IN 端子から入力した映像信号を HDMI OUT 端子から出力するときに再プログレッシブ処理をオン／オフします。

選択項目	説明
オフ	HDMI 映像信号の再プログレッシブ処理をオフにします。
オン	HDMI 映像信号の再プログレッシブ処理をオンにします。

ご注意

480p、720p、1080p 映像信号にのみ有効です。

HDMIの設定

HDMI の機能を設定したり、HDMI OUT 端子に接続したモニターの情報を確認したりします。

■ スタンバイスルー

ご注意

「HDMIコントロール」で「オン」を選んでいる場合は設定できません（88ページ）。HDMI入力信号はHDMI接続している他の機器の設定に応じてHDMI OUT端子から出力されます。他の機器の設定について詳しくは他の機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

モード
本機の電源がスタンバイのときに、HDMI IN 端子から入力した HDMI 信号を HDMI OUT 端子から出力するかしないかを設定します。また、「モード」を「固定」に設定し、本機の電源がスタンバイのときに信号を入力／出力する HDMI IN ／ HDMI OUT 端子を設定します。

選択項目	説明
オフ	HDMI 入力信号を HDMI OUT 端子から出力しません。
前回	HDMI 入力信号を HDMI OUT 端子から出力します（前回電源をスタンバイにしたときに使っていた HDMI IN 端子、および HDMI OUT 端子から入力／出力します）。
固定	HDMI 入力信号を HDMI OUT 端子から出力します（「入力」で設定した HDMI IN 端子、および「出力」で設定した HDMI OUT 端子から入力／出力します）。

ご注意

「前回」、または「固定」に設定しているときは「オフ」のときよりも多くの待機時消費電力を必要とします。

入力
本機の電源がスタンバイのときに信号を入力する HDMI IN 端子を選びます。

ご注意

「モード」で「固定」を選んでいるときに設定できます。

選択項目	HDMI IN 端子
IN1	HDMI IN1（BD/HD DVD）
IN2	HDMI IN2（DVD）
IN3	HDMI IN3（CBL/SAT）
IN4	HDMI IN4（DVR）

出力
本機の電源がスタンバイのときに信号を出力する HDMI OUT 端子を選びます。

ご注意

「モード」で「固定」を選んでいるときに設定できます。

選択項目	HDMI OUT 端子
OUT1 + 2	HDMI OUT 1、HDMI OUT 2
OUT1	HDMI OUT 1
OUT2	HDMI OUT 2

■ 音声出力
HDMI 音声信号を本機で再生するか、本機の HDMI OUT 端子に接続した他の HDMI 機器で再生するかを選びます。

選択項目	説明
アンプ	本機に接続したスピーカーから HDMI 音声信号を出力します。
テレビ	本機に接続したテレビのスピーカーから HDMI 音声信号を出力します。本機に接続したスピーカーの音声はミュートされます。
アンプ＋テレビ	本機に接続したスピーカー、および本機に接続したテレビのスピーカーから HDMI 音声信号を出力します。



「テレビ」、または「アンプ＋テレビ」に設定した場合、接続しているテレビの仕様により、音声が出力されないことがあります。

ご注意

「HDMIコントロール」で「オン」を選んでいる場合は設定できません（88ページ）。入力音声はテレビ側の音声出力の設定に応じて出力されます。テレビの設定について詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

応用操作

■ HDMIコントロール

HDMI を使ったコントロール機能に対応している機器（一部を除く）と本機を HDMI 接続した場合に、HDMI を使ったコントロール機能を使用するかしないかを設定します。HDMI コントロール機能について詳しくは「HDMI コントロール機能を使う」をご覧ください（65 ページ）。

選択項目	説明
オフ	HDMI コントロール機能を使用しません。
オン	HDMI コントロール機能を使用します。

■ コントロールモニター

HDMI コントロール信号を出力する HDMI OUT 端子を選びます。

選択項目	説明
HDMI OUT1	HDMI OUT 1 端子から出力します。
HDMI OUT2	HDMI OUT 2 端子から出力します。

ご注意

設定を変更する場合は「HDMI コントロール機能を使う」の手順をもう一度操作し直してください（65 ページ）。

■ モニター情報

本機の HDMI OUT 1 端子、および HDMI OUT 2 端子に接続したモニターの情報（インターフェース、解像度ごとの周波数）を表示します。



⑨▷ キーを繰り返し押して、「OUT1」（HDMI OUT 1 端子に接続したモニターの情報）、または「OUT2」（HDMI OUT 2 端子に接続したモニターの情報）を切り替えてください。

ネットワーク設定

ネットワークに関する設定を変更します。

ご注意

ネットワーク環境を変更した場合、ネットワークを再設定しなければならないことがあります。



アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「NETWORK」（108 ページ）で、すべての「ネットワーク設定」の項目を初期設定に戻せます。

■ 構成

ネットワークの情報（IP アドレスなど）を表示したり、設定を手動で変更したりします。

DHCP

ネットワークを自動的に設定するか、手動で設定するかを選びます。

選択項目	説明
オフ	ネットワークを手動で設定します。
オン	ネットワークを自動的に設定します。

IP アドレス

IP アドレスを設定します。ネットワーク上の他の機器と同じ IP アドレスを本機に設定することはできません。

サブネット　マスク

サブネットマスクを設定します。



通常は「255.255.255.0」と入力してください。

デフォルト　ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。

DNS サーバー（P）

DNS サーバー（S）

プライマリー／セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを設定します。

ご注意

DNS アドレスが 1 つの場合は「DNS サーバー（P）」に入力してください。2 つ以上ある場合は、1 つを「DNS サーバー（P）」に、ほかの 1 つを「DNS サーバー（S）」に入力してください。

■ ネットワークスタンバイ

本機の電源がスタンバイのときにネットワークからのコントロール信号を受信するか、受信しないかを設定します。

選択項目	説明
オフ	コントロール信号を受信しません。
オン	コントロール信号を受信します。

ご注意

「ネットワークスタンバイ」を「オン」に設定しているときは「オフ」のときよりも多くの待機時消費電力を必要とします。

■ ネットワーク情報

MAC アドレスやネットワークとの接続状況を表示します。

MACアドレス

本機の MAC アドレスを表示します。

ステータス

ネットワークとの接続状況を表示します。
表示項目：10BASE-T、100BASE-TX、
　　　　　接続されていません、全二重、半二重

ご注意

ネットワークが接続されていない場合は「接続されていません」と表示されます。

システム

本機に割り当てられたシステム ID を表示します。

その他の設定

その他のさまざまな設定を変更します。

■ 設定の保護

誤操作による設定値の変更を防止します。

選択項目	説明
しない	設定を保護しません。
する	以下の設定を保護します。 －音場パラメーターの設定 －セットメニューの設定 －スピーカーの音量設定



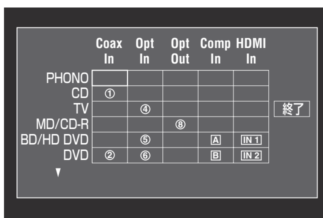
「設定の保護」を「する」に設定している場合、保護されている設定の左側に「🔒」が表示されます。

■ 端子の割り当て

本機が装備している入出力端子は、それぞれに接続する外部機器が初期設定で割り当てられています。初期設定とは異なる機器を接続した場合に、接続した端子の割り当てを変更してください。割り当てを変更すれば、入力選択時に表示される機器名と、実際に選ばれる機器を一致させられます。

例： CD DIGITAL INPUT COAXIAL 端子に「MD/CD-R」を割り当てる

1 ⑨ENTER キーを押して「端子の割り当て」設定画面を表示する。



2 ⑨△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押して「MD/CD-R」行、「Coax In」列を選び、⑨ENTER キーを押す。

3 ⑨◁ / ▷ キーを押して「①」を選び、⑨ENTER キーを押す。

現在の割り当てを解除するには「無し」を選んでください。



設定を変更せずに前の画面に戻るには、⑧△ キーを押します。

4 ⑨△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押して「終了」を選び、⑨ENTER キーを押す。



同じ種類の端子には、1 つの機器を 1 回のみ割り当てられます。

■ 入力名変更

モニター画面やフロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を変更します。

1 ⑨△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押して文字、または機能を選び、⑨ENTER キーを押す。

手順 1 を繰り返し操作して名称を入力してください。

2 ⑨△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押して「決定」を選び、⑨ENTER キーを押す。



- 入力名を初期設定に戻すには、「リセット」を選んでから ⑨ENTER キーを押します。
- 入力名を変更せずに設定を中止するには、「無効」を選んでから ⑨ENTER キーを押します。

■ 表示設定

本体表示器の設定

本体表示器の明るさ

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを設定します。

可変範囲： －４～０

スクロール表示

フロントパネルディスプレイにメニューを表示するときの表示方法を設定します。

選択項目	説明
継続	すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。
1 回	すべての文字を 1 度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から 14 文字目までを表示します。

ショートメッセージ

本機を操作したときにテレビ画面に表示される、ショートメッセージを設定します。

選択項目	説明
表示する	ショートメッセージを表示します。
表示しない	ショートメッセージを表示しません。

応用操作

ご注意

1080i、720p、1080p コンポーネントビデオ信号を入力している場合、ショートメッセージ（本機の状態などを表すものを除く）は表示されません。

再生情報表示

再生情報画面の表示時間を設定します。

選択項目	説明
常に表示	メニュー画面を継続して表示します。
10秒	メニュー画面を 10 秒間表示します。
30秒	メニュー画面を 30 秒間表示します。

表示位置の調整

モニター画面表示の位置を調節します。
可変範囲：－5（下／左）～+5（上／右）

キー	移動方向
⑧∆	上
⑨∇	下
⑨▷	右
⑨◁	左

壁紙の設定

映像信号が入力されていないときに表示する壁紙を設定します。

選択項目	説明
使用しない	壁紙を表示しません。
ピアノ	ピアノを表示します。
ホルン	ホルンを表示します。
エレキギター	エレキギターを表示します。
灰色無地	灰色の壁紙を表示します。

■ iPod

スタンバイ時の充電

本機の電源がスタンバイのときに、本機に接続したヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-11 など）にセットした iPod の充電モードを設定します。

選択項目	説明
自動	iPod を充電します。
オフ	本機の電源がスタンバイのときは iPod を充電しません。

■ 起動時設定

音声入力初期値

本機の電源をオンにしたときに適用する入力モード（42 ページ）を設定します。

選択項目	説明
自動判別	自動的に入力信号の種類を判別し、入力モードを決定します。
前回設定	前回選んでいた入力モードの設定を適用します。

デコードモード初期値

本機の電源をオンにしたときに適用するデコーダー（66 ページ）を設定します。

選択項目	説明
自動判別	自動的に入力信号の種類を判別し、デコーダーを決定します。
前回設定	前回選んでいたデコーダーの設定を適用します。

EXTDサラウンド初期値

本機の電源をオンにしたときに適用する 6.1 ／ 7.1 チャンネル再生時のデコーダー（67 ページ）を設定します。

選択項目	説明
自動判別	自動的に入力信号の種類を判別し、デコーダーを決定します。
前回設定	前回選んでいたデコーダーの設定を適用します。

■ トリガー出力

本機が装備している TRIGGER OUT 端子の機能を設定します。

選択項目	説明
トリガー 1	TRIGGER OUT 1 端子の機能を設定します。
トリガー 2	TRIGGER OUT 2 端子の機能を設定します。

トリガーモード選択

選択項目	説明
パワー	本機の電源をオンにしたときに、選んでいる TRIGGER OUT 端子に電気信号を出力します。
ソース	選んだ入力ソースを選択したときに、選んでいる TRIGGER OUT 端子に電気信号を出力します。
手動	手動で電気信号を出力します。

入力レベル

入力ソースを選び、そのソースに適用する入力レベルを設定します。

ご注意

「トリガーモード選択」で「ソース」を選んでいるときのみ設定できます。

選択項目	説明
H	入力ソースを選択したときに電気信号を出力します。
L	入力ソースを選択したときに電気信号の出力を停止します。

手動テスト

ご注意

「トリガーモード選択」で「手動」を選んでいるときのみ設定できます。

選択項目	説明
H	電気信号を出力します。
L	電気信号の出力を停止します。

表示言語

モニター画面やフロントパネルディスプレイに表示する文字の言語を設定します。

選択項目：**日本語**、Français（フランス語）、
Deutsch（ドイツ語）、
Español（スペイン語）、
Русский（ロシア語）、English（英語）



アドバンストセットアップメニュー「LANGUAGE」でも表示言語を設定できます（109 ページ）。

ご注意

「日本語」を選んだ場合でもフロントパネルディスプレイには英語で表示されます。

本機の設定を呼び出す・保存する（システム・メモリー）

６種類までの設定を保存し、必要に応じて簡単に呼び出せます。

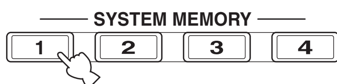
現在の設定を保存する

■ ⑦SYSTEM MEMORY キーを使って保存する

⑦SYSTEM MEMORY キーを押してメモリー１ 〜 メモリー４ に設定を保存します。

設定を保存する ⑦SYSTEM MEMORY キーを約４秒間押し続ける。

フロントパネルディスプレイに「Memory1 SAVE」（例）と表示され、選んだメモリー番号に現在の設定を保存します。





- 選んだメモリー番号に設定がすでに保存されている場合、新しい設定を上書きします。
- ⑦SYSTEM MEMORY キーを押して設定を保存する場合は、セットメニューを使って保存する方法で選ばれているメニューグループごとに保存します。

■ セットメニューを使って保存する

セットメニュー「システム・メモリー」を使えば、「メモリー 1」から「メモリー 6」までの 6 通りの設定を変更できます。

1 操作機器選択スイッチを（⑯）で AMP を選び、⑲MENU キーを押す。



「トップメニュー」（71 ページ）以外が表示されている場合は、トップメニューが表示されるまで⑲ MENU キーを長押ししてください。

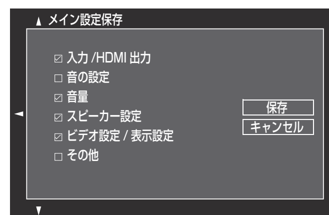
2 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「設定」を選び、⑨▷ キーを押す。

3 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「システム・メモリー」を選び、⑨▷ キーを押す。

4 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「設定の保存」を選び、⑨▷ キーを押す。

5 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押してメモリー番号（メモリー 1 〜メモリー 6）を選び、⑨ENTER キーを押す。

保存するメニューグループが表示されます。





- 選んだメモリー番号に設定がすでに保存されている場合、新しい設定を上書きします。
- ⑦SYSTEM MEMORY キーで設定を呼び出すには、MEMORY1 〜 MEMORY4 キーを押してください。

6 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押してメニューグループを選び、⑨ENTER キーを押してチェックボックス（□）にチェックマークを入れる／外す。

保存するメニューグループのチェックボックスにチェックマークを入れてください。保存するメニューグループについて詳しくは「保存するメニューグループ」をご覧ください（93 ページ）。

7 ⑨△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを繰り返し押して「保存」を選び、⑨ENTER キーを押して、選んだメモリー番号に現在の設定を保存する。



操作を中止するには「キャンセル」を選んでから⑨ENTER キーを押してください。

8 ⑲MENU キーを押して設定を終了する。

■ メモリーの名称を変更する

1 「セットメニューを使って保存する」の手順 1 〜手順 3 を操作する（92 ページ）。

2 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「名称変更」を選び、⑨▷ キーを押す。

3 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して名称を変更するメモリー番号を選び、⑨▷ キーを押す。

4 ⑨△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押して文字、または機能を選び、⑨ENTER キーを押す。
手順 4 を繰り返し操作して名称を入力してください。

5 ⑨△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押して「決定」を選び、⑨ENTER キーを押す。



- 入力名を初期設定に戻すには、「リセット」を選んでから ⑨ENTER キーを押します。
- 入力名を変更せずに設定を中止するには、「無効」を選んでから ⑨ENTER キーを押します。

6 ⑲MENU キーを押して設定を終了する。

ご注意

表示言語の設定を変更すると（91、109 ページ）、変更したメモリー名称は自動的に初期設定に戻ります。

■ 保存するメニューグループ

メニューグループの初期設定は太字で示されています。

メニューグループ	設定	参照ページ
入力 /HDMI 出力	音声入力選択	78
	デコードモード	78
	入力ソース	41
	HDMI 出力端子設定	42

メニューグループ	設定	参照ページ
音の設定	ステレオ / サラウンド	72
	ピュアダイレクトモード	52
	EXTD SUR. 設定	67
	Adaptive DRC	81
	Adaptive DSP Level	82
	LFEレベル	82
	ダイナミックレンジ	82
	トーンコントロール	84
	ピュアダイレクト	85
	CINEMA DSP 3D モード	51
音量	音量	41
スピーカー設定	パラメトリックEQ	83
	構成	79
	距離	81
	音量	81
	項目選択（自動測定）	36
ビデオ設定／表示設定	アナログ ▶ アナログ	86
	アナログ ▶ HDMI	86
	HDMI ▶ HDMI	86
	信号処理	86
	ショートメッセージ	89
	再生情報表示	90
	表示位置の調整	90
	壁紙の設定	90
その他	リップシンク	84
	本体表示器の設定	89
	音声出力	87

保存した設定を呼び出す

ご注意

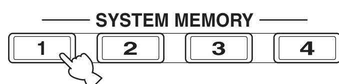
保存した設定を呼び出すと、現在の設定に上書きします。現在の設定を消去したくない場合は、設定を呼び出す前に「システム・メモリー」に保存してください。

■ ⑦SYSTEM MEMORY キーを使って呼び出す

⑦SYSTEM MEMORY キーを押して、メモリー 1 〜メモリー 4 に保存した設定を呼び出します。

1 設定を呼び出すメモリー番号の ⑦SYSTEM MEMORY キーを押す。

フロントパネルディスプレイに「Memory1 LOAD」（例）と表示されます。





選んだメモリー番号に設定が保存されていない場合は「EMPTY」と表示されます。

2 選んだ番号の ⑦SYSTEM MEMORY キーをもう一度押して、決定する。

選んだメモリー番号に保存されている設定を呼び出します。

■ セットメニューを使って呼び出す

1 セットメニューを使って保存する」の手順 1 〜手順 3 を操作する（92 ページ）。

2 ⑨∆ / ∇ キーを繰り返し押して「設定の呼び出し」を選び、⑨▷ キーを押す。

3 ⑨∆ / ∇ キーを繰り返し押して設定を呼び出すメモリー番号を選び、⑨ENTER キーを押す。



選んだメモリー番号に設定が保存されていない場合は「保存されていません」と表示されます。

4 ⑨∆ / ∇ / ◁ / ▷ キーを繰り返し押して「呼出」を選び、⑨ENTER キーを押して、選んだメモリー番号に保存した設定を呼び出す。



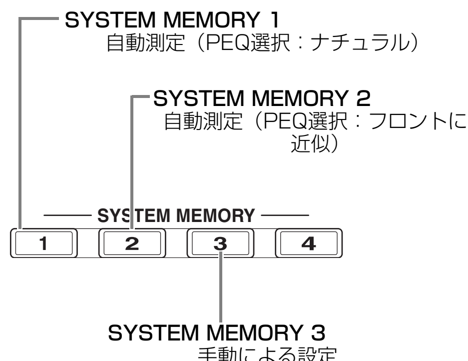
操作を中止して前のメニューに戻るには、「キャンセル」を選んでから⑨ ENTER キーを押します。

5 ⑲MENU キーを押して設定を終了する。

メモリー機能の使用例

■ 例 1 ：「自動測定」の設定と手動による設定を比較する

本機は３種類のパラメトリックイコライザーを装備しています（40 ページ）。また、「音の設定」で音の設定を自由に変更することもできます（82 ページ）。⑦SYSTEM MEMORY キーを使って、「自動測定」の設定と手動による設定を比較します。



それぞれの設定を保存する

1 「自動測定」を実施する（35 ページ）。

2 ⑦SYSTEM MEMORY 1 キーを約４秒間押し続ける。

「自動測定」の設定（PEQ選択：ナチュラル）をメモリー 1に保存します。

3 「PEQ選択」を「フロントに近似」に設定する（83ページ）。

4 ⑦SYSTEM MEMORY 2 キーを約４秒間押し続ける。

「自動測定」の設定（PEQ選択：フロントに近似）をメモリー 2に保存します。

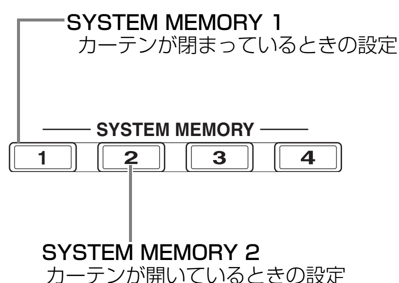
5 「スピーカーの設定」（79 ページ）と各スピーカーのパラメトリックイコライザー（83 ページ）を手動で設定する。

6 ⑦SYSTEM MEMORY 3 キーを約４秒間押し続ける。

手動での設定をメモリー ３ に保存します。

■ 例2：リスニングルーム環境の違いによって使い分ける

リスニングルームの音響特性はお部屋の環境によって変化します（例：カーテンの開／閉）。本機の設定を変更することで環境に適した再生を楽しめます。⑦SYSTEM MEMORY キーを使って本機の設定を切り替えます。



それぞれの設定を保存する

1 **カーテンを閉めた状態で自動測定を実施する（35 ページ）。**

2 **⑦SYSTEM MEMORY 1 キーを約4秒間押し続ける。**
現在のお部屋の状況（例：カーテン閉）に適した設定をメモリー 1 に保存します。

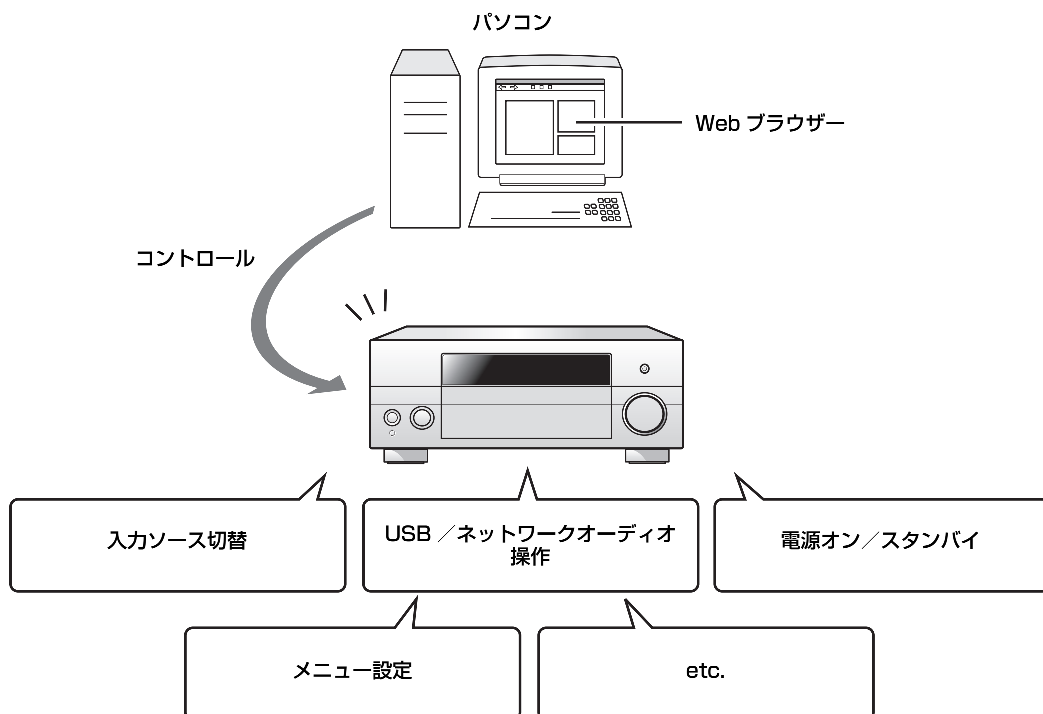
3 **カーテンを開けた状態で自動測定を実施する。**

4 **⑦SYSTEM MEMORY 2 キーを約4秒間押し続ける。**
現在のお部屋の状況（例：カーテン開）に適した設定をメモリー 2 に保存します。

応用操作

本機をパソコンで操作する

Web ブラウザーを利用して本機を操作できます。Web ブラウザーに表示される画面（Web メニュー）を見ながら入力ソースや音場プログラムの選択、iPod または USB ／ネットワークコンテンツの確認、本機の設定などができます。Web ブラウザーで本機を操作するために、「ネットワーク設定」（88 ページ）で本機の IP アドレスを確認し、Web ブラウザーのアドレス欄にアドレスを入力してください。





- 本機をパソコンで操作するには、本機とパソコンをホームネットワークに正しく接続してください（29 ページ）。
- Windows XP ／ Vista の Windows Internet Explorer 6 ／ 7 でアクセスすることをおすすめします。一部の環境ではアクセスできなかったり、Web メニューが正常に動作しなかったりすることがあります。
- 本機がスタンバイのときに、Web ブラウザーから本機を起動できるようにするかできないようにするかを設定できます（88 ページ）。
- パソコンの MAC アドレスを登録して、本機を操作できるパソコンを制限できます。MAC アドレスは Web メニューからのみ登録できます。アドバンストセットアップメニュー「MAC FILTER」（108 ページ）で、ネットワークからの接続の制限をするかしないかを設定できます。

リモコンの機能を詳しく知る

他の機器のリモコンコードを設定することにより（100 ページ）、本機のリモコンで DVD プレーヤー、テレビなど、本機以外の AV 機器を操作できます。

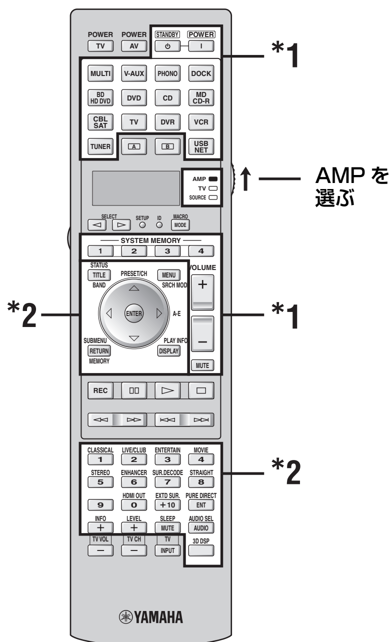
リモコンでさまざまな機器を操作する

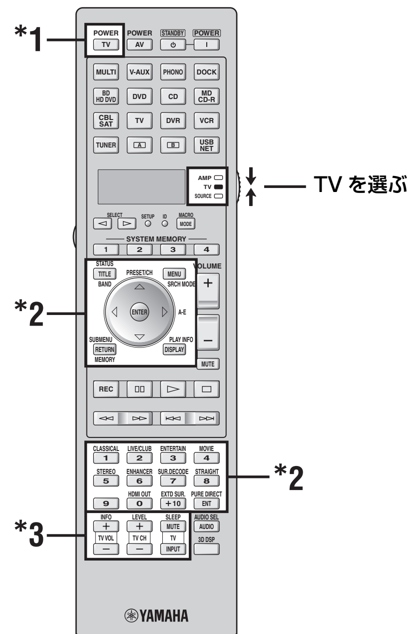
■ 本機を操作する

操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選んでください。



⑯TV の位置にテレビのリモコンコードを設定していない場合は ③TV キーに設定したテレビを操作できます。





ご注意

*1 操作機器選択スイッチの位置に関わらず本機を操作できます。

*2 操作機器選択スイッチ（⑯）を AMP にセットしたときに本機を操作できます。

■ テレビを操作する

本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合は、操作機器選択スイッチ（⑯）を TV にセットします。テレビを操作するには、あらかじめ ⑯TV の位置にテレビのリモコンコードを設定してください（100 ページ）。

HDMI コントロール機能を使っている場合（65 ページ）、本機と HDMI 接続したテレビを本機のリモコンで操作すると、本機の電源や音量が動作することがあります。HDMI コントロール機能に対応している機器を本機と HDMI 接続している場合は、それらの機器の電源も動作することがあります。

ご注意

*1 操作機器選択スイッチの位置に関わらずテレビを操作できます。

*2 操作機器選択スイッチ（⑯）を TV にセットしたときにテレビを操作できます。詳しくは、次ページ表中の「テレビ」欄をご覧ください。

*3 操作機器選択スイッチ（⑯）を TV、または SOURCE にセットしたときに、テレビを操作できます。

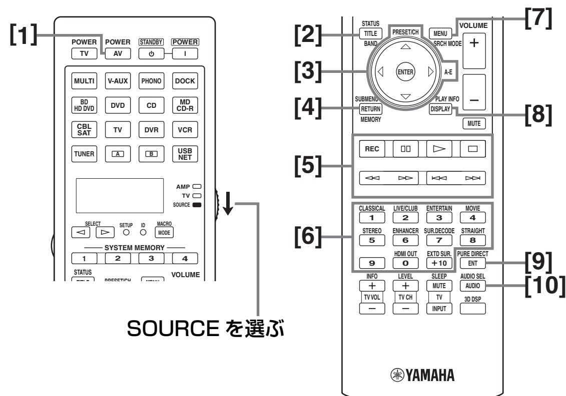
リモコンキー	テレビ
TV VOL +/ −	テレビの音量を操作します。
TV CH +/ −	テレビのチャンネルを切り替えます。
TV MUTE	テレビの音量を一時的に消音します。
TV INPUT	テレビの映像入力を切り替えます。

■ 他の機器を操作する

入力選択キー (③) または A、B キーで選んだ機器を操作するには、入力機器選択スイッチ (⑯) で SOURCE を選びます。各入力ソースにあらかじめリモコンコードを設定してください（100 ページ）。下表は、入力選択キー (③)、または A、B キーに割り当てられている機器を操作できる各キーの機能を表しています。



本機のリモコンは、16 台までの異なる機器を操作できるように、16 種類のコントロールエリアを装備しています。



		BD／HD DVD プレーヤー／レコーダー	DVD プレーヤー	LD プレーヤー	DVD レコーダー／デジタルビデオレコーダー	ビデオデッキ	テレビ	ケーブルテレビ／衛星放送チューナー	CD プレーヤー	MD／CD レコーダー	テープデッキ	チューナー
[1]	AV POWER	電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1	DVR 電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1
[2]	TITLE、BAND	タイトル	タイトル		タイトル		タイトル					バンド
[3]	PRESET/CH ∆	上へ	上へ		上へ	チャンネル＋	上へ	チャンネル＋				上へ
	PRESET/CH ∇	下へ	下へ		下へ	チャンネルー	下へ	チャンネルー				下へ
	A-E ◁	左へ	左へ		左へ		左へ					左へ
	A-E ▷	右へ	右へ		右へ		右へ				面切替（A／B）	右へ
	ENTER	決定	決定		決定		決定					決定
[4]	RETURN、MEMORY	戻る	戻る		戻る		戻る					メモリー
[5]	REC	録音（レコーダー）	ディスクスキップ		録音／録画	録音／録画	DVR 録音／録画 *2	DVR 録音／録画 *2	ディスクスキップ	録音	録音	
	II	一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	DVR 一時停止 *2	DVR 一時停止 *2	一時停止	一時停止	一時停止	
	▷	再生	再生	再生	再生	再生	DVR 再生 *2	DVR 再生 *2	再生	再生	再生	
	□	停止	停止	停止	停止	停止	DVR 停止 *2	DVR 停止 *2	停止	停止	停止	
	◁◁	巻き戻し	巻き戻し	巻き戻し	巻き戻し	巻き戻し	DVR 巻き戻し *2	DVR 巻き戻し *2	巻き戻し	巻き戻し	巻き戻し	
	▷▷	早送り	早送り	早送り	早送り	早送り	DVR 早送り *2	DVR 早送り *2	早送り	早送り	早送り	
	|◁◁	スキップ（–）	スキップ（–）	スキップ（–）	スキップ（–）	スキップ（–）	DVR スキップ（–）*2	DVR スキップ（–）*2	スキップ（–）	スキップ（–）	A 面再生	
	▷▷|	スキップ（+）	スキップ（+）	スキップ（+）	スキップ（+）	スキップ（+）	DVR スキップ（+）*2	DVR スキップ（+）*2	スキップ（+）	スキップ（+）	B 面再生	
[6]	1-9、0、+10	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力		数字入力
[7]	MENU、SRCH MODE	メニュー	メニュー		メニュー		メニュー					選局モード
[8]	DISPLAY	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示		ディスプレイ表示
[9]	ENT	インデックス表示	インデックス表示	チャプター／時間表示	インデックス表示	決定	決定	決定	インデックス表示	インデックス表示		決定
[10]	AUDIO	オーディオ	オーディオ	オーディオ	オーディオ							

ご注意

*1 機器に付属のリモコンに電源キーがある場合に機能します。
*2 ③**DVR** キーに DVR（DVD レコーダーなどの録画機器）のリモコンコードを設定した場合に、DVD レコーダーなどを操作できます。

■ 操作する機器を切り替える

入力選択キー（③）で選んでいる入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えます。

⑤SELECT◁ / ▷ キーを繰り返し押して、操作機器を切り替える。
操作する機器名がリモコンディスプレイ（④）に表示されます。



■ オプション機器を操作する（オプションモード）

「OPTN1」、および「OPTN2」には、入力ソースに関係なくリモコンで操作したい機能を記憶できます。マクロ機能の一部として、またはリモコンコードを持たない機器の操作用として使うと便利です。

リモコンディスプレイ（④）に「OPTN1」、または「OPTN2」と表示されるまで ⑤SELECT ◁ / ▷ キーを繰り返し押す。



リモコンの設定を変更する

リモコンに関するさまざまな設定を変更します。

1 ボールペンなどで ⑰SETUP キーを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

2 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して設定項目を選ぶ。

設定項目	説明	ページ
SETUP	トップメニューです。	—
LEARN	他の機器のリモコン機能を記憶します。	102
P-SET	リモコンコードを設定します。	100
RNAME	リモコンに表示される機器名を変更します。	103
MACRO	マクロを設定します。	104
CLEAR	リモコンを初期化します。	106
ERASE	ラーニングした機能を消去します。	106
EX-IR	拡張 IR 用です。通常は使用しません。	—
LIGHT	バックライトの設定を変更します。	100

3 設定を終了したら⑰SETUPキーをもう一度押す。

ご注意

各操作を３０秒以内に行わなかった場合、設定は自動的に中止されます。

応用操作

バックライトの設定を変更する

1 ボールペンなどで ⑰SETUP キーを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

2 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「LIGHT」を選び、⑨ENTER キーを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「LIGHT」と現在の設定が交互に表示されます。

LIGHT

3 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して項目を選び、⑨ENTER キーを押す。

選択項目	説明
ON	リモコンキーを押したときにキーが点灯します。
OFF	**⑨LIGHT** ボタンを押したときにリモコンキーが点灯します。

4 ⑰SETUPキーをもう一度押して設定を終了する。

リモコンコードを設定する

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他の機器を操作できます。リモコンコードについては巻末に記載の「リモコンコード一覧」をご覧ください。
下表は各操作機器の初期設定コードを表しています。

工場出荷時のリモコンコード設定

操作機器名	カテゴリー	メーカー名	リモコンコード
MULTI	DVD	ヤマハ	04306
V-AUX	–	–	–
PHONO	–	–	–
DOCK	SOURCE	ヤマハ	00012
BD HD DVD	–	–	–
DVD	DVD	ヤマハ	04306
CD	CD	ヤマハ	01205
MD CD-R	CD-R	ヤマハ	01405
CBL SAT	–	–	–
TV	–	–	–
DVR	DVR	ヤマハ	00707
VCR	–	–	–
TUNER	SOURCE	ヤマハ	00012
A	–	–	–
B	–	–	–
USB NET	SOURCE	ヤマハ	00012

ご注意

お使いのヤマハ製機器によっては、初期設定されているヤマハのリモコンコードでは操作できない場合があります。この場合は別のリモコンコードをお試しください。

1 設定するリモコンコードを確認する。
リモコンコードについては、巻末に記載の「リモコンコードリスト一覧」をご覧ください。

2 操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選ぶ。
「TV」にリモコンコードを設定する場合は **⑯TV** を選びます。

3 ボールペンなどで ⑰SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

SETUP

4 ⑨∆ / ∇ キーを繰り返し押して「P-SET」を選び、⑨ENTER キーを押す。
リモコンがプリセットモードに入ります。リモコンディスプレイ（④）に、「P-SET」と現在の操作機器名が交互に表示されます。

P-SET

5 入力選択キー（③）、または ⑤SELECT ◁ / ▷ キーを繰り返し押して、操作機器を切り替える。
手順２で「TV」を選んだ場合、この手順はスキップしてください。

DVD

6 ⑨ENTER キーを押す。
現在設定されているリモコンコードが表示されます。

04306

7 数字キー（⑫）を押して５桁のリモコンコードを入力する。

8 ⑨ENTER キーを押す。
正しく設定されると、リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されます。
設定に失敗すると、リモコンディスプレイ（④）に「NG」と表示されます。この場合は手順５から操作し直してください。

OK


続けて他の機器のコードを設定するには、手順５～８を操作してください。

9 ⑰SETUP ボタンをもう一度押して設定を終了する。

10 ②AV POWER キーや ⑪▷ キーを押して動作を確認する。

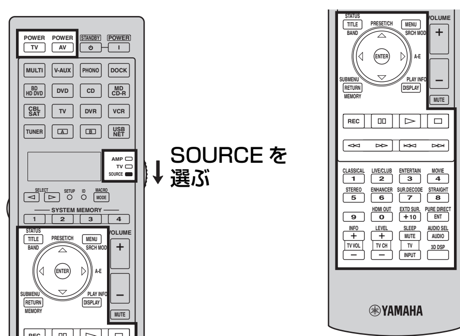

- キーを押しても機器が動作しないときは、同じメーカーの別のリモコンコードを設定してください。
- 「０００１２」を操作機器のリモコンコードとして設定すると、現在選んでいる本機内蔵ソース（DOCK、TUNER、USB/NET）を操作できます。

ご注意

- 手順で指定されたキー以外を操作したり、２つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。
- 本機のリモコンは市販されているすべての AV 機器（ヤマハ AV 機器を含む）のリモコンコードを内蔵しているわけではありません。お使いの機器をいずれのリモコンコードでも操作できない場合は、ラーニング（102 ページ）を設定するか、機器に付属のリモコンをお使いください。
- すでにラーニングを設定している場合、ラーニングによる機能がリモコンコードの機能よりも優先されます。

他の機器のリモコン機能を記憶する（ラーニング）

お使いの機器のリモコン機能を本機のリモコンに記憶します。リモコンコードを設定しても操作できない機能があったり、その機器のリモコンコードがなかったりする場合に設定してください。下図の白色の部分に、お使いの機器のリモコン機能を記憶できます。また、操作機器ごとに別の機能を記憶できます。



ご注意

- リモコンから赤外線信号が送信されます。お使いの機器のリモコンも赤外線信号を使っている場合、ほぼすべての機能を記憶できますが、信号が特殊だったり、連続していたりする場合は記憶できないことがあります。
- 選んでいる入力機器やカテゴリーにより、白色の部分にあるキーを選んでいても記憶できないことがあります。

1 **操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選び、入力選択キー（③）を押して操作機器を選ぶ。**

「TV」に記憶する場合は ⑯**TV** を選びます。

ご注意

操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE、または TV を選んでいることをご確認ください。AMP を選んで記憶すると、本機を操作できなくなります。

2 **ボールペンなどで ⑰SETUP ボタンを押す。**

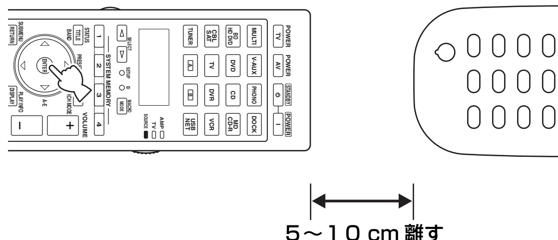
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

3 **⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「LEARN」を選び、⑨ENTER キーを押す。**

4 **本機のリモコンと他の機器のリモコンを約５～１０ cm 離して赤外線送信部がお互いに対向するように置き、⑨ENTER キーを押す。**

リモコンディスプレイ（④）に「L-KEY」と表示されます。

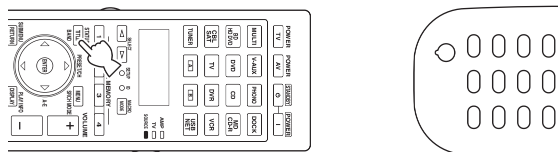
他の機器のリモコン



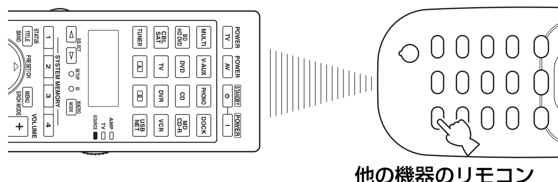
５～１０ cm 離す

5 **新しい機能を記憶させたい、本機のリモコンキーを押す。**

リモコンディスプレイ（④）に「START」と表示されます。



6 **リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されるまで、他の機器の記憶させたい機能のリモコンキーを押し続けます。**



他の機器のリモコン

OK



続けて他の機能を記憶させるには、手順４～６を操作してください。

7 ⑰SETUP ボタンをもう一度押して、設定を終了する。

ご注意

- 手順で指定されたキー以外を操作したり２つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。
- 本機のリモコンは２００までの機能を記憶できますが、信号によっては２００に達する前に「FULL」と表示されることがあります。この場合、記憶済みのキーから不要なものを削除してください（106 ページ）。
- 以下場合、機能を記憶できないことがあります。
  －本機、または他の機器のリモコンの乾電池が消耗している
  －リモコンに直射日光が当たっている
  －信号が特殊だったり、連続していたりする

リモコンに表示される機器の名前を変更する

リモコンディスプレイ（④）に表示される操作機器名を変更します。

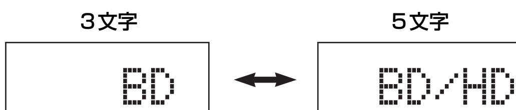
1 操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選び、入力選択キー（③）を押して、名前を変更する機器を選ぶ。

2 ボールペンなどで ⑰SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

3 ⑨∆ / ∇ キーを繰り返し押して「RNAME」を選び、⑨ENTER キーを押す。

4 ⑨∆ / ∇ キーを繰り返し押して、変更する名前の文字数（３文字／５文字）を選び、⑨ENTER キーを押す。
各操作機器は、３文字または５文字で表示されます。それぞれの文字数で別々に設定できます。

３文字　　５文字



5 機器名を編集する。
文字の位置を選ぶには ⑨◁ / ▷ キーを押します。
文字を選ぶには ⑨∆ / ∇ キーを押します。





⑨∆ キーを押すと順番どおりに、⑨∇ キーを押すと順番とは逆に文字が表示されます。A ～ Z、a ～ z、０～９、スペース、記号（−、+、／、: ）

6 ⑨ENTER キーを押して新しい名前を登録する。
正しく登録されると、リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されます。



続けて他の機器の名前を変更するには入力選択キー（③）を押す、または ⑤SELECT◁ / ▷ キーを繰り返し押して機器を切り替えてから ⑨ENTER キーを押し、手順４～６を操作してください。

7 ⑰SETUP ボタンをもう一度押して設定を終了する。

ご注意

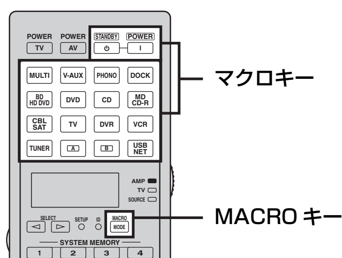
手順で指定されたキー以外を操作したり２つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。

応用操作

マクロ機能を使う

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を 1 つのキーでできるようにする機能です。
たとえば CD を再生する場合、通常、（1）システムの電源を入れる→（2）入力ソースを CD に切り替える→（3）再生を開始する…などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーの CD キーを押すだけでこのような一連の操作を済ますことができます。
下のリストに表示されたマクロキーにはマクロ機能があらかじめ登録されていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます（105 ページ）。

■ 登録されているマクロで操作する



1 リモコンの ⑱MACRO キーを押す。



2 設定したいマクロキーを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「M: 3文字の入力機器名」（例「M:DVD」）と表示され、設定されている操作内容が送信されます。
⑭STANDBY キー、または ⑮POWER キーを押した場合は、リモコンディスプレイ（④）に「M:STB」、または「M:PWR」と表示され、設定されている操作内容が送信されます。

3 リモコンの ⑱MACRO キーを押して設定を終了する。

ご注意

- マクロを操作している（トランスミットインジケーターが点滅している）ときは、他のキーの操作を受け付けません。
- すべてのマクロ操作が終わるまで、操作している機器にリモコンを向けたままにしてください。
- 各手順を３０秒以内に操作しなかった場合、マクロ操作は自動的に中止されます。

■ マクロ初期設定

マクロキー	マクロ操作 1番目	マクロ操作 2番目
STANDBY ⏻	STANDBY ⏻	—
POWER I	POWER I	POWER TV (*1)
MULTI	POWER I	MULTI
V-AUX	POWER I	V-AUX
PHONO	POWER I	PHONO
DOCK	POWER I	DOCK
BD HD DVD	POWER I	BD HD DVD
DVD	POWER I	DVD
CD	POWER I	CD
MD CD-R	POWER I	MD CD-R
CBL SAT	POWER I	CBL SAT
TV	POWER I	TV
DVR	POWER I	DVR
VCR	POWER I	VCR
TUNER	POWER I	TUNER (*2)
A	POWER I	A
B	POWER I	B
USB NET	POWER I	USB NET

*1 あらかじめテレビのリモコンコードを設定してください（100 ページ）。
*2 本機をスタンバイにする前に受信していた放送局を選局します。

■ マクロを設定する

１つのキーを押すだけで、連続したキー操作ができるように設定します。マクロを設定する前にリモコンコードを設定するか、ラーニングで他のリモコンの機能を登録してください。

ご注意

- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロを使うことができます。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロを設定すると、すべて新しい内容に変わります。
- 音量の操作など、連続的に出力される信号は、本リモコンでは短時間のコードとして記憶されます。したがって、そのようなキーをマクロ設定に入れることはおすすめしません。

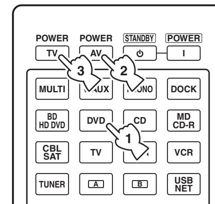
1 ボールペンなどで ⑰SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

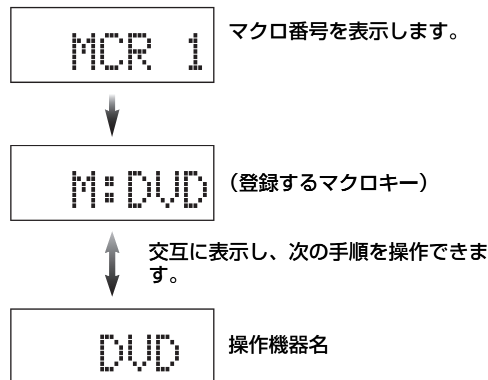
2 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「MACRO」を選び、⑨ENTER キーを押す。

3 設定したいマクロキーを押してから ⑨ENTER キーを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「M: ３文字のマクロキー名」（例「M:DVD」）と、現在選んでいる操作機器名が交互に表示されます。
⑭**STANDBY** キー、または ⑮**POWER** キーを押した場合は、リモコンディスプレイ（④）に「M:STB」、または「M:PWR」と、現在選んでいる操作機器名が交互に表示されます。

4 リモコンキーを押してマクロの内容を設定する。

例
入力ソースを DVD に切り替える→ DVD プレーヤーの電源をオンにする→モニターの電源をオンにする
ステップ１（「MCR1」）: DVD を押す
ステップ２（「MCR2」）: AV POWER を押す
ステップ３（「MCR3」）: TV POWER を押す





ご注意

- 操作機器を変更するには ⑤**SELECT**◁ / ▷ キーを押してください。⑤**SELECT**◁ / ▷ キーは操作機器のみ変更しますが、入力選択キーを押した場合はマクロの手順に組み込まれます。
- 操作機器選択スイッチ（⑯）の位置（AMP、TV、SOURCE）により、一部のキー機能が切り替わります。**AMP**、または **TV** を選んでいるとき、入力選択キー（③）は機能しません。

5 ⑱MACRO キーを押して決定する。
最大 10 種類のキー信号を設定できます。最大まで設定すると「FULL」と表示され、自動的にマクロの設定を終了します。

6 ⑰SETUP ボタンを押して設定を終了する。

ご注意

２つ以上のキーを同時に押すと、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。

応用操作

リモコンを初期化する

ラーニングやマクロ、変更した操作機器名やリモコン ID を初期設定に戻します。

■ 消去モードを選んで初期化する

1 ボールペンなどで ⑰SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

2 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「CLEAR」を選び、⑨ENTER キーを押す。

3 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して消去モードを選ぶ。

消去モード	説明
L:DVD（など）	（「L: ３文字の操作機器名」）表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。入力選択キー (③)、または ⑤SELECT⊲ / ⊳ キーを押して、消去する入力機器を選んでください。
L:AMP	本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。操作機器選択スイッチ (⑯) で AMP を選んでください。
L:TV	TV の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。操作機器選択スイッチ (⑯) で TV を選んでください。
L:ALL	入力機器にかかわらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。
M:DVD（など）	（「M: マクロキー名」）選んだキーのマクロの設定を消去します（105 ページ）。マクロ機能を消去したいマクロキーを選ぶ（「マクロキー名」を切り替える）には、マクロキーを押してください。
M:ALL	マクロの設定をすべて初期設定に戻します。
RNAME	変更した入力ソースの名前をすべて初期設定に戻します。
FCTRY	リモコンコードを含む、すべてのリモコンの設定を初期設定に戻します。

4 ⑨ENTER キーを約３秒間押し続ける。
正しく消去されると、リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されます。

ご注意

- 消去に失敗すると、リモコンディスプレイ（④）に「NG」と表示されます。
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、２つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。

5 ⑰SETUP ボタンを押して設定を終了する。

■ ラーニングした機能を消去する

1 ボールペンなどで ⑰SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

2 ⑨△ / ▽ キーを繰り返し押して「ERASE」を選び、⑨ENTER キーを押す。

3 操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選び、入力選択キー（③）を押す。
アンプ機能の操作キーや TV キーにラーニングした機能を消去する場合は、⑯**AMP**、または⑯**TV** を選んでください。

4 ⑨ENTER キーを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「E-KEY」と表示されます。

5 機能を消去したいキーを約３秒間押し続ける。
正しく消去されると、リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されます。



- 続けて他の機能を消去するには、手順３～５を操作してください。
- ラーニングされた機能を消去すると、キーの機能は工場出荷状態に戻ります（リモコンコードを設定している場合は、設定しているメーカーの機能に戻ります）。

6 ⑰SETUP ボタンを押して設定を終了する。

ご注意

- 消去に失敗すると、リモコンディスプレイ（④）に「NG」と表示されます。
- ２つ以上のキーを同時に押すと、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。

本機の設定を変更する（ADVANCED SETUP）

フロントパネルディスプレイに表示されるメニューを見ながらさまざまな項目を設定します。アドバンストセットアップメニューでは、本機の設定を初期設定に戻したりリモコン ID を変更したりすることができます。お好みに合わせて、設定を変更してください。各項目の初期設定は太字で記載しています。

ご注意

- アドバンストセットアップメニューの操作中は、本体の ⒶMASTER ON/OFF スイッチ、ⓃSTRAIGHT キー、ⓂPROGRAM セレクター以外は機能しません。
- アドバンストセットアップメニューの操作中は他の操作はできません。
- アドバンストセットアップメニューはフロントパネルディスプレイでのみ操作できます。

アドバンストセットアップメニューの操作手順

1 **本体の ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにする。**

2 **ⓃSTRAIGHT キーを押しながらもう一度 ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押す。**
本機の電源がオンになり、アドバンストセットアップメニューがフロントパネルディスプレイに表示されます。



押しながら



3 **ⓂPROGRAM セレクターを回して、設定したいメニューを選ぶ。**

4 **ⓃSTRAIGHT キーを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。**

5 **ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにし、変更した設定を保存する。**



変更した設定は、次回電源を入れたときから有効になります。

■ リモコンセンサー設定　REMOTE SENSOR

フロントパネルのリモコンセンサーを有効にするか無効にするかを設定します。

選択項目	説明
ON	フロントパネルのリモコンセンサーを有効にします。リモコン受光部からリモコン信号を受信できます。通常はこの設定でお使いください。
OFF	フロントパネルのリモコンセンサーを無効にします。リモコン受光部からリモコン信号を受信できません。

ご注意

通常は「ON」に設定することをおすすめします。

■ RS-232C 通信設定　RS232C STANDBY

本機がスタンバイのときに、RS-232C 端子からのデータを受信するか、受信しないかを設定します。

選択項目	説明
YES	RS-232C 端子からのデータを受信します。
NO	RS-232C 端子からのデータを受信しません。

■ リモコン ID 設定　REMOTE CON AMP

本体操作用のリモコン ID をリモコンの操作用コードに合わせて変更します。

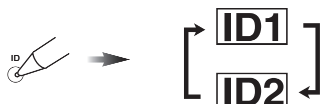
選択項目	説明
ID1	リモコンの操作用コードを「ID1」に設定しているときに選びます。
ID2	リモコンの操作用コードを「ID2」に設定しているときに選びます。

リモコンの操作用コードを設定する

リモコンの操作用コードを設定します。複数のヤマハ製アンプをリモコンを使って操作する場合に、本機とは別のアンプが動作するのを防止します。

ボールペンなどで ⑰ID ボタンを押して ID を切り替える。

⑰ID ボタンを押すごとに、ID インジケーターが以下のように表示されます。



■ バイアンプ設定 BI-AMP

バイアンプ機能を設定します。

選択項目	説明
ON	バイアンプ機能をオンにします。
OFF	バイアンプ機能をオフにします。

ご注意

「BI-AMP」を「ON」に設定すると SURROUND BACK 端子はバイアンプ用として使われるので、サラウンドバックスピーカー接続用としては使えません。また、プレゼンススピーカー端子から音声信号は出力されません。

■ 設定の保存／呼び出し RECOV./BACKUP

本機の設定を保存したり、呼び出したりします。

選択項目	説明
RECOVERY	本機の設定を呼び出します。
BACKUP	本機の現在の設定を保存します。
CANCEL	設定の保存／呼び出しを中止します。

ご注意

- プリセットした FM/AM 放送局や USB デバイス／ネットワークオーディオの音楽ファイル、システムメモリーの内容は保存しません。
- 設定を保存していない場合、「RECOVERY」は選べません。

■ 初期設定に戻す INITIALIZE

変更した設定を初期設定に戻します。初期設定に戻す項目を選んでください。

選択項目	説明
DSP PARAM	すべての音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。
VIDEO	すべての「映像の設定」、および「表示設定」（「ショートメッセージ」、「再生情報表示」を除く）の内容を初期設定に戻します。
NETWORK	すべての「ネットワーク設定」の内容を初期設定に戻します。
ALL	本機のすべての設定を初期設定に戻します。
CANCEL	初期設定に戻しません。



音場プログラムごとに音場パラメーターを初期設定に戻すには、「ステレオ / サラウンド」の「初期化」で設定してください（77 ページ）。

■ MAC フィルター設定 MAC FILTER

ネットワークからの接続を、特定の MAC アドレスのパソコンからに制限するか制限しないかを設定します（96 ページ）。

選択項目	説明
ON	特定の MAC アドレスのパソコンからに制限します。
OFF	MAC アドレスによる制限をしません。



「MAC FILTER」を「ON」に設定した場合に制御できるパソコンの MAC アドレスは Web メニューで設定できます（96 ページ）。

■ 映像信号方式設定 TV FORMAT

テレビの信号方式に合わせて、本機の MONITOR OUT 端子、および HDMI OUT 端子から出力される壁紙の信号方式を切り替えます。

選択項目：**NTSC**、PAL

■ HDMI モニターチェック設定 MONITOR CHECK

本機のモニターチェック機能のオン、オフを設定します。

選択項目	説明
YES	HDMI 接続したモニターが対応している解像度の情報を自動的にチェックします。「解像度」（86 ページ）で、モニターが対応している解像度のみ選べます。
SKIP	「解像度」（86 ページ）のすべての解像度を選べます。

■　表示言語設定　LANGUAGE
モニター画面やフロントパネルディスプレイに表示する文字の言語を設定します。
選択項目：**JAPANESE**（日本語）、FRENCH（フランス語）、GERMAN（ドイツ語）、SPANISH（スペイン語）、RUSSIAN（ロシア語）、ENGLISH（英語）


セットメニューでも表示言語を設定できます（91 ページ）。

ご注意

「JAPANESE」を選んだ場合でもフロントパネルディスプレイには英語で表示されます。

■　ファームウェアの更新　FIRM UPDATE
本機のファームウェアを更新するときに使用します。ファームウェアの更新方法について詳しくはファームウェアと共に提供される情報をご覧ください。

選択項目	説明
USB	USB メモリーを使って本機のファームウェアを更新します。
NETWORK	ネットワークを経由して本機のファームウェアを更新します。


ファームウェアの更新を開始するには、ⓂPROGRAM セレクターを回して「USB」、または「NETWORK」を選び、ⒹMENU キーを押してください。

ご注意

- ファームウェアを更新する必要がない場合は本機能を操作しないでください。
- ファームウェアを更新する前に、ファームウェアと共に提供される情報をご確認ください。

■　ファームウェアのバージョン確認　VERSION
現在本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

応用操作

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

■ 全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう、またはSTANDBY/ONキー（またはPOWERキー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	31
	（再度電源をオンにしたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき）スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	19
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに不具合がある場合があります。	24～30
	入力モードを「HDMI」、または「COAX/OPT」、「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	42
	入力機器からデジタル音声信号を入力しているときに入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」、または「COAX/OPT」に設定してください。	42
	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体の©INPUTセレクターやリモコンの入力選択キー（③）で、再生したい入力ソースを正しく選んでください。	41、42
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	19
	音量が小さい、または消音されている。	音量を大きくしてください。	–
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	21
	接続しているHDMI機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	–

症状	原因	対策	参照ページ
映像が出ない	本機のいずれかのアナログ映像出力端子にモニターを接続し、それとは異なる種類の端子に映像信号を入力している。	「アナログ▶アナログ」を「コンバージョン」に設定する、または本機とモニターの接続と同じ種類の端子を使って接続してください。	86
	1080pアナログ映像信号がCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子からのみ出力されている。	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子にモニターを接続してください。	24
	480p、1080i、720p映像信号はS VIDEO、およびVIDEO MONITOR OUT端子から出力されません。	HDMI OUT、またはCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子にモニターを接続してください。	–
	HDMI OUT端子に接続したモニターが対応していない映像信号を出力している。	「INITIALIZE」で「VIDEO」を選んで映像の設定を初期化してください。	108
		「MONITOR CHECK」を「YES」に設定してください。	108
	ピュアダイレクトモードで再生している。	ピュアダイレクトモードをオフにしてください。	52
		「ピュアダイレクト」を「オーディオ＋ビデオ」に設定してください。	85
	特殊な信号を入力している。		–
ショートメッセージが表示されない	「ショートメッセージ」を「表示しない」に設定している。	「表示する」に設定してください。	89
音声が突然出力されなくなる	スピーカーケーブルのショートなどにより、保護回路が働いた。	スピーカーケーブルの芯線どうしが接触していないか確認し、電源をオンにしてください。	19
	スリープタイマーが作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	44
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに不具合がある場合があります。	14
	スピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	音量のバランスを設定し直してください。	81
センタースピーカーからしか音声が出ない	音場効果をかけてモノラル音声を再生すると、音声信号はすべてセンタースピーカーへ送られるため、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーから音は出ません。		–
センタースピーカーから音声が出ない	「構成」の「センター」を「無」に設定している。	「大」、または「小」に設定してください。	80
プレゼンススピーカーから音声が出ない	ストレートデコードモードで再生している。	ⓃSTRAIGHTキーを押してストレートデコードモードをオフにしてください。	51
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	41
サラウンドスピーカーから音声が出ない	「構成」の「サラウンド」を「無」に設定している。	「大」、または「小」に設定してください。	80
	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	ⓃSTRAIGHTキーを押してストレートデコードモードをオフにしてください。	51
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	41

症状	原因	対策	参照ページ
サブウーファーから音声が出ない	「構成」の「低音出力先」を「フロントのみ」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号を再生している。	「サブウーファーのみ」、または「フロントとサブウーファー」に設定してください。	80
	「構成」の「低音出力先」を「サブウーファーのみ」、または「フロントのみ」に設定したまま、2 チャンネル信号を再生している。	「フロントとサブウーファー」に設定してください。	80
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		–
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	「構成」の「サラウンドバック」を「無」に設定している。	「サラウンド」が「大」、または「小」に設定されていることを確認し、「サラウンドバック」を正しく設定してください。	80
	CINEMA DSP 3D モードで再生しているときはサラウンドバックスピーカーから音声は出ません。		–
聴きたいデジタル音声フォーマットで音声が再生されない（フロントパネルディスプレイの入力ソースインジケーターやデコーダーインジケーターが点灯しない）	再生機器側で、聴きたいデジタル音声フォーマットが出力されない設定になっている。	再生機器の取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	–
	入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	42
ハム音が出る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題がないときはケーブルに不具合がある場合があります。	–
	レコードプレーヤーの GND がしっかり接続されていない。	GND の接続を確認してください。	27
レコードを再生している場合に音量が小さい	低出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーで再生している。	昇圧トランスまたは MC ヘッドアンプを使用して本機に接続してください。	27
音量を上げられない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	–
録音／録画機器で録音／録画できない	MULTI CH INPUT 端子に接続した機器の音声を録音できない。		–
	再生している機器の入力信号は同じ機器で録音／録画できません（例：DVR IN 端子から DVR OUT 端子）。	再生機器を接続している端子とは異なる機器用の端子に録音／録画機器を接続してください。	25
	DTS 信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS 信号をデジタル録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。	DTS-CD または DTS DVD の音声をデジタル録音したものを再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。DTS-CD の音声を録音する場合は、DTS デコーダー内蔵の DVD プレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。	25
本機のデジタル出力端子に接続した録音機器で録音ができない	再生機器が本機のデジタル入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のデジタル入力端子に接続してください。	25
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTS および AAC などのデジタルデータを録音できません。		–
	DOCK 端子から入力した音声信号をデジタル音声出力端子に接続した録音機器で録音している。	録音機器をアナログ音声出力端子（DVR、または VCR、MD-CD-R）に接続してください。	25
本機のアナログ音声出力端子に接続した録音機器で録音できない	再生機器が本機のアナログ入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のアナログ入力端子に接続してください。	25

症状	原因	対策	参照ページ
録音された音声を再生したときに、録音したときの音声と異なっている	本機の設定（音質や音量、音場プログラムなど）は録音する音声に反映されません。		–
音場パラメーターやセットメニューの設定を変更できない	「設定の保護」を「する」に設定している。	「しない」に設定してください。	89
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	–
フロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示される	スピーカーケーブルがショートしている。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	19
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	–
映像が乱れる	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		–
使用中に突然電源がスタンバイになる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路により電源が切れた。	温度が下がるのを待って（1 時間程度）、電源を入れ直してください。	–

■ HDMI

症状	原因	対策	参照ページ
音声や映像が出ない	制限台数を超えるHDMI機器を接続している。	接続しているHDMI機器の数を減らしてください。	–
	接続しているHDMI機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	–

■ FM/AM放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
FM	**ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい**	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	30
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			モノラルで受信してください。	53
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	–
	自動で選局できない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			手動選局、または周波数ダイレクト選局をしてください。	53
	プリセットした放送局を受信できない	本機の電源プラグを長期間コンセントから抜いていたため、メモリーが消去された。	もう一度放送局をプリセットしてください。	54
AM	**自動で選局できない**	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	30
			手動で選局してください。	53
	オートプリセットができない	AM放送局はオートプリセットができません。	マニュアルプリセットをしてください。	54
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	30
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	–

■ リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機をリモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、30°以内の範囲で操作してください。	33
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）があたっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	9
	乾電池の消耗が早い。	アルカリ乾電池を使うことをおすすめします。	–
		バックライトの設定を「OFF」にしてください。	100
	操作機器選択スイッチの位置が正しくない。	正しい位置にセットしてください。本機を操作するときは⑯**AMP**にセットしてください。入力選択キーで選んだ機器を操作するときは⑯**SOURCE**にセットしてください。テレビを操作するときは⑯**TV**にセットしてください。	–
	リモコンコードが正しく設定されていない。	巻末の「リモコンコード一覧」をご覧になり、正しく設定してください。	140
		巻末の「リモコンコード一覧」をご覧になり、同じメーカーの別のコードを設定してください。	140
	リモコンの操作用コードと本体操作用リモコンIDが一致していない。	コードまたはリモコンIDの設定を変えてください。	107
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	ラーニング機能を使って、お使いの機器のリモコン機能を本機のリモコンに記憶してください。	102
リモコンが新しい機能を記憶（ラーニング）しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの乾電池が消耗している。	乾電池を交換してください。	9
	２台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	２台のリモコンを５～10cmの距離に配置してください。	102
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	記憶（ラーニング）はできません。	–
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去してください。	106

■ USB ／ネットワークオーディオ

症状	原因	対策	参照ページ
USB デバイスを接続しているが、「No Device」と表示される	本機が USB デバイスを不正と認識している。	一度本機の電源をオフにしたのち、再びオンにしてください。	31
USB デバイスの音楽ファイルやディレクトリがブラウズできない	音楽ファイルやディレクトリが FAT 領域以外の場所に保存されている。	音楽ファイルやディレクトリを FAT 領域に保存してください。	–
	８階層を超えるディレクトリ、または１つのディレクトリにつき５００を超えるディレクトリ／ファイルはブラウズできません。	USB デバイス内のデータ構造を変更してください。	–
パソコンやインターネットラジオが正しく動作しない	IP アドレスが正しく設定されていない。	ルーターの DHCP 機能をオンにするか、ネットワーク環境に合わせて設定を手動で変更してください。	88
	LAN ケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	29
パソコンの音楽ファイルが再生できない	パソコンに Windows Media Player 11、または Windows Media Connect 2.0 がインストールされていない。	パソコンに Windows Media Player 11、または Windows Media Connect 2.0 をインストールしてください。	–
	音楽ファイルが WMA、MP3、MPEG-4 AAC、WAV（PCM のみ）以外のフォーマットで記録されている。	本機が対応しているフォーマットで記録されている音楽ファイルを再生してください。	–
インターネットラジオが再生できない	ネットワーク機器のファイアウォールがはたらいている。	ファイアウォールの設定を確認してください。	–
	インターネットの接続が切断されている。	ネットワーク機器の設定が正しいことを確認し、必要に応じてネットワーク接続業者にお問い合わせください。	–
ショートカットキーを押すと、登録していない曲が呼び出される	ショートカットを登録したときとは違う USB デバイスを接続している。	ショートカットを登録した USB デバイスを接続してください。	63
	ショートカットを登録した音楽ファイルを別の場所に移動した。	ショートカットを再登録してください。	63
ショートカットキーを押しても登録した曲やインターネットラジオ放送局が呼び出されない	USB デバイスがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	29
	パソコンの電源がオフになっている。	電源をオンにしてください。	–
	放送局に一時的にアクセスできない、または放送を停止した。	しばらく待ってからもう一度お試しください。	64
		他の放送局を登録してください。	63

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Connect error	ホームネットワークと本機の通信に異常があります。	本機とルーター／ハブとの接続を確認してください。	29
		ルーターがしっかり接続され、電源がオンになっているか確認してください。また、インターネットラジオ放送を聴く場合はモデムがしっかり接続され、電源がオンになっているか確認してください。	29
Disconnected	USB デバイスが取りはずされました。	USB デバイスが正しく接続されているか確認してください。	–
	接続していたパソコンが取り外されました。	再度パソコンに接続してください。	29
No Device	USB デバイスとの通信に異常があります。	本機の電源をオフにしてから USB デバイスを接続し直してください。	29
		USB デバイスを再セットアップしてください。	–
Access error	USB デバイスにアクセスできません。	別の USB デバイスをお試しください。USB デバイスを再セットアップしてください。	–
	USB デバイスとの通信に異常があります。	本機の電源をオフにしてから USB デバイスを接続し直してください。	29
		USB デバイスを再セットアップしてください。	–
Unable to play	パソコンに保存されている音楽ファイルを再生できません。	パソコンに Windows Media Player 11、または Windows Media Connect 2.0 がインストールされているか確認してください。	–
		本機が対応しているフォーマット（WMA、MP3、MPEG-4 AAC、WAV）で記録されている音楽ファイルであることを確認してください。	–
		本機が対応しているフォーマット（WMA、MP3、MPEG-4 AAC、WAV）で記録されている音楽ファイルをパソコンに保存してください。	–
	ネットワークが混雑しているため再生できません。	本機専用のネットワークを構築して、ネットワークのトラフィックから本機を切り離してください。	–
List updated	パソコンに保存された音楽ファイルのリストが更新されました。		–
Bookmark ON	お気に入りのラジオ放送局がブックマークに登録されました。		–
Bookmark OFF	お気に入りのラジオ放送局がブックマークから削除されました。		–
Empty Memory!	曲がショートカットに登録されていません。	ショートカットを登録してください。	63
Not found!	ショートカット先が見つかりません。	ショートカットを登録した USB デバイスを接続してください。	–
		パソコンの電源をオンにしてください。	–
		ショートカットを登録したインターネットラジオが放送している時間にもう一度試してください。	64
		ショートカットを再登録してください。	63
USB Overloaded	USB デバイスに過電流が流れました。	本機の電源をオフにしてから USB デバイスを接続し直してください。再度メッセージが表示される場合、接続している USB デバイスは本機で使用できません。	–

■ iPod

ご注意

フロントパネルディスプレイやモニター画面に下記のメッセージが表示されない場合は、iPod の接続をご確認ください（28 ページ）。

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Loading...	iPodとの接続を確認中です。		–
	iPodから情報を取得中です。		
Connect error	iPodとの通信に問題が発生しています。	本機の電源をオフにし、ヤマハ製iPod用ドックを接続し直してください。	28
		iPodをヤマハ製iPod用ドックにセットし直してください。	–
Unknown iPod	本機に対応していない種類のiPodが接続されています。	本機はiPod touch、iPod（iPod classicを含むクリックホイール）、iPod nano、iPod miniに対応しています。	–
iPod Connected	iPodがヤマハ製iPod用ドックに正しく接続されました。		–
iPod Disconnected	iPodがヤマハ製iPod用ドックから取り外されました。	iPodをヤマハ製iPod用ドックに接続してください。	28
Unable to play	何らかの原因で再生できません。	iPodに保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	–
		再生可能な曲をiPodに保存してください。	–

■ Bluetooth®

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth機器がペアリングしています。		–
	ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth機器が接続を確立しています。		
Completed	ペアリングが完了しました。		
Canceled	ペアリングが中止されました。		
BT Connected	ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth機器の接続が確立しました。		
BT Disconnected	ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth機器の接続が切断されました。		

■ 自動測定

測定開始時の表示

メッセージ	内容	対策	参照ページ
マイク接続確認	オプティマイザーマイクが接続されていません。	オプティマイザーマイクをフロントパネルのOPTIMIZER MIC端子に接続してください。	35
HPを抜いて下さい	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを取り外してください。	–
測定項目　未選択	測定する項目が選ばれていません。	測定する項目を選んでください。	36
保護されています	本機の設定が保護されています。	「設定の保護」を「しない」に設定してください。	89

測定中の表示

エラーメッセージ	原因	対策	参照ページ
E01: フロントSP	フロント左／右チャンネル信号が検出されませんでした。	フロント左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	17
E02: サラウンドSP	サラウンド左／右チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	サラウンド左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	17
E03:Fプレゼンス SP	プレゼンス左／右チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	プレゼンス左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	17
E04:SBR→SBL	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、R側のサラウンドバックチャンネル成分のみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続する場合は、L側（SINGLE）の端子に接続してください。	18
E05: 雑音大	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな時間帯に測定をやり直してみてください。	–
		エアコンなど、騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、オプティマイザーマイクから遠ざけてみてください。	–
E06: サラウンド確認	サラウンド左／右スピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンド左／右スピーカーを接続する必要があります。	17
E07: マイク未接続	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	測定中はオプティマイザーマイクに触れないようご注意ください。	35
E08: 信号入力無し	オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。	35
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。	17
		オプティマイザーマイク、またはOPTIMIZER MIC端子が壊れている可能性があります。お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響サービス拠点にお問い合わせください。	–
E09: 測定キャンセル	何らかの操作をしたため、測定が中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。	35
E10: 内部エラー	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。	35

測定開始時の表示

警告メッセージ	原因	対策	参照ページ
W1:SP 接続逆相	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、このメッセージが表示されます。	スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。正しく接続されている場合は、このメッセージが表示されても正常に使用できます。	17
W2: 距離補正限界	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が24mよりも離れているため、正確に補正できません。	視聴位置の 24m 以内にスピーカーを移動してください。	－
W3: 音量補正限界	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、正確に補正できません。	スピーカーの設置位置を再度確認して、すべてのスピーカーが同等の環境下に設置されているか確認してください。	－
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。	17
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。	－
		サブウーファーの音量を調節してください。	35
W4:SP の不一致	「構成」の設定と「結線の確認」の設定が異なっています。	「構成」で、スピーカー構成を手動で設定してください。	79
	「結線の確認」を実行しなかった。	「構成」で、スピーカー構成を手動で設定してください。	79

ご注意

- エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合、発生している問題を解決してから自動測定をやり直してください。
- 「W2」、または「W3」が表示された場合、補正はされますが、最適ではありません。
- スピーカーの種類により、スピーカーが正しく接続されていても「W1」が表示されることがあります。
- 「E10」が繰り返し表示される場合は、ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

すべての設定を初期設定に戻す

変更したセットメニューの設定や音場パラメーター、プリセットした FM ／ AM 放送局などをすべて初期設定に戻します。

ご注意

- セットメニューを含む本機のすべての設定が初期化されます。
- 変更した設定は、次回電源を入れたときから有効になります。

初期化操作を中止するにはフロントパネルの ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにしてください。

1 ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにする。

2 ⓃSTRAIGHTキーを押しながらⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオンにする。

本機の電源がオンになり、フロントパネルディスプレイにアドバンストセットアップメニューが表示されます。



3 ⓂPROGRAM セレクターを回して「INITIALIZE」を選ぶ。

```
INITIALIZE
       CANCEL
```

4 ⓃSTRAIGHT キーを繰り返し押して「ALL」を選ぶ。

```
INITIALIZE
        ALL
```

初期設定に戻さない場合は「CANCEL」を選んでください。

5 ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにする。

すべての設定が初期設定に戻ります。

その他の情報

フロントパネルキーと機能モード

フロントパネルキーを操作して、各機能モードに入ります。各モードでは、以下のフロントパネルキーで各モードを操作できます。各モードで５秒以上操作しなかった場合、本機は自動的に初期モードに戻ります。

キー操作	機能モード
–	初期モード
ⒹAUDIO SELECT/REC OUTキーを押す	入力モード
ⒹAUDIO SELECT/REC OUTキーを長押しする	録音／録画モード
ⒹMENU キーを押す	セットメニューモード
ⒹTONE CONTROL キーを押す	トーンコントロール／スピーカー音量モード
ⒺENTER キーを長押しする	Bluetooth ペアリングモード

各モードの操作

機能モード	Ⓓ AUDIO SELECT/ REC OUT	ⒹMENU	ⒹTONE CONTROL	ⒺENTER	ⓂPROGRAM セレクター
初期モード	入力モードへ	セットメニューモードへ	トーンコントロール／スピーカー音量モードへ	–	音場プログラム選択（45 ページ）
入力モード	初期モードへ	セットメニューモードへ	トーンコントロール／スピーカー音量モードへ	–	音声入力端子選択（42 ページ）
録音／録画モード	初期モードへ	セットメニューモードへ	トーンコントロール／スピーカー音量モードへ	–	録音／録画ソース選択（52 ページ）
セットメニューモード	カーソル左	初期モードへ	カーソル右	メニュー決定（71 ページ）	メニュー移動
トーンコントロール／スピーカー音量モード	入力モードへ	セットメニューモードへ	調節パラメーター選択（52 ページ）	調節スピーカー選択（52 ページ）	パラメーター調節
Bluetooth ペアリングモード*	–	セットメニューモードへ（ペアリングモード継続）	–	初期モードへ（ペアリングモード継続）	音場プログラム選択（45 ページ）

ご注意

* Bluetooth ペアリングモードでは、本機は接続先となる Bluetooth 機器を検索します。このモードは「DOCK」を入力選択し、本機の DOCK 端子にヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）を接続しているときに操作できます。

用語／技術解説

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB／CB信号（青色差信号）およびPR／CR信号（赤色差信号）の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、またはD端子のあるモニター（テレビ）を本機に接続してください。

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号を1つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ ディープカラー

HDMI 1.3がサポートしている映像技術です。RGBまたはYCbCr信号の処理を、従来の8ビットに対して10／12／16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロント左／右チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル（フロント左／右、センター）と、サラウンド2チャンネル（サラウンド左／右）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から5.1チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1／7.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンド左とサラウンド右チャンネルから作られます）。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

■ ドルビーデジタルプラス

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスクやデジタルテレビ放送向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用、HD DVDでは標準採用され、最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート6Mbpsで収録可能です。従来のドルビーデジタルと互換性があるため、ドルビーデジタル対応の機器でも再生できます。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ ドルビープロロジックIIx

ドルビープロロジックの技術です。2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード（2チャンネル信号入力時のみ）、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

■ ドルビー TrueHD

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用、HD DVDでは標準採用され、96kHz／24bit時には最大8チャンネル、192kHz／24bit時には最大6チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート18Mbpsで収録可能です。従来のドルビーデジタルと互換性があるため、ドルビーデジタル対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ バイアンプ

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して接続することにより、逆起電力による音の純度低下を抑え、よりクリアな音声を楽しめます。

■ リップシンク（Lip sync）

HDMI 1.3がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動的に補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動的に検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■ AAC
（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の一つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ D端子

AV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報）を、1本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD5ビデオ端子が装備されており、D1からD5の規格に対応しています。

■ DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SA-CD（スーパーオーディオCD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数2822.4kHzで記録することにより、CDなどで使われているPCMよりも高音質で再生できます。周波数は100kHz以上、ダイナミックレンジは120dBです。

■ DTS 96／24

DTS 96／24はDVDビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来のDTSデコーダーとも互換性があるため、DTS 96／24に対応していない機器では、通常のDTSサラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の96kHz（従来の48kHzから倍増）、「24」は量子化ビット数24ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVDビデオの音楽や映画音声を5.1チャンネルで楽しむことができます。

■ DTSデジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル（フロント左／右、センター、サラウンド左／右チャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル）で構成されています。

■ DTS-ES
本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンド左／右チャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の２つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

■ DTS Express
ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワーク・ストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。ブルーレイディスクではセカンダリーオーディオ、HD DVDではサブオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

■ DTS-HDハイレゾリューションオーディオ
ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクおよびHD DVDでオプション採用され、96kHz／24bitで最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは最大転送レート6Mbps、HD DVDでは最大3Mbpsで収録可能です。従来のDTSデジタルサラウンドと互換性があるため、DTSデジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

■ DTS-HDマスターオーディオ
ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクおよびHD DVDで標準採用され、96kHz／24bitで最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは最大転送レート24.5Mbps、HD DVDでは最大18Mbpsで収録可能です。従来のDTSデジタルサラウンドと互換性があるため、DTSデジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ DTS Neo:6
２チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた６チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

■ HDMI
世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、１本のケーブルで伝送できます。

■ LFE（低域効果音）0.1チャンネル
音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の５チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

■ PCM（リニアPCM）
MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

■ Sビデオ信号
映像信号を、輝度を表すＹ信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。Sビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

■ SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ)
SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ) は、6.1チャンネルマトリクス処理を行う高性能デコーディングシステムです。オリジナルのSRS Circle Surroundシステムの次の世代を担うこの技術により、セリフをより明瞭に再生したり、フロントチャンネルとサブウーファーから映画館さながらの低音を再生したりすることができます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。

■ MP3

MPEGで利用される音声圧縮方式の一つです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽CD並の音質を保ったままデータ量を約1／10に圧縮できると言われています。

■ MPEG-4 AAC

MPEG-4オーディオ規格の1つで、MPEG-2 AACより低いビットレートでデータを圧縮できることから、携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高品質が求められる機器にも利用されています。
また、上記の機器以外にもインターネット上のコンテンツ配信など、パソコンやメディアサーバーなどでも多く利用されている規格です。

■ WAV

Windows標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は非圧縮（PCM）のデータが使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

■ WMA（Windows Media Audio）

Microsoft社が開発した音声圧縮方式です。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽CD並の音質を保ったまま約1／20に圧縮できると言われています。

■ "x.v.Color"

HDMI 1.3がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画やCGで高い効果が得られます。

音場プログラム解説

■ 音場を構成する要素

直接音
楽器やボーカルなどの、音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

初期反射音
壁や天井などに１回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50ms（50／1000秒）から80ms（80／1000秒）くらいあとに耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音
壁や天井、部屋の後部などに２回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させせます。

直接音、初期反射音、後部残響音が一つになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。

また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームの音響効果をコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂など、さまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

■ コンプレストミュージック・エンハンサーモード

MP3やAACなど、ポータブルオーディオプレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ バーチャルシネマDSP

サラウンド左／右スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド左／右スピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント左／右スピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

■ CINEMA DSP 3D

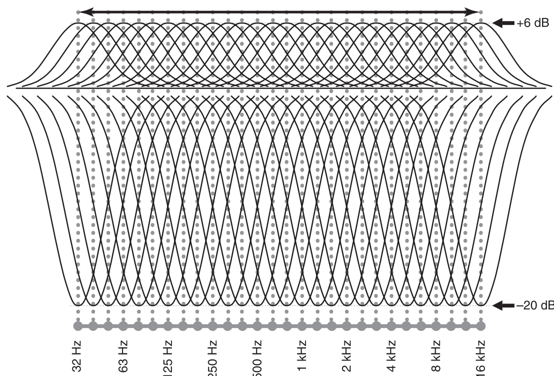
音場の高さ方向の情報を含んだ、実際に測定された音場データです。CINEMA DSP 3Dモードでは、より緻密で立体的な３Ｄ感覚の音場をリスニングルームに再現します。

パラメトリックイコライザーについて

本機に搭載の視聴環境最適化システム「YPAO」（Yamaha Parametric Room　Acoustic Optimizer）では、パラメトリックイコライザーを使用して周波数特性を補正しています。周波数、レベル、Q ファクターの３つのパラメーターを組み合わせて、より精度の高い周波数特性の補正を行っています。

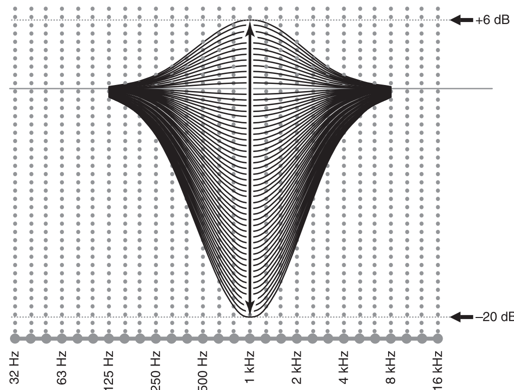
■　周波数

１／３オクターブごとに、32Hz から 16kHz のあいだで可変させられます。



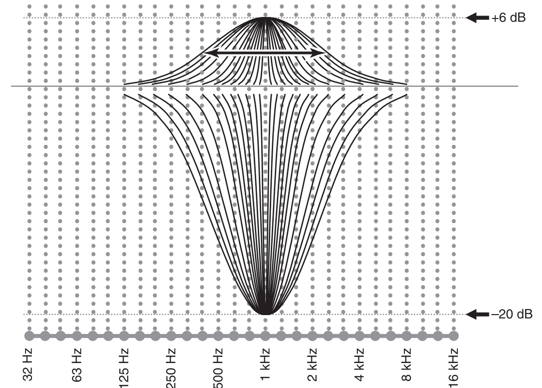
■　レベル

0.5dBごとに、−20dBから＋6dBのあいだで可変させられます。



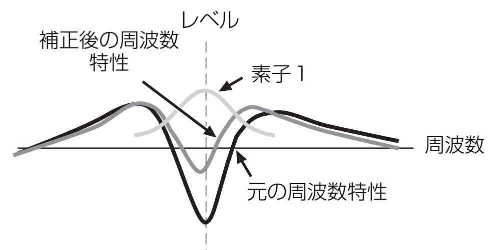
■　Q ファクター

Q ファクターとは指定された周波数帯域の帯域幅ことです。0.5 から 10 のあいだで可変させられます。

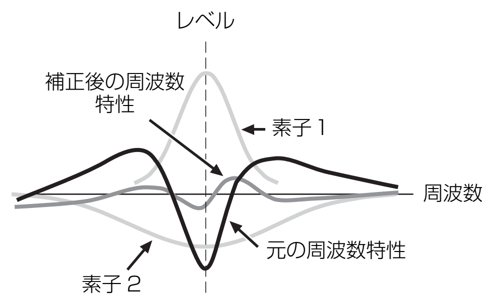


３つのパラメーター（周波数、レベル、Q ファクター）を組み合わせて設定できるイコライザー素子により、周波数特性を最適に補正します。本機はこのイコライザー素子を１チャンネルにつき７個持っています。
複数のイコライザー素子を使うことで、１個のイコライザー素子では補正しきれない周波数特性（図１）も、最適に補正できます（図２）。

（図１）



（図２）



主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、20Hz ～ 20kHz、0.06% THD）
　フロント左／右 ....140W ＋ 140W
　センター 140W
　サラウンド左／右......................140W ＋ 140W
　サラウンドバック左／右..........140W ＋ 140W
実用最大出力（JEITA、6Ω、1kHz、10% THD）
　フロント左／右 ....185W ＋ 185W
　センター 185W
　サラウンド左／右......................185W ＋ 185W
　サラウンドバック左／右..........185W ＋ 185W
ダンピングファクター
（1kHz、8Ω）
　フロント左／右 .... 150 以上
入力感度／入力インピーダンス
（1kHz、100W ／ 8Ω 換算）
　PHONO（MM）........................3.5mV ／ 47kΩ
　CD 他......................................200mV ／ 47kΩ
　MULTI CH INPUT ....200mV ／ 47kΩ
最大許容入力（1kHz）
　PHONO（MM、0.1% THD）.........60mV 以上
　CD 他（0.5% THD）
　.. 2.4V 以上
出力電圧／出力インピーダンス
　REC OUT..............................200mV ／ 900Ω
　PRE OUT..................................... 1V ／ 500kΩ
　SUBWOOFER .... 1V ／ 1.2kΩ
ヘッドホン出力／出力インピーダンス
　CD 他（1kHz、40mV 入力、8Ω）
　..150mV ／ 100Ω
周波数特性
　CD他（フロント左／右、ピュアダイレクト、
　10Hz～100kHz)...............................0／－3dB
全高調波歪率
　PHONO（MM、REC OUT、20Hz ～ 20kHz、
　1V）.. 0.02% 以下
　CD 他（フロント SP OUT、20Hz ～ 20kHz、
　70W ／ 8Ω）.................................. 0.04% 以下
S ／ N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
　PHONO（MM、2.5mV、SP OUT）
　..80dB 以上
　CD 他（250mV、SP OUT).........100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
　フロント左／右、SP OUT .... 150 μV 以下
チャンネルセパレーション
（入力ショート、1kHz ／ 10kHz）
　PHONO.......................60dB 以上／ 55dB 以上
　CD 他（5.1kΩ）.........60dB 以上／ 45dB 以上
音量可変範囲／ステップ
.........................MUTE／－80.0dB～＋16.5dB／
0.5dB ステップ

トーンコントロール特性
　BASS（可変幅）.......................... ±6dB／50Hz
　BASS（ターンオーバー周波数）............. 350Hz
　TREBLE（可変幅）.................... ±6dB／20kHz
　TREBLE（ターンオーバー周波数）.........3.5kHz
フィルター特性（fc ＝ 40 ／ 60 ／ 80 ／ 90 ／
100 ／ 110 ／ 120 ／ 160 ／ 200Hz）
　H.P.F（フロント、センター、サラウンド、
　サラウンドバック　小)................. 12dB ／ oct.
　L.P.F（サブウーファー)............... 24dB ／ oct.

ビデオ部

ビデオ信号方式
　壁紙（モニターアウト).....................NTSC/PAL
　ビデオコンバージョン......................NTSC/PAL
コンポジットビデオ信号レベル..... 1Vp-p ／ 75Ω
S ビデオ信号レベル
　Y .... 1Vp-p ／ 75Ω
　C .... 0.286 または 0.3Vp-p ／ 75Ω
コンポーネントビデオ信号レベル
　Y .... 1Vp-p ／ 75Ω
　P_B、P_R.....................................0.7Vp-p ／ 75Ω
D5 ビデオ信号レベル
　Y .... 1Vp-p ／ 75Ω
　P_B、P_R.....................................0.7Vp-p ／ 75Ω
ビデオ最大許容入力
（ビデオコンバージョン　オフ)........ 1.5Vp-p 以上
S ／ N 比
（ビデオコンバージョン　オフ)............60dB 以上
モニターアウト周波数帯域
（ビデオコンバージョン　オフ）
　コンポーネントビデオ、D5 ビデオ
　...................................5Hz～100MHz、±3dB

FM チューナー部

受信周波数範囲.................76.0MHz ～ 90.0MHz
50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
　モノ..2.0 μV（17.3dBf）
　ステレオ................................25 μV（39.2dBf）
実用感度（IHF）
　モノ..1 μV（11.2dBf）
選択度（400kHz)..70dB
S ／ N 比（IHF）
　モノ／ステレオ ....76dB ／ 70dB
歪率（1kHz）
　モノ／ステレオ ....0.2%／ 0.3%
ステレオセパレーション.................................42dB
周波数特性（20Hz ～ 15kHz). ＋ 0.5 ／－ 2 dB
アンテナ入力.......................... 75Ω、アンバランス

AM チューナー部

受信周波数.......................... 531kHz ～ 1611kHz
実用感度...300 μV ／ m

その他の情報

総合

電源電圧 .... AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力 400W
待機時消費電力 .... 0.1W 以下
AC アウトレット（電源スイッチ連動× 2）
.... 合計 100W
寸法（幅×高さ×奥行き）
.... 435 × 181 × 438.5mm
質量 18.8kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。



音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A

B

C

D

E

F

その他の情報

V

W

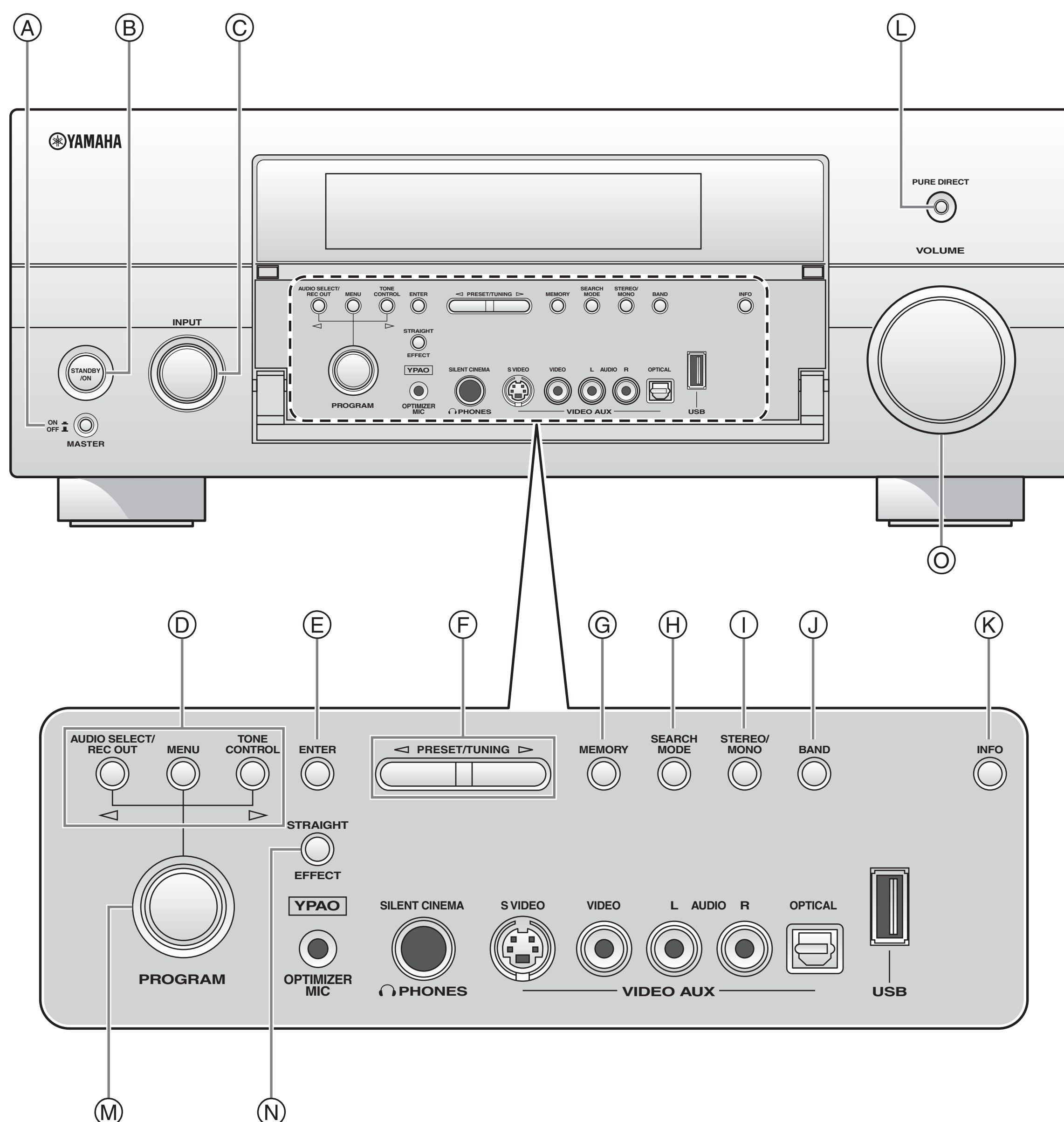
Y

数字

「ⒶMASTER ON ／ OFF」や「③DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または本書巻末をご覧ください。

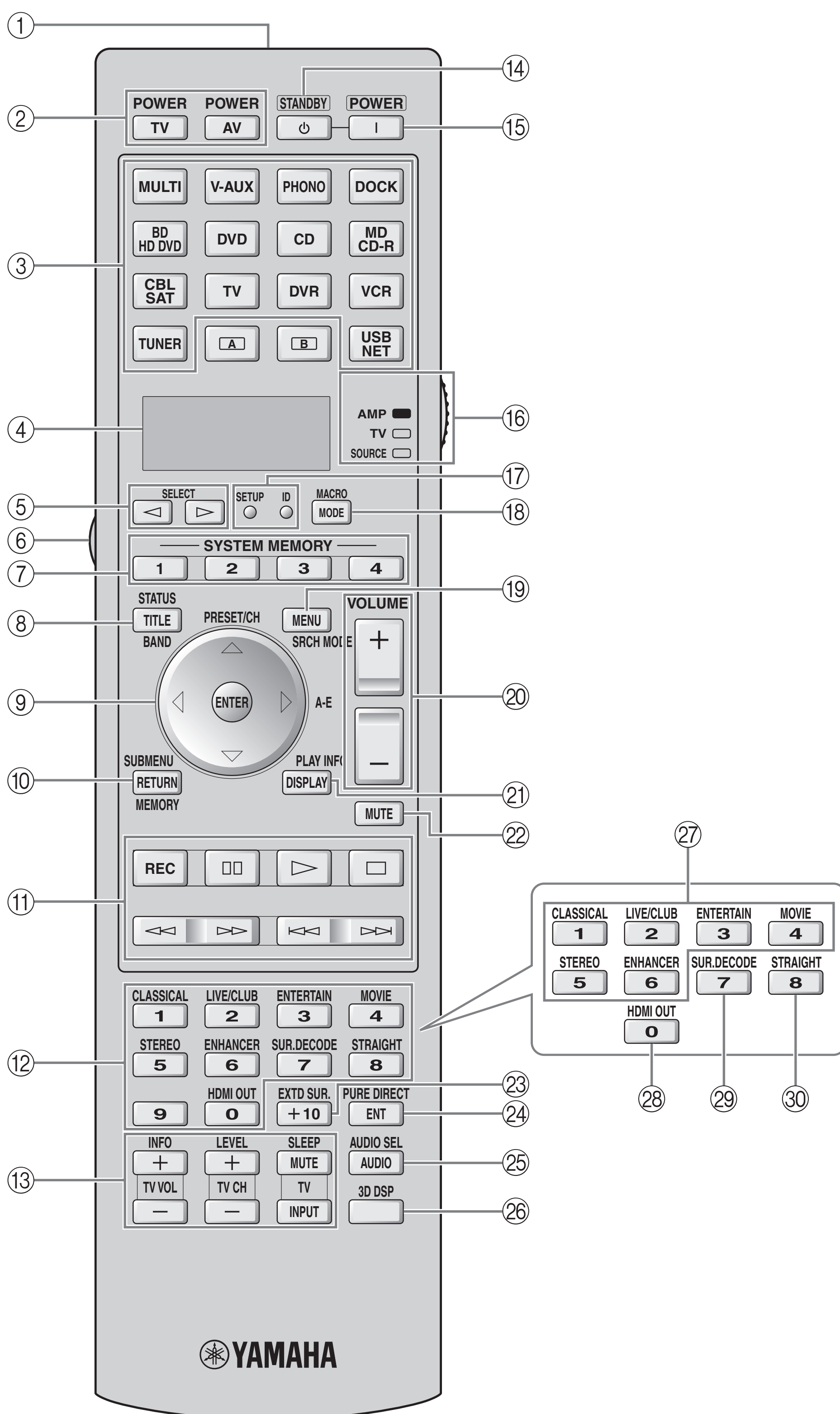
その他の情報

■ フロントパネル



A
B
C
L
YAMAHA
PURE DIRECT
VOLUME
INPUT
STANDBY /ON
ON
OFF
MASTER
PROGRAM
O
D
E
F
G
H
I
J
K
AUDIO SELECT/ REC OUT
MENU
TONE CONTROL
ENTER
PRESET/TUNING
MEMORY
SEARCH MODE
STEREO/ MONO
BAND
INFO
STRAIGHT
EFFECT
YPAO
OPTIMIZER MIC
SILENT CINEMA
PHONES
S VIDEO
VIDEO
L AUDIO R
OPTICAL
VIDEO AUX
USB
PROGRAM
M
N

■ リモコン



POWER TV
POWER AV
STANDBY
POWER
MULTI
V-AUX
PHONO
DOCK
BD HD DVD
DVD
CD
MD CD-R
CBL SAT
TV
DVR
VCR
TUNER
A
B
USB NET
AMP
TV
SOURCE
SELECT
SETUP
ID
MACRO MODE
SYSTEM MEMORY
1 2 3 4
STATUS
TITLE
BAND
PRESET/CH
MENU
SRCH MODE
VOLUME
ENTER
A-E
SUBMENU
RETURN
MEMORY
PLAY INFO
DISPLAY
MUTE
REC
CLASSICAL 1
LIVE/CLUB 2
ENTERTAIN 3
MOVIE 4
STEREO 5
ENHANCER 6
SUR.DECODE 7
STRAIGHT 8
9
HDMI OUT 0
EXTD SUR. +10
PURE DIRECT ENT
INFO
LEVEL
SLEEP MUTE
AUDIO SEL AUDIO
TV VOL
TV CH
TV INPUT
3D DSP
YAMAHA

付録

入力信号と再生スピーカー対応表

L フロント左スピーカー	SL サラウンド左スピーカー	SBR サラウンドバック右スピーカー
C センタースピーカー	SR サラウンド右スピーカー	PL プレゼンス左スピーカー
R フロント右スピーカー	SBL サラウンドバック左スピーカー	PR プレゼンス右スピーカー

音が出るスピーカー　　音が出ないスピーカー

	スピーカー設置図 7 チャンネル構成	スピーカー設置図 5 チャンネル構成
①	PL PR C L R SL SR SBL SBR	C L R SL SR
②	PL PR C L R SL SR SBL SBR	C L R SL SR
③	PL PR C L R SL SR SBL SBR	C L R SL SR
④	PL PR C L R SL SR SBL SBR	C L R SL SR
⑤	PL PR C L R SL SR SBL SBR	C L R SL SR
⑥	PL PR C L R SL SR SBL SBR	C L R SL SR
⑦	PL PR C L R SL SR SBL SBR	C L R SL SR
⑧	PL PR C L R SL SR SBL SBR	C L R SL SR

*1 DD EX ／ DD PLIIx ／ dts ES：消灯時
*2 DD EX ／ DD PLIIx ／ dts ES：点灯時または 6.1 ／ 7.1 チャンネル信号入力時

音場プログラム	3D	入力信号 2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1 チャンネル音声 *1	6.1 ／ 7.1 チャンネル音声 *2
CLASSICAL Hall in Munich Hall in Vienna Hall in Amsterdam Church in Freiburg Chamber LIVE/CLUB Village Vanguard Warehouse Loft Cellar Club The Roxy Theatre The Bottom Line	ON	①	①	②	②
	OFF	①	①	②	④

音場プログラム	3D	入力信号			
		2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1 チャンネル音声 *1	6.1 ／ 7.1 チャンネル音声 *2
ENTERTAINMENT Sports Action Game Roleplaying Game Music Video Recital/Opera MOVIE Standard Spectacle Sci-Fi Adventure Drama	ON	②	②	②	②
	OFF	⑦	④	②	④
MOVIE Mono Movie	ON	②	②	②	②
	OFF	③	②	②	④
STEREO 2ch Stereo	–	⑤	⑤	⑤	⑤
STEREO 7ch Stereo MUSIC ENHANCER 7ch Enhancer	–	④	④	④	④
SUR.DECODE Surround Decoder (Pro Logic) (PLII Movie) (PLII Game)	–	⑥	⑦	⑦	④
SUR.DECODE Surround Decoder (PLII Music)	–	⑧	⑦	⑦	④
SUR.DECODE Surround Decoder (PLIIx Movie) (PLIIx Game) (Neo:6 Cinema) (CSII Cinema)	–	⑥	④	⑦	④
SUR.DECODE Surround Decoder (PLIIx Music) (Neo:6 Music) (CSII Music)	–	⑧	④	⑦	④
STRAIGHT PURE DIRECT MUSIC ENHANCER Straight Enhancer	–	⑤	⑤	⑦	④

付録

リモコンコード一覧

テレビ

BYDESIGN	14301、14401、14501、14601
EPSON	11001
FUJITSU	08701、10401
FUNAI	02501、02701、03701
HITACHI	00101、00301、01201、01501、01701、01801、02201、02601、03001、04501、06101、06901、07301、11701、12101
LG	00301、00401、00901、01601、02601、09001
MITSUBISHI	00301、01301、01601、01901、02001、02601、02701、03101、03401、06701、11201、11901
NEC	00101、00301、00601、02001、02101、02401、02601、05701、06501、13201
ORION	00401、03101、04101、05801、06801
PANASONIC	00401、00601、00801、02201、03401、08301、12401
PHILIPS	00001、00301、00401、00601、00801、01201、01601、02601、04901、07001、08801、12601
PIONEER	01701、02201、02301、03801、08601、09501、11301
SAMSUNG	00101、00301、00401、00901、01101、01201、02001、02601、03701、04701、07001、07401、07801、08901、09801、10501、10701
SANYO	01401、02001、02701、02901、04301、10201
SHARP	00301、01301、08301
SONY	00001、08301、11101、11601、12701、12901
TOSHIBA	00901、02001、02101、06601、07801、08301、10901、12101、12301、13001、13201
VICTOR	00701、03401、04801、05801、08301、08401、08701
YAMAHA	00301、01801、08301、10001、11001、13501、13601、13701、13801、14001、14101、14201

ビデオデッキ

FUNAI	00002
HITACHI	00002、00402、00602、00702、02002
LG	00402、00702、00902、02902
MITSUBISHI	00602、00802、01302、01502、03502
NEC	00302、00402、00602、01102、01302、01602
ORION	01702、02602、02702、04402
PANASONIC	00302、01802、01902、03102、03702、04502
PHILIPS	00302、01502、03202、03902、04002
PIONEER	00702、01302、01502
SAMSUNG	00902、02002、02802
SANYO	01002、01602、02002
SHARP	01102、03502
SONY	00002、00102、00202、00302、03302、04102
TOSHIBA	00602、00802、00902、01302、01502、03602
VICTOR	00602、00902 01302
YAMAHA	00602

ケーブルテレビチューナー

PANASONIC	00003、00203、00403
PHILIPS	01003、01103
PIONEER	00503、01603、01903
SAMSUNG	00003、00503
SONY	02103
TOSHIBA	00003

衛星放送チューナー

HITACHI	01404、02804
HUMAX	03404、05304
MITSUBISHI	02304
PANASONIC	00904、01904、03004、06504
PHILIPS	00204、00704、01404、02004、02204、02304、03104、04104、05104、06904
PIONEER	03104
SAMSUNG	03804、04604、06004、06204
SONY	01704、03004、06704
TOSHIBA	02304、02704、06904
VICTOR	02604

CD プレーヤー

DENON	01005
KENWOOD	00105、00405
MARANTZ	00205、00605
PANASONIC	00205
PHILIPS	00605
PIONEER	00305、00905
SANYO	00805
SHARP	00405
SONY	00005
VICTOR	00505
YAMAHA	01105、01205

CD レコーダー

MARANTZ	01305
YAMAHA	01405

DVD プレーヤー／レコーダー

DENON	00006
HITACHI	01106、01507、01906
KENWOOD	00006、00606
LG	02906
MARANTZ	00706
MITSUBISHI	00206
ONKYO	00106、04806
PANASONIC	00006、00007、00107、00207、01606、04206、05006
PHILIPS	00807
PIONEER	00406、00407、00507、00607、01006、01506、01606、05306
SAMSUNG	01106、04506
SANYO	02006
SHARP	01207、01307、01406
SONY	00506、00907、01007、01107、04006、05106
TOSHIBA	00106、00307、04606、04806、05406
VICTOR	00906、01306、01407
YAMAHA	00006、00706、00707、00806、04306、04406、04706

Blu-ray ／ HD DVD プレーヤー／レコーダー

ONKYO	04806
PANASONIC	05006
PIONEER	05306
SONY	05106
TOSHIBA	04806、05406

LD プレーヤー

PIONEER	00008
SONY	00208
YAMAHA	00308

MD レコーダー

KENWOOD	00109
ONKYO	00309
SHARP	00209
SONY	00009
YAMAHA	00409、00509、00609

チューナー

YAMAHA	00510、01410、03110、04810、05510、05610、05710、05810、05910、06010
YAMAHA (TUNER ID1)	04910
YAMAHA (TUNER ID2)	05010

テープデッキ

PHILIPS	00111
PIONEER	00011
SONY	00211
YAMAHA	00311、00411

その他の機器

YAMAHA (iPod)	05310
YAMAHA (NET)	05410

Information about software

This product uses the following software.
For information (copyright, etc) about each software, read the original sentences stated below.

■ About The Independent JPEG Group's JPEG software

The Independent JPEG Group's JPEG software

README for release 6b of 27-Mar-1998

This distribution contains the sixth public release of the Independent JPEG Group's free JPEG software. You are welcome to redistribute this software and to use it for any purpose, subject to the conditions under LEGAL ISSUES, below.

Serious users of this software (particularly those incorporating it into larger programs) should contact IJG at jpeg-info@uunet.uu.net to be added to our electronic mailing list. Mailing list members are notified of updates and have a chance to participate in technical discussions, etc.

This software is the work of Tom Lane, Philip Gladstone, Jim Boucher, Lee Crocker, Julian Minguillon, Luis Ortiz, George Phillips, Davide Rossi, Guido Vollbeding, Ge' Weijers, and other members of the Independent JPEG Group.

IJG is not affiliated with the official ISO JPEG standards committee.

DOCUMENTATION ROADMAP

This file contains the following sections:

OVERVIEW	General description of JPEG and the IJG software.
LEGAL ISSUES	Copyright, lack of warranty, terms of distribution.
REFERENCES	Where to learn more about JPEG.
ARCHIVE LOCATIONS	Where to find newer versions of this software.
RELATED SOFTWARE	Other stuff you should get.
FILE FORMAT WARS	Software *not* to get.
TO DO	Plans for future IJG releases.

Other documentation files in the distribution are:

User documentation:

install.doc	How to configure and install the IJG software.
usage.doc	Usage instructions for cjpeg, djpeg, jpegtran, rdjpgcom, and wrjpgcom.
*.1	Unix-style man pages for programs (same info as usage.doc).
wizard.doc	Advanced usage instructions for JPEG wizards only.
change.log	Version-to-version change highlights.

Programmer and internal documentation:

libjpeg.doc	How to use the JPEG library in your own programs.
example.c	Sample code for calling the JPEG library.
structure.doc	Overview of the JPEG library's internal structure.
filelist.doc	Road map of IJG files.
coderules.doc	Coding style rules --- please read if you contribute code.

Please read at least the files install.doc and usage.doc. Useful information can also be found in the JPEG FAQ (Frequently Asked Questions) article. See ARCHIVE LOCATIONS below to find out where to obtain the FAQ article.

If you want to understand how the JPEG code works, we suggest reading one or more of the REFERENCES, then looking at the documentation files (in roughly the order listed) before diving into the code.

OVERVIEW

This package contains C software to implement JPEG image compression and decompression. JPEG (pronounced "jay-peg") is a standardized compression method for full-color and gray-scale images. JPEG is intended for compressing "real-world" scenes; line drawings, cartoons and other non-realistic images are not its strong suit. JPEG is lossy, meaning that the output image is not exactly identical to the input image. Hence you must not use JPEG if you have to have identical output bits. However, on typical photographic images, very good compression levels can be obtained with no visible change, and remarkably high compression levels are possible if you can tolerate a low-quality image. For more details, see the references, or just experiment with various compression settings.

This software implements JPEG baseline, extended-sequential, and progressive compression processes. Provision is made for supporting all variants of these processes, although some uncommon parameter settings aren't implemented yet. For legal reasons, we are not distributing code for the arithmetic-coding variants of JPEG; see LEGAL ISSUES. We have made no provision for supporting the hierarchical or lossless processes defined in the standard.

We provide a set of library routines for reading and writing JPEG image files, plus two sample applications "cjpeg" and "djpeg", which use the library to perform conversion between JPEG and some other popular image file formats. The library is intended to be reused in other applications.

In order to support file conversion and viewing software, we have included considerable functionality beyond the bare JPEG coding/decoding capability; for example, the color quantization modules are not strictly part of JPEG decoding, but they are essential for output to colormapped file formats or colormapped displays. These extra functions can be compiled out of the library if not required for a particular application. We have also included "jpegtran", a utility for lossless transcoding between different JPEG processes, and "rdjpgcom" and "wrjpgcom", two simple applications for inserting and extracting textual comments in JFIF files.

The emphasis in designing this software has been on achieving portability and flexibility, while also making it fast enough to be useful. In particular, the software is not intended to be read as a tutorial on JPEG. (See the REFERENCES section for introductory material.) Rather, it is intended to be reliable, portable, industrial-strength code. We do not claim to have achieved that goal in every aspect of the software, but we strive for it.

We welcome the use of this software as a component of commercial products. No royalty is required, but we do ask for an acknowledgement in product documentation, as described under LEGAL ISSUES.

LEGAL ISSUES

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane.
All Rights Reserved except as specified below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:

(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.

(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".

(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA.

ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf. It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable. The same holds for its supporting scripts (config.guess, config.sub, ltconfig, ltmain.sh). Another support script, install-sh, is copyright by M.I.T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi. Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses. For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software. (Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.) So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files. To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed

altogether, and the GIF writer has been simplified to produce "uncompressed GIFs". This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that

"The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

REFERENCES

We highly recommend reading one or more of these references before trying to understand the innards of the JPEG software.

The best short technical introduction to the JPEG compression algorithm is
Wallace, Gregory K. "The JPEG Still Picture Compression Standard", Communications of the ACM, April 1991 (vol. 34 no. 4), pp. 30-44.

(Adjacent articles in that issue discuss MPEG motion picture compression, applications of JPEG, and related topics.) If you don't have the CACM issue handy, a PostScript file containing a revised version of Wallace's article is available at ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/wallace.ps.gz. The file (actually a preprint for an article that appeared in IEEE Trans. Consumer Electronics) omits the sample images that appeared in CACM, but it includes corrections and some added material. Note: the Wallace article is copyright ACM and IEEE, and it may not be used for commercial purposes.

A somewhat less technical, more leisurely introduction to JPEG can be found in "The Data Compression Book" by Mark Nelson and Jean-loup Gailly, published by M&T Books (New York), 2nd ed. 1996, ISBN 1-55851-434-1. This book provides good explanations and example C code for a multitude of compression methods including JPEG. It is an excellent source if you are comfortable reading C code but don't know much about data compression in general. The book's JPEG sample code is far from industrial-strength, but when you are ready to look at a full implementation, you've got one here...

The best full description of JPEG is the textbook "JPEG Still Image Data Compression Standard" by William B. Pennebaker and Joan L. Mitchell, published by Van Nostrand Reinhold, 1993, ISBN 0-442-01272-1. Price US$59.95, 638 pp.
The book includes the complete text of the ISO JPEG standards (DIS 10918-1 and draft DIS 10918-2). This is by far the most complete exposition of JPEG in existence, and we highly recommend it.

The JPEG standard itself is not available electronically; you must order a paper copy through ISO or ITU. (Unless you feel a need to own a certified official copy, we recommend buying the Pennebaker and Mitchell book instead; it's much cheaper and includes a great deal of useful explanatory material.)

In the USA, copies of the standard may be ordered from ANSI Sales at (212)642-4900, or from Global Engineering Documents at (800) 854-7179. (ANSI doesn't take credit card orders, but Global does.) It's not cheap: as of 1992, ANSI was charging $95 for Part 1 and $47 for Part 2, plus 7% shipping/handling. The standard is divided into two parts, Part 1 being the actual specification, while Part 2 covers compliance testing methods. Part 1 is titled "Digital Compression and Coding of Continuous-tone Still Images, Part 1: Requirements and guidelines" and has document numbers ISO/IEC IS 10918-1, ITU-T T.81. Part 2 is titled "Digital Compression and Coding of Continuous-tone Still Images, Part 2: Compliance testing" and has document numbers ISO/IEC IS 10918-2, ITU-T T.83.

Some extensions to the original JPEG standard are defined in JPEG Part 3, a newer ISO standard numbered ISO/IEC IS 10918-3 and ITU-T T.84. IJG currently does not support any Part 3 extensions.

The JPEG standard does not specify all details of an interchangeable file format. For the omitted details we follow the "JFIF" conventions, revision 1.02. A copy of the JFIF spec is available from:

Literature Department
C-Cube Microsystems, Inc.
1778 McCarthy Blvd.
Milpitas, CA 95035
phone (408) 944-6300, fax (408) 944-6314

A PostScript version of this document is available by FTP at ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/jfif.ps.gz. There is also a plain text version at ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/jfif.txt.gz, but it is missing the figures.

The TIFF 6.0 file format specification can be obtained by FTP from ftp://ftp.sgi.com/graphics/tiff/TIFF6.ps.gz. The JPEG incorporation scheme found in the TIFF 6.0 spec of 3-June-92 has a number of serious problems. IJG does not recommend use of the TIFF 6.0 design (TIFF Compression tag 6). Instead, we recommend the JPEG design proposed by TIFF Technical Note #2 (Compression tag 7). Copies of this Note can be obtained from ftp.sgi.com or from ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/. It is expected that the next revision of the TIFF spec will replace the 6.0 JPEG design with the Note's design. Although IJG's own code does not support TIFF/JPEG, the free libtiff library uses our library to implement TIFF/JPEG per the Note. libtiff is available from ftp://ftp.sgi.com/graphics/tiff/.

ARCHIVE LOCATIONS

The "official" archive site for this software is ftp.uu.net (Internet address 192.48.96.9). The most recent released version can always be found there in directory graphics/jpeg. This particular version will be archived as ftp://ftp.uu.net/graphics/jpeg/jpegsrc.v6b.tar.gz. If you don't have direct Internet access, UUNET's archives are also available via UUCP; contact help@uunet.uu.net for information on retrieving files that way.

Numerous Internet sites maintain copies of the UUNET files. However, only ftp.uu.net is guaranteed to have the latest official version.

You can also obtain this software in DOS-compatible "zip" archive format from the SimTel archives (ftp://ftp.simtel.net/pub/simtelnet/msdos/graphics/), or on CompuServe in the Graphics Support forum (GO CIS:GRAPHSUP), library 12 "JPEG Tools". Again, these versions may sometimes lag behind the ftp.uu.net release.

The JPEG FAQ (Frequently Asked Questions) article is a useful source of general information about JPEG. It is updated constantly and therefore is not included in this distribution. The FAQ is posted every two weeks to Usenet newsgroups comp.graphics.misc, news.answers, and other groups. It is available on the World Wide Web at http://www.faqs.org/faqs/jpeg-faq/ and other news.answers archive sites, including the official news.answers archive at rtfm.mit.edu: ftp://rtfm.mit.edu/pub/usenet/news.answers/jpeg-faq/.
If you don't have Web or FTP access, send e-mail to mail-server@rtfm.mit.edu with body

send usenet/news.answers/jpeg-faq/part1
send usenet/news.answers/jpeg-faq/part2

RELATED SOFTWARE

Numerous viewing and image manipulation programs now support JPEG. (Quite a few of them use this library to do so.) The JPEG FAQ described above lists some of the more popular free and shareware viewers, and tells where to obtain them on Internet.

If you are on a Unix machine, we highly recommend Jef Poskanzer's free PBMPLUS software, which provides many useful operations on PPM-format image files. In particular, it can convert PPM images to and from a wide range of other formats, thus making cjpeg/djpeg considerably more useful. The latest version is distributed by the NetPBM group, and is available from numerous sites, notably ftp://wuarchive.wustl.edu/graphics/graphics/packages/NetPBM/.
Unfortunately PBMPLUS/NETPBM is not nearly as portable as the IJG software is; you are likely to have difficulty making it work on any non-Unix machine.

A different free JPEG implementation, written by the PVRG group at Stanford, is available from ftp://havefun.stanford.edu/pub/jpeg/. This program is designed for research and experimentation rather than production use; it is slower, harder to use, and less portable than the IJG code, but it is easier to read and modify. Also, the PVRG code supports lossless JPEG, which we do not. (On the other hand, it doesn't do progressive JPEG.)

FILE FORMAT WARS

Some JPEG programs produce files that are not compatible with our library. The root of the problem is that the ISO JPEG committee failed to specify a concrete file format. Some vendors "filled in the blanks" on their own, creating proprietary formats that no one else could read. (For example, none of the early commercial JPEG implementations for the Macintosh were able to exchange compressed files.)

The file format we have adopted is called JFIF (see REFERENCES). This format has been agreed to by a number of major commercial JPEG vendors, and it has become the de facto standard. JFIF is a minimal or "low end" representation. We recommend the use of TIFF/JPEG (TIFF revision 6.0 as modified by TIFF Technical Note #2) for "high end" applications that need to record a lot of additional data about an image. TIFF/JPEG is fairly new and not yet widely supported, unfortunately.

The upcoming JPEG Part 3 standard defines a file format called SPIFF. SPIFF is interoperable with JFIF, in the sense that most JFIF decoders should be able to read the most common variant of SPIFF. SPIFF has some technical advantages over JFIF, but its major claim to fame is simply that it is an official standard rather than an informal one. At this point it is unclear whether SPIFF will supersede JFIF or whether JFIF will remain the de-facto standard. IJG intends to support SPIFF once the standard is frozen, but we have not decided whether it should become our default output format or not. (In any case, our decoder will remain capable of reading JFIF indefinitely.)

Various proprietary file formats incorporating JPEG compression also exist. We have little or no sympathy for the existence of these formats. Indeed, one of the original reasons for developing this free software was to help force convergence on common, open format standards for JPEG files. Don't use a proprietary file format!

TO DO

The major thrust for v7 will probably be improvement of visual quality. The current method for scaling the quantization tables is known not to be very good at low Q values. We also intend to investigate block boundary smoothing, "poor man's variable quantization", and other means of improving quality-vs-file-size performance without sacrificing compatibility.

In future versions, we are considering supporting some of the upcoming JPEG Part 3 extensions --- principally, variable quantization and the SPIFF file format.
As always, speeding things up is of great interest.
Please send bug reports, offers of help, etc. to jpeg-info@uunet.uu.net.

■ About PNG Reference Library

libpng versions 1.2.6, August 15, 2004, through 1.2.29, May 8, 2008, are Copyright (c) 2004, 2006-2008 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors

Simon-Pierre Cadieux
Eric S. Raymond
Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:

There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.

libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are Copyright (c) 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane
Glenn Randers-Pehrson
Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler
Kevin Bracey
Sam Bushell
Magnus Holmgren
Greg Roelofs
Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, “Contributing Authors” is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.

■ About zlib Library

Copyright notice:
(C) 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly　　Mark Adler
jloup@gzip.org　　madler@alumni.caltech.edu

If you use the zlib library in a product, we would appreciate *not* receiving lengthy legal documents to sign. The sources are provided for free but without warranty of any kind. The library has been entirely written by Jean-loup Gailly and Mark Adler; it does not include third-party code.

If you redistribute modified sources, we would appreciate that you include in the file ChangeLog history information documenting your changes. Please read the FAQ for more information on the distribution of modified source versions.

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター



0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

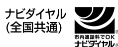
携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター



0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAX (053) 463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、
一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する
部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

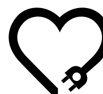
● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

Printed in Malaysia　WP55250

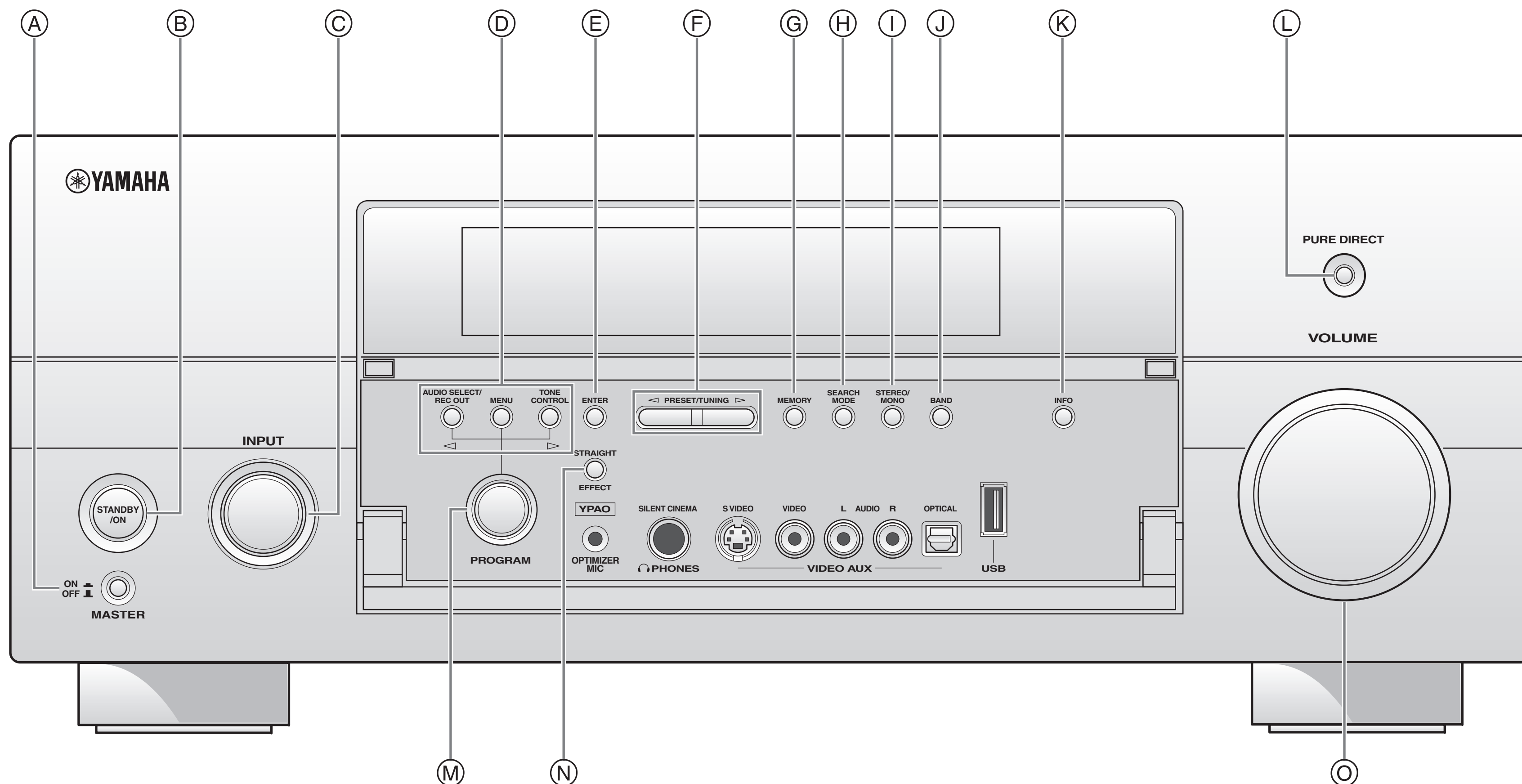
YAMAHA

J

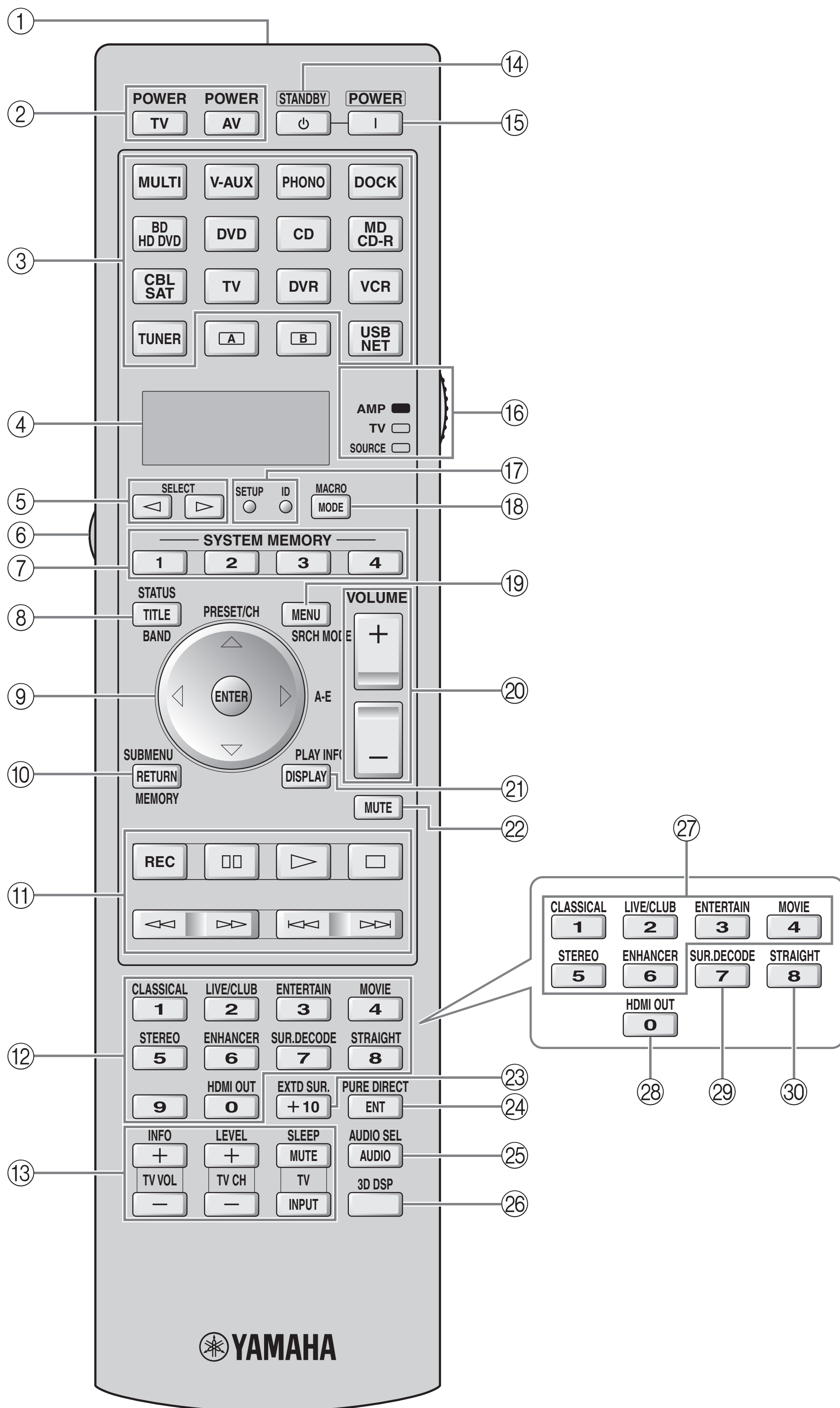
DSP-AX3900 操作パネル図

イラストに記載されている数字やアルファベットは、取扱説明書中のキーなどに付記されている数字やアルファベットに対応しています。

■ フロントパネル



■ リモコン



YAMAHA CORPORATION
Printed in Malaysia WP55360